㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第233集

柴崎熊野前遺跡

県立高崎高等養護学校建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
群　馬　県　教　育　委　員　会

㈶群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第233集

SHIBASAKIKUMANOMAE

柴崎熊野前遺跡

県立高崎高等養護学校建設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

1998

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
群　馬　県　教　育　委　員　会

23号溝出土土製品

23号溝出土土製品(後方より)

貨泉(表)

貨泉(裏)

23号溝出土石製品

23号溝木製品出土状況

序

群馬県教育委員会では、平成８年度に高崎と前橋両市に知的障害児教育のための高等養護学校建設を計画しました。このうち、高崎市柴崎町にある柴崎熊野前遺跡は、この学校建設に先立つ試掘で発見されたものです。調査は県教育委員会管理課からの委託で、当群馬県埋蔵文化財調査事業団が担当し、現地での発掘調査は平成８年４月から６月までの３ヶ月間、整理と報告書作成作業が平成９年10月から６ヶ月間行われました。

遺構としては、微高地となっている現在の畑地部分に、平安時代の竪穴住居をはじめとした集落が、また、現在の水田部分に、遺構としての水田が発見され、その他にも、近世の畑、中世の大溝などの遺構が、土師器、須恵器、陶磁器など大量の遺物とともに調査されました。

この埋蔵文化財調査の成果が出版される機会に、これまでお世話になった群馬県教育委員会管理課、同文化財保護課、高崎市教育委員会には深甚の謝意を表し、本報告書の出版が地域の歴史理解の一助となることを心から希望いたします。

平成10年３月

財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長　小寺弘之

例言

1　本書は、県立高崎高等養護学校建設に伴う、「柴崎熊野前遺跡」の発掘調査報告書である。柴崎熊野前遺跡の名称については、遺跡所在地の町名と字名をとり併せたものである。

2　本遺跡は群馬県高崎市柴崎町1839-1、1839-2、1841、1901、1902、1903、1903-1、1903-2、1904、1905、1906、1909-1、1909-2、1910番地に所在する。

3　事業主体　群馬県教育委員会

4　調査主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

5　調査期間　平成8年4月1日～平成8年6月28日

6　調査組織　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

常務理事　菅野　清
事務局長　原田恒弘
管理部長　蜂巣　実
調査研究第2部長　神保侑史
総務課長　小渕　淳
調査研究第5課長　佐藤明人
事務担当　国定　均　笠原秀樹　須田朋子　宮崎忠司　吉田有光　柳岡良宏　大澤友治　今井もと子　吉田恵子　松井美智代　内山佳子　星野美智子　羽鳥京子　菅原淑子　若田　誠
調査担当　高井佳弘（専門員）　廣津英一（専門員）　岩崎琢郎（調査研究員）

7　整理主体　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

8　整理期間　平成9年10月1日～平成10年3月31日

9　整理組織　財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団

常務理事　菅野　清
事務局長　原田恒弘
副事務局長　赤山容造
管理部長　渡辺　健
総務課長　小渕　淳
調査研究第1課長　平野進一
事務担当　笠原秀樹　須田朋子　宮崎忠司　井上　剛　吉田有光　柳岡良宏　岡嶋伸昌　大澤友治　並木綾子　今井もと子　吉田恵子　内山佳子　星野美智子　羽鳥京子　若田　誠　佐藤美佐子　本間久美子　北原かおり　安藤友美
整理担当　廣津英一（専門員）
整理補助　武永いち　高田栄子　掛川智子　飯田和子　永井里佳　鶴岡真希子　都丸美奈子

11　遺構写真撮影者　発掘調査担当者　（空撮）技研測量設計株式会社

12　遺物写真撮影者　佐藤元彦（主任技師）

13　分析・委託　石材鑑定　群馬地質研究会　飯島静男

テフラ、植物珪酸体、花粉分析　株式会社古環境研究所

遺構図測量　株式会社測研

トレース　技研測量設計株式会社

樹種同定　株式会社パレオ・ラボ

獣骨・人骨鑑定　群馬県立大間々高等学校教諭　宮崎重雄

14　木製品保存処理　関邦一（主任技師）

15　出土遺物及び柴崎熊野前遺跡に関する整理済みの記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターに保管してある。

16　発掘調査及び本書の作成にあたっては、次の方々にご教示、ご指導をいただいた。記して深甚なる感謝の意を表す次第である。

高崎市教育委員会、東京都立大学人文学部考古学研究室　山田昌久

凡例

1　挿図中に使用した方位は、座標北を表している。座標系は、国家座標第IX系である。

2　遺構断面実測図、等高線に記した数値は標高を表し、単位は、mを用いた。

3　遺構・遺物実測図の縮尺率は、原則として下記のとおりとし、各図にスケールを入れた。

遺構　竪穴住居1：60　カマド1：30　土坑1：40　水田1：200

その他の遺構については、逐一縮尺率を示した。

遺物　土器1：3　石器1：1　木器1：3　古銭1：1

同一実測図中に縮尺率の異なる図を併載した場合は、図右下に各々縮尺率を記載した。

4　写真図版の縮尺率は遺物図の縮尺率とは必ずしも一致しない。

5　本書では、テフラの呼称として下記の語を用いる。

浅間A軽石→As－A　　榛名二ツ岳伊香保テフラ→Hr－FPあるいはFP

浅間B軽石→As－B　　榛名二ツ岳渋川テフラ　→Hr－FAあるいはFA

浅間C軽石→As－C

6　本書の図版に使用したスクリーントーンは、次の事を示す。また、下記以外のものについては各図版毎に凡例を掲げた。

(1)遺構図スクリーントーン

焼土・焼土層

灰・灰層

炭化物

As－A

As－B

As－C

(2)遺物図スクリーントーン

赤色塗彩

7　竪穴住居跡の床面積については、プラニメーターで3回計測した平均値を採用した。

8　本書で掲載した地図は、下記のものを使用した。

国土地理院　地形図　1/25,000　「高崎」　　地勢図　1/200,000　「長野」「宇都宮」

高崎市都市計画図　1/2,500　「№33」「№40」

9　遺物観察表の記載方法は、次のとおりである。

(1)胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理学研究会による基準に従い、細砂粒（　＜0.5mm）、粗砂粒（0.5mm～2.0mm）、細粒（2.0mm～5.0mm）、中礫（5.0mm＞　）とした。

(2)色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人　日本色彩研究所　色票監修「新版標準土色帳」に従った。また、ガラス小玉の色調は、尚学図書編集「色の手帳」小学館1987に拠った。

目次

口絵
序
例言
凡例
目次
挿図目次・自然科学分析目次
写真図版目次
報告書抄録
第１章　調査の経過と方法 …… 3
　第１節　調査に至る経緯 …… 3
　第２節　調査の経過 …… 4
　第３節　調査の方法 …… 5
第２章　地理的環境及び歴史的環境 …… 6
　第１節　地理的環境 …… 6
　第２節　歴史的環境 …… 6
　第３節　基本土層 …… １２
第３章　遺構と遺物 …… １３
　第１節　調査の概要 …… １３
　第２節　遺構と遺物 …… １３
　　１、住居 …… １３
　　２、水田 …… １４
　　３、畠・灰掻き穴 …… １４
　　４、土坑 …… １５
　　５、溝 …… １６
　　６、自然流路 …… １９
　　７、遺構外遺物 …… １９
第４章　まとめ …… ２０

遺構図 …… ２１
遺物実測図 …… ５５
遺物観察表 …… ８３
自然科学分析 …… １０１
写真図版 …… １２３

付図　遺構全体平面図

挿図目次

図1　柴崎熊野前遺跡位置図（1:200,000）　（2）
図2　柴崎熊野前遺跡位置図（1:50,000）　（3）
図3　柴崎熊野前遺跡調査範囲図（1:5,000）　（4）
図4　柴崎熊野前遺跡グリッド設定図　（5）
図5　柴崎熊野前遺跡周辺地形分類図（1:25,000）　（8）
図6　柴崎熊野前遺跡周辺遺跡図（1:25,000）　（9）
図7　柴崎熊野前遺跡土層柱状図（1:20）　（12）
図8　住居位置図　（23）
図9　1号住居　（24）
図10　2号住居　（25）
図11　3号住居　（26）
図12　水田全体図　（27）
図13　1号畦　（28）
図14　2号畦　（29）
図15　3号畦　（29）
図16　畠位置図　（30）
図17　灰撒き穴位置図　（30）
図18　畠　（31）
図19　灰撒き穴　（32）
図20　土坑位置図①Ⅰ面　（33）
図21　土坑位置図②Ⅰ面　（33）
図22　土坑位置図③Ⅰ面　（34）
図23　土坑位置図④Ⅱ面　（34）
図24　1・2・3・4・28・29号土坑　（35）
図25　5・6・7・11号土坑　（36）
図26　12・13・14・15・16・25号土坑　（37）
図27　17・18・19・20・21・22号土坑　（38）
図28　23・26・30号土坑　（39）
図29　溝全体図Ⅰ面（1～21号）　（40）
図30　1～6号溝　折り込み
図31　7～11号溝　（43）
図32　12・13号溝　（44）
図33　14～21号溝　折り込み
図34　溝全体図Ⅱ面（24～28号）・トレンチ位置図　（47）
図35　24・25・28号溝土層断面図　（48）
図36　24・25・26・27・28号溝　（49）
図37　22・23号溝全体図　（50）
図38　22号溝遺物出土位置図・土層断面図　折り込み
図39　23号溝遺物出土位置図・土層断面図　折り込み
図40　1号住居出土遺物　（57）
図41　2号住居出土遺物（1）　（58）
図42　2号住居出土遺物（2）　（59）
図43　3号住居、1・12・21・22・30号土坑出土遺物、遺構外遺物　（60）
図44　4・7・8・10・13号溝出土遺物　（61）
図45　13・18・20号溝出土遺物　（62）
図46　24号溝出土遺物　（63）
図47　25号溝出土遺物　（64）
図48　22号溝出土遺物（1）　（65）
図49　22号溝出土遺物（2）　（66）
図50　23号溝東側出土遺物（1）　（67）
図51　23号溝東側出土遺物（2）　（68）
図52　23号溝東側出土遺物（3）　（69）
図53　23号溝東側出土遺物（4）　（70）
図54　23号溝東側出土遺物（5）　（71）
図55　23号溝西側出土遺物（1）　（72）
図56　23号溝西側出土遺物（2）　（73）
図57　23号溝西側出土遺物　木製品　（74）
図58　23号溝東側出土遺物　石製品（1）　（75）
図59　23号溝東側出土遺物　石製品（2）　（76）
図60　23号溝東側出土遺物　石製品（3）　（77）
図61　23号溝東側出土遺物　石製品（4）　（78）
図62　23号溝東側出土遺物　石製品（5）　（79）
図63　23号溝東側出土遺物　石製品（6）　（80）
図64　23号溝東側出土遺物　石製品（7）　（81）
図65　23号溝東側出土遺物　石製品（8）、ガラス製品　（82）

自然科学分析目次

Ⅰ．柴崎熊野前遺跡の土層とテフラ　（101）

表1　柴崎熊野前遺跡のテフラ検出分析結果　（103）
図1　自然科学分析試料採集位置図　（104）
図2　第1地点の土層柱状図　（105）
図3　第4地点の土層柱状図　（105）
図4　第5地点の土層柱状図　（105）
図5　第7地点（11号土坑）の土層柱状図　（105）
図6　第8地点の土層柱状図　（105）
図7　第11地点の土層柱状図　（105）

Ⅱ．柴崎熊野前遺跡における花粉分析　（106）

表1　柴崎熊野前遺跡における花粉分析結果　（108）
図1　柴崎熊野前遺跡第11地点における花粉組成図　（109）
図版　柴崎熊野前遺跡の花粉・胞子遺体　（110）

Ⅲ．柴崎熊野前遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析　（111）

表1　柴崎熊野前遺跡における
プラント・オパール分析結果　（113）
表2　柴崎熊野前遺跡における
プラント・オパール分析結果　（113）
図1　柴崎熊野前遺跡Ar-B直下層における
プラント・オパール分析結果　（114）
図2　柴崎熊野前遺跡第4地点における
プラント・オパール分析結果　（114）
図3　柴崎熊野前遺跡第7地点（11号土坑）における
プラント・オパール分析結果　（114）
図4　柴崎熊野前遺跡第11地点における
プラント・オパール分析結果　（115）
図版1　植物珪酸体の顕微鏡写真（1）　（116）
図版2　植物珪酸体の顕微鏡写真（2）　（117）

Ⅳ．柴崎熊野前遺跡の7号火葬土壙から出土した炭化材　（118）

図版　柴崎熊野前遺跡の7号火葬土壙の炭化材　（119）

Ⅴ．柴崎熊野前遺跡出土木製品の樹種同定　（120）

表1　柴崎熊野前遺跡の樹種同定結果　（121）
図1　大足の部位別樹種同定結果　（121）
図版　柴崎熊野前遺跡出土木材顕微鏡写真　（122）

写真図版目次

ＰＬ１
調査区より北を望む
調査区より西を望む
調査区より東を望む
ＰＬ２
遺跡全景
ＰＬ３
１号住居遺物出土状況（西より）
１号住居全景（南より）
１号住居掘り方（西より）
１号住居竈（西より）
１号住居貯蔵穴遺物出土状況（西より）
ＰＬ４
２号住居全景（西より）
２号住居遺物出土状況（西より）
２号住居遺物出土状況（南東より）
２号住居掘り方（西より）
２号住居土層断面（南より）
ＰＬ５
３号住居全景（西より）
３号住居遺物出土状況（南より）
３号住居掘り方（西より）
３号住居竈（西より）
３号住居竈掘り方（西より）
ＰＬ６
２号畦（西より）
３号畦（西より）
ＰＬ７
畠（北西より）
灰撒き穴（東より）
ＰＬ８
１号土坑（西より）
２号土坑（北より）
７号土坑配石状況（東より）
28・29号土坑（西より）
４号土坑（北東より）
ＰＬ９
11号土坑（南より）
12号土坑（西より）
15号土坑（西より）
14号土坑（南東より）
26号土坑（南より）
16号土坑（南より）
17号土坑（南より）
18号土坑（南より）
ＰＬ10
21号土坑（南より）
22号土坑（西より）
23号土坑（北より）
30号土坑（南より）
30号土坑遺物出土状況（南より）
ＰＬ11
１・２号溝（西より）
３号溝（北より）
３・４号溝（西より）
４号溝土層断面（南東より）
８・10号溝土層断面（西より）
ＰＬ12
12号溝（南より）
14・15・16号溝（南より）
17・18号溝（南より）
貫東出土状況（西より）
19・20号溝（南より）
24・25号溝（南より）
24・25号溝（南東より）
25号溝土層断面（南より）
ＰＬ13
23号溝全景（北東より）
22・23号溝（東より）
22号溝全景（南西より）
ＰＬ14
22号溝遺物出土状況（南東より）
22号溝遺物出土状況（北より）
22号溝石台出土状況（東より）
22号溝完掘状態（北より）
22号溝土層断面（北より）
ＰＬ15
23号溝西側遺物出土状況（北より）
23号溝南東側遺物出土状況（東より）
ＰＬ16
23号溝北西側木製品出土状況（東より）
23号溝北東側勾玉出土状況（南より）
23号溝北東側管玉出土状況（南より）
23号溝東側土器出土状況（北より）
23号溝東側土器出土状況（西より）
ＰＬ17
１号住居出土遺物
ＰＬ18
２号住居出土遺物（１）
ＰＬ19
２号住居出土遺物（２）
３号住居出土遺物
４号溝出土遺物
ＰＬ20
７号溝出土遺物
８号溝出土遺物
10号溝出土遺物
13号溝出土遺物
18号溝出土遺物
20号溝出土遺物
24号溝出土遺物（１）
ＰＬ21
24号溝出土遺物（２）
25号溝出土遺物
ＰＬ22
22号溝出土遺物（１）
ＰＬ23
22号溝出土遺物（２）
23号溝東側出土遺物（１）
ＰＬ24
23号溝東側出土遺物（２）
ＰＬ25
23号溝東側出土遺物（３）
ＰＬ26
23号溝東側出土遺物（４）
ＰＬ27
23号溝東側出土遺物（５）
ＰＬ28
23号溝東側出土遺物（６）
ＰＬ29
23号溝西側出土遺物（１）
ＰＬ30
23号溝西側出土遺物（２）
ＰＬ31
23号溝西側出土遺物　木製品
土坑出土遺物（１）・（２）
遺構外出土遺物
ＰＬ32
23号溝東側出土遺物　石製品（１）
ＰＬ33
23号溝東側出土遺物　石製品（２）
ＰＬ34
23号溝東側出土遺物　石製品（３）
ＰＬ35
23号溝東側出土遺物　石製品（４）、ガラス製品
ＰＬ36
23号溝東側出土遺物　石製品（５）

報告書抄録

ふりがな	しばさきくまのまえ
書名	柴崎熊野前遺跡
副書名	県立高崎高等養護学校建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第２３３集
編著者名	廣津英一
編集機関	財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	〒377-8555　群馬県勢多郡北橘村大字下箱田 784-2　TEL　0279-52-2511
発行年月日	西暦 1998 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
柴崎熊野前 しばさきくまのまえ	高崎市柴崎町 たかさきししばさきまち	10202		36′ 18′ 30″	139′ 03′ 45″	19960401～19960628	6,283	学校建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柴崎熊野前		古墳時代前期 中期	遺物集中自然流路	古式土師器、石製品、木製品、ガラス小玉	As-C降下後の遺物の流れ込み
		古墳時代～古代	溝 9 土坑 2	土師器、須恵器	
	住居	平安時代 （10 世紀）	竪穴住居 3	土師器、須恵器 土錘、瓦	
	生産	平安時代	水田		As-B直下遺構
	住居	中世	溝 11 土坑 18	陶器、磁器、須恵器、土師器	中世屋敷跡に関連する区画溝
	墓	中世	火葬土壙 1		
	生産	近世	畠 1、灰掻き穴群 1 溝 3、土坑 3	陶磁器	As-A降下後の遺構
	生産	近代 時期不詳	溝 3 土坑 2	陶磁器、桟瓦	

柴崎熊野前遺跡

本文編

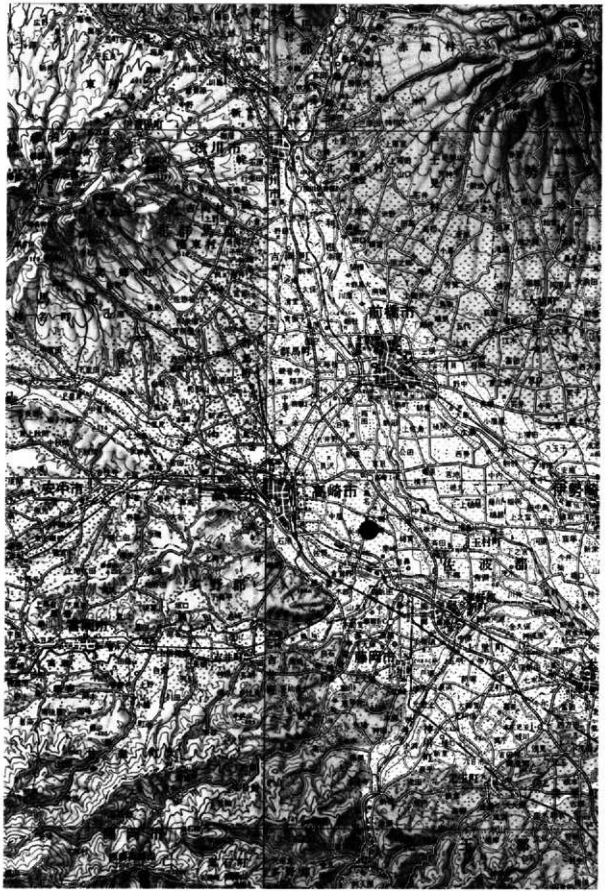


図1　　柴崎熊野前遺跡位置図（1：200,000）

第１章　調査の経過と方法

第１節　調査に至る経緯

群馬県教育委員会では、県内の知的障害児教育の充実を図るため、平成８年度に前橋・高崎の両市に高等養護学校の新設事業を計画することとなった。高崎市に設置される高崎高等養護学校については、平成７年５月、本事業の主管課である県教育委員会管理部管理課から県教員委員会文化スポーツ部文化財保護課に事業紹介があり、両課の間で建設工事と埋蔵文化財保護に関する調整のための協議が始まった。

・・・・・試掘実施までの経過・・・・・

平成７年７月、文化財保護課は事業地内にトレンチ試掘調査を実施した。試掘の結果、敷地内（総面積29,102㎡）東部の現況畑地部には集落の存在が確認され、西部の現況水田部については、平安時代の水田跡の存在が想定された。平成８年１月８日県教育委員会管理課、及び文化財保護課、財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の３者による事業地内の記録保存のための埋蔵文化財発掘調査と建設工事計画との調整のための協議が行われた。この結果、事業団が県教育委員会から委託を受け、平成９年４月の開校予定に向けた工事日程との調整結果に従い、平成８年４月から６月までの３ヶ月の予定で発掘調査を実施することとなった。発掘調査区域は、事業地内のうち学校施設の建設により地下の埋蔵文化財に影響を及ぼす学校校舎の建設区域とその建物周り、面積6,283㎡とした。校舎は管理教室棟、教室棟、体育館、実習棟からなる木造平屋、一部２階建で、延べ面積4,872㎡である。以上の経過を経て柴崎熊野前遺跡の発掘調査は平成９年４月に着手となった。

図２　柴崎熊野前遺跡位置図（１：50,000）

第２節　調査の経過

本遺跡の調査は、平成８年４月１日から調査準備に入り、４月９日より本格的に調査を開始した。

当初、調査区南東部から始める予定であったが、南側での農道工事のため、北側からの調査となった。

４月には、上記の南側工事部分を除いて、調査区全域の表土を重機により掘削し、遺構確認作業を実施した。近年の圃場整備により大部分が削平され遺構の残りはよくなかった。調査は、遺構確認の後、北側より行い、近世の畠、中世の大溝、平安時代の水田等を検出、調査した。

５月上旬、南側の工事も終了し、第一面全域の調査を実施した。南東隅の微高地上で平安時代の住居３軒と溝数条を検出、調査した。また、上記の大溝については、その延長部分に２本のトレンチを入れて大溝の範囲を調査した。

５月下旬、水田跡下面の調査として、東西と南北に畦を切るような形にトレンチを入れたが、遺構は確認されなかった。しかし、南西部で検出された自然流路跡の縁辺部より多量の土器片が確認された。

６月上旬、上記の自然流路跡の拡張を決め、さらに南側を重機により掘削し、流路範囲と土器の検出を開始した。流路跡は南に下がるにつれて広くなり沼状を呈し、土器量も多く、石製品も多く確認された。６月中旬、北側の調査終了した地点より埋め戻しを開始した。南西部では、土器検出、流路跡の実測等調査を続けた。

６月２８日、調査及び、埋め戻し共に終了した。

整理作業については、平成９年10月から６ヶ月の計画で実施した。

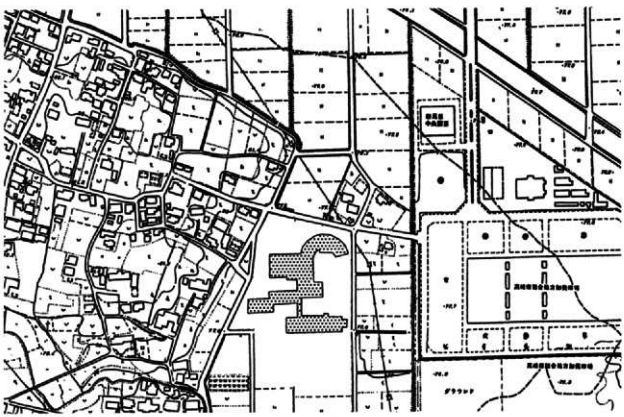


図３　柴崎熊野前遺跡調査範囲図（１：5,000）

第3節　調査の方法

調査対象地区は、井野川沖積地の低地部と一部微高地にかけて立地する高等養護学校の校舎建設予定地である。調査面積は、校舎建設予定部分の6,283㎡である(図3参照)。

今回の調査方法の概要は以下のとおりである。

(1) 表土掘削には、調査の効率を図るため、掘削機械を利用した。

(2) グリッドの設定(図4参照)は、日本平面直角座標(国家座標)を基準に4m方眼を設定し、南東隅をグリッド起点とした。X軸は南から北へアルファベットで、Y軸は東から西へ算用数字で呼称した。基準点(AA-00)は、X=+34500.0、Y=−69100.0である。

(3) 遺構名称は種別ごとに、それぞれ通し番号を付した。遺物の取り上げに際しては、遺構単位、グリッド単位を基本とし、原位置をとどめる物については、その都度番号を付し、図面上に記録した。

(4) 遺構等の測量については、平板測量を用い、1/10、1/20、1/40縮尺図を作成した。

(5) 写真撮影には、35mm版と6×7インチ版カメラのモノクロとリバーサルフィルムを使用した。撮影対象に応じては、高所撮影用エレベーターシステム及び高所作業車を使用し、またはバルーンによる空中撮影を行った。

(6) 本遺跡の調査では、自然科学分析を行い、分析結果を巻末に掲載した(101〜122p)。自然科学分析は、テフラ分析、花粉分析、プラント・オパール分析、炭化材同定、樹種同定の5項目である。

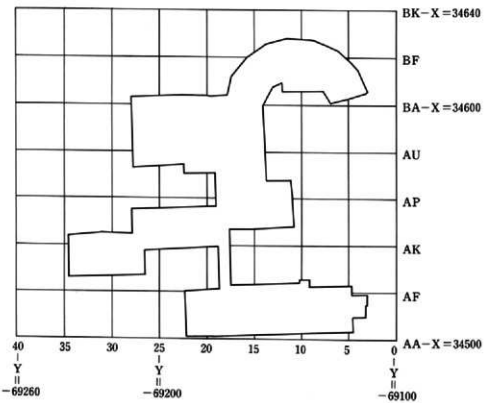


図4　柴崎熊野前遺跡グリッド設定図

第２章　地理的環境及び歴史的環境

第１節　地理的環境

柴崎熊野前遺跡は、高崎市柴崎町に所在する。高崎市は、関東平野の北西部にあり、北東に赤城山、北西に榛名山を望む利根川流域に広がる沖積平野から榛名山南東麓にかけて位置する。当市の地形は低平な台地と沖積低地、および丘陵地からなる。関東平野の一角に当たる低平な台地が中央部から東部一帯に広がり、市街地もこの台地上にある。北西部から南東部へ烏川が貫流し、西部を碓氷川、南部を鏑川、東北部を井野川が流れて烏川に注ぐ。それぞれの流域には沖積地が形成されている。

上記の低平な台地は「前橋台地」と言われ、約２万年前の浅間山起源の泥流堆積物によって形成されたものである。泥流堆積物は扇状地礫層の上に厚く堆積しているため傾斜の緩やかな平野地形を形成する原因ともなった。そして、榛名山麓や赤城山麓から流れ出す幾つもの大小の河川が前橋台地上を開析し、土砂を運び現在の地形を形作ったのである。

高崎市は、古くから群馬県における水上、陸上を通しての交通の要所である。現在、その市街地よりＪＲ高崎線、国道17号線(旧中山道)が南東に走っている。ＪＲ高崎線、国道17号線沿いには倉賀野町や下之条町があり大規模な工業団地が造成されている。遺跡の所在する柴崎町はその北に位置していて、市街地の東南東に当たる。柴崎町はそうした交通の要地とは言えなかったが、中央を長野堰等の用水が通る開けた土地であった。

柴崎熊野前遺跡は柴崎町の南部、高崎市の市街地より東南東約４kmほどのところに位置する。南に烏川が、東に井野川が流れ、本遺跡の南東約５kmのあたりで合流している。本遺跡は両河川に挟まれた位置であり、前橋台地上に井野川が形成した沖積地である。その沖積地は現在、井野川が流れているところを含めて約１kmの幅がある。図５に示すとおり、そこに低位と高位の段丘を形成している。高位段丘(図５の斜線部)は、北西から南東に帯状に発達している。下大類町・綿貫町に当たる部分である。現在、高崎市総合卸売市場の建っている部分(下大類遺跡)が中州状の微高地になっている。さらに中小の河川が流れることにより地形を複雑にしている。

当遺跡の西側には低丘陵(図５の横線部)が北西から南東に延びている。柴崎町・栗崎町・台新田町に当たる部分である。標高は80～83mであり、当遺跡の調査区の標高、北側の77m、南側の76mと比較しても、その比高差は３～５ｍほどある。この低丘陵が井野川の氾濫原の西隙である。当遺跡は、井野川の形成した沖積地の低地部と一部中州状の微高地にかけて立地しているのである。

現在(1997年)、この地には高等黄護学校が建ち、西の低丘陵には住宅地があり、東の微高地には高崎市総合卸売市場が建っている。近年は市街地の広がりにより、住宅地の建設や工業団地の建設が行われ、西からの開発が進んでいる。

第２節　歴史的環境

縄文時代の遺跡は、中期後半において多くなる。烏川、井野川の段丘上において集落等が検出されている。烏川左岸段丘上にある倉賀野万福寺遺跡、倉賀野万福寺Ⅱ遺跡では、中期後半の住居跡が検出されている。また井野川右岸段丘上の山鳥・天神遺跡、万相寺遺跡においても中期以降の住居跡が調査されている。本遺跡の西側の低丘陵上の柴崎村間遺跡では前期後半の諸磯Ｂ式の遺物を伴う土坑が検出されているが、現在のところ縄文時代の遺構が確認されているのは本遺跡周辺では烏川、井野川の川沿いの段丘面のみである。

弥生時代の遺跡については、中期後半以降その数を増してくる。烏川、井野川流域の川沿いの段丘上において集落や方形周溝墓等が検出されている。

井野川左岸河岸段丘上に位置する鈴ノ宮遺跡にお

いては後期の住居跡26軒、方形周溝墓７基、壺棺墓１基が調査されている。そのすぐ南側には元島名遺跡があり、同じく住居跡を検出している。その対岸、井野川右岸には万相寺遺跡があり、後期の住居跡12軒を検出している。すぐ南側には高崎情報団地遺跡において住居跡や方形周溝墓等が調査されている。

古墳時代の遺跡は、縄文時代、弥生時代に比較してその数を大幅に増してくる。特に前期の遺跡としては井野川流域の調査例が多い。前期古墳として、井野川左岸の前方後方墳である元島名将軍塚古墳がある。その北側にある鈴ノ宮遺跡からは住居跡や前方後方型周溝墓が検出されている。その対岸の高崎情報団地遺跡では、集落跡が検出されている。

本遺跡のすぐ西の低丘陵上にあった柴崎蟹沢古墳はこの時期の古墳である。「正始元年銘三角縁神獣鏡」をはじめ計４面の鏡を出土したと言われる。この古墳の墳丘は既に削平されており、墳形や規模や位置等不明な点が多い。その同じ低丘陵上の300mほど南には砂内遺跡があり、円墳３基の周溝が検出され、さらに200mほど南には、矢中村東遺跡群があり、方形周溝墓群が調査されている。村東Ａ遺跡では方形周溝墓２基、村東Ｂ遺跡では前方後方形の周溝墓１基と方形周溝墓２基、村東Ｃ遺跡では方形周溝墓10基と周溝墓１基が検出されている。また、西側の西浦・隼人・吹手西遺跡からも方形周溝墓４基が検出されている。この低丘陵は墳墓域を形成していると考えられる。同低丘陵の北側の低地部にある柴崎遺跡群・南大類遺跡群では、古式土師器を出土した溝跡が検出され、この溝跡は一部で水溜め施設状を呈する。この低地部は生産域と想定される。本遺跡の南西約３kmに位置する烏川左岸段丘上の倉賀野万福寺遺跡、倉賀野万福寺Ⅱ遺跡では住居跡や方形・円形周溝墓や円墳が検出されている。特にこの遺跡には周溝を含め一辺が30mを越す方形周溝墓や墳丘径20mを越す円墳が検出されている。

本遺跡周辺の古墳文化は、井野川の河岸段丘上、烏川の河岸段丘上に定着し、井野川下流域や台地中心部に展開していく。

この後の古墳としては、中期では烏川左岸段丘上の倉賀野浅間古墳、井野川下流右岸段丘の普賢寺裏古墳、不動山古墳、岩鼻二子山といった前方後円墳があり、高崎情報団地遺跡で検出された帆立貝式古墳４基はこの時期の古墳である。後期古墳としては井野川下流右岸段丘の観音山古墳がある。

本遺跡周辺での古墳時代の生産遺跡検出は少ないが、西横手遺跡群、宿横手三婆川遺跡、上滝榎町遺跡などの井野川左岸の低地部ではAs-C下、椽名二ツ岳の噴火に伴う泥流下の水田跡が検出されている。

平安時代の遺跡は、高崎市内で多くの検出例がある。本遺跡のすぐ東側の下大類遺跡、西側の宝昌寺裏遺跡、矢中村北Ｂ遺跡、柴崎前遺跡、殿谷戸・旭・富士塚Ｃ・隼人・吹手・峯岸遺跡、西浦・吹手西遺跡、柴崎遺跡群・南大類遺跡群などでは、住居跡や井戸跡等が検出されている。いずれも帯状の微高地上や低丘陵上である。また、浅間Ｂ軽石に埋没した水田跡や大型水路跡、溝跡等が低地部から多数検出されている。

中世の遺跡としては、本遺跡周辺に大小の城館跡や環濠宅地跡がある。最近の調査からも微高地上に堀跡や掘立柱建物跡などが多数検出されている。代表的な城館としては、本遺跡の北に位置する井野川右岸の大類城と大類館、そして左岸の段丘上にある元島名城と元島名内出がある。これらの城館跡も部分的にではあるが発掘調査されている。堀や掘立柱建物跡、井戸跡等が検出されている。南には、烏川左岸に位置する倉賀野城や倉賀野西城、倉賀野東城等がある。また、本遺跡すぐ西の低丘陵には、現在も土塁・堀等が良く残っている大下屋敷や柴崎桜井屋敷、高井屋敷等がある。本遺跡の西の矢中地区には「矢中七騎の遺跡」で知られる地方武士の居館がある。近年、この地からは「矢中七騎」の屋敷跡等が検出されている。また中世において長野氏が開削したと言われる長野堰が、高崎市北西部から南東に流れている。この長野堰は、台地上の潅漑を目的としたものではあるが、各城館の堀となる部分もある。いずれもこの地の発展をうかがわせるものである。

図５　柴崎熊野前遺跡周辺地形分類図（１：25,000）
『群馬県史通史編１』より作成

図６　柴崎熊野前遺跡周辺遺跡図（１：25,000）

周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等
1	柴崎熊野前遺跡	高崎市柴崎町	本遺跡	本書
2	下大類遺跡	高崎市大類町 柴崎町	古墳時代前期の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居２０数軒・井戸。 銅製八稜鏡等出土。	市：調査1978
3	天王前遺跡	高崎市矢中町	平安時代のＢ軽石下水田・大型水路・池状遺構。墨書土器等出土。	市：調査1981報告1982
4	村北Ａ・天王前遺跡	高崎市矢中町	平安時代のＢ軽石下水田・大小の水路。	市：調査1982報告1983
5	宝昌寺高遺跡	高崎市矢中町	平安時代の竪穴住居・池状遺構・Ｂ軽石下水田。中世の館址。	市：調査1982報告1983
6	柴崎前遺跡	高崎市矢中町	平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田・大型水路・井戸・集石遺構。	市：調査1983報告1984
7	矢中村北Ｂ遺跡	高崎市矢中町	平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田・水路。中世の館の堀。	市：調査1983報告1984
8	矢中村北Ｃ遺跡	高崎市矢中町	中世の館の堀・溝・土坑。磁石・宝篋印塔の笠部等出土。	市：調査1982報告1983
9	矢中村東遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の前方後方形周溝墓・円形周溝墓等。平安時代のＢ軽石下水田・水利遺構等。銅製古印「物部私印」等出土。	市：調査1983報告1984
10	矢中村東Ｂ遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の方形周溝墓。平安時代のＢ軽石下水田・水利遺構・大型水路。	市：調査1984報告1985
11	下村北遺跡	高崎市矢中町	平安時代のＢ軽石下水田。中世の館址（堀・掘立柱建物・井戸・溝）。	市：調査1985報告1986
12	砂内遺跡	高崎市柴崎町	古墳時代の円墳３基。土師器壺・須恵器大甕破片・埴輪破片出土。	市：調査1978
13	村東Ｃ遺跡	高崎市矢中町	古墳時代前期の方形周溝墓10基・円形周溝墓１基。中世の館の堀。 （道場屋敷）	市：調査1986・87 報告1988
14	村関・富士塚前Ａ遺跡	高崎市柴崎町 下大類町	平安時代のＢ軽石下水田・水路・土坑。南北の基準畦畔・東西の大型水路。	市：調査1983報告1984
15	東原・富士塚・富士塚前Ｂ遺跡	高崎市柴崎町	平安時代のＢ軽石下水田・水路・南北の基準畦畔。	市：調査1984報告1985
16	新堀・根際・吹手西Ａ・富士塚Ｂ遺跡	高崎市柴崎町	平安時代のＢ軽石下水田・水路。	市：調査1985報告1986
17	西沖・柳原・吹手西Ｂ遺跡	高崎市柴崎町	平安時代のＢ軽石下水田・大型水路。	市：調査1986報告1987
18	殿谷戸・旭・富士塚Ｃ・華人・吹手・峯岸遺跡	高崎市柴崎町 南大類町	古墳時代の竪穴住居。奈良・平安時代の竪穴住居。中世の掘立柱建物・溝。	市：調査1987報告1988
19	矢中村西１遺跡	高崎市矢中町	平安時代のＢ軽石下水田。	市：調査1995報告1996
20	柴崎村間遺跡	高崎市柴崎町	古墳時代前期の土坑。中世の溝。(村間屋敷)	市：調査1989報告1990
21	西浦・吹手西遺跡	高崎市柴崎町	平安時代の竪穴住居。中世の館の堀。(柴崎西浦屋敷）近世(?)の柱穴。	市：調査1990報告1991
22	西浦・華人・吹手西遺跡	高崎市柴崎町	古墳時代前期の方形周溝墓４基。	市：調査1991報告1992
23	柴崎遺跡群・南大類遺跡群	高崎市柴崎町 南大類町	古墳時代前期の溝。奈良・平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田・大型水路。中世の溝・堀・掘立柱建物。近世の溝。	市：調査1983～88 報告1993
24	天田・川押遺跡	高崎市上大類町	奈良・平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田。中世の掘立柱建物・土壙墓等。(天田館)	市：調査1982報告1983
25	天田Ⅱ遺跡	高崎市上大類町	奈良・平安時代の竪穴住居・水田。中世の掘立柱建物・土壙墓・井戸。	市：調査1983報告1984
26	村北・矢鳥前・村東遺跡	高崎市前大類町	奈良・平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田。中世の掘立柱建物・館の堀。(村北屋敷)	市：調査1985報告1986
27	山鳥・天神遺跡	高崎市前大類町	縄文時代の竪穴住居。奈良・平安時代の掘立柱建物・Ｂ軽石下水田。中世の掘立柱建物・井戸・土壙墓。	市：調査1983報告1984
28	天神久保遺跡	高崎市前大類町	縄文時代の土器片。平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田。	市：調査1984報告1985
29	万相寺遺跡	高崎市前大類町	縄文時代の竪穴住居。弥生時代の竪穴住居。古墳時代前期の竪穴住居。古墳２基。奈良・平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田。	市：調査1984報告1985
30	高崎情報団地遺跡	高崎市前大類町	弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓。古墳時代の竪穴住居・帆立貝式古墳４基を含む円墳約30基。奈良時代の東山道。平安時代の竪穴住居・Ｂ軽石下水田・溝。中世の館の堀。(塚ノ越屋敷)	市：調査1993～
31	中大類金井遺跡	高崎市中大類町	古墳時代後期の竪穴住居。平安時代の土坑。	市：調査1988報告1989
32	中大類金井分遺跡	高崎市中大類町	古墳時代後期・奈良時代の竪穴住居。	市：調査1991報告1992
33	鈴ノ宮遺跡	高崎市矢鳥町 元島名町	弥生時代の竪穴住居・方形周溝墓・壺棺墓。古墳時代の竪穴住居・方形周溝墓・古墳・土壙。奈良・平安時代の竪穴住居。中世の堀。	市：調査1977報告1978
34	元島名遺跡	高崎市元島名町	弥生・古墳時代前期の竪穴住居。中世の掘立柱建物・井戸等。	市：調査1978報告1979
35	元島名Ｂ遺跡	高崎市元島名町	中世の掘立柱建物・元島名城関連の堀・溝等。板碑等出土。	団：調査1976報告1977
36	西横手遺跡群Ⅰ	高崎市西横手町	古墳時代の周溝墓。FA下水田。平安時代の水田。中世の畠・備前堀。	団：調査1988報告1989
	西横手遺跡群Ⅱ	高崎市萩原町	古墳時代前期の方形周溝墓。FA下水田・大型水路。	団：調査1989報告1990
37	西横手遺跡群	高崎市西横手町	古墳時代の水田（FA・FP下面）。奈良・平安時代の竪穴住居・土坑・溝。中世の館の堀。	団：調査1995～
38	宿横手三要川遺跡	高崎市宿横手町	古墳時代の水田（FA・FP下面）。平安時代のＢ軽石下水田。中世掘立柱建物・土坑・畠。近世の畠・溝・灰焼き穴。	団：調査1996～
39	上滝榎町北遺跡	高崎市上滝町	古墳時代のFA下水田。平安時代の水田。中世の掘立柱建物。近世水田。	団：調査1995～
40	上滝遺跡	高崎市上滝町	古墳時代前期・後期・奈良時代の竪穴住居・土壙。中世の館の堀・溝・掘立柱建物等。(上滝中屋敷)	団：調査1975・78 報告1981
41	上滝五反畑遺跡	高崎市上滝町	平安時代のＢ軽石下水田。中世の土坑。近世の水田。	団：調査1996～

番号	遺跡名	所在地	遺跡の概要	調査年次・報告書等
42	納貫遺跡	高萩市納貫町 台新田町	古墳時代前期・後期の竪穴住居・周溝墓。観音山古墳の外郭。奈良時代の竪穴住居。平安時代の竪穴住居・瓦経塔跡。	市：調査1983報告1985
43	下中居条里遺跡	高萩市倉賀野町	古墳時代前期・中期の竪穴住居。平安時代のB経石下水田・竪穴住居。	市：調査1991報告1992
44	中里前遺跡	高萩市倉賀野町	古墳時代後期・奈良・平安時代の竪穴住居。中世の火葬土壙。	市：調査1995報告1996
45	東条里遺跡	高萩市倉賀野町	平安時代のB経石下水田。	
46	倉賀野万福寺Ⅱ遺跡	高萩市倉賀野町	縄文時代中期後半の竪穴住居。古墳時代前期の竪穴住居・円形周溝墓・方形周溝墓・円墳。中世の掘立柱建物・溝。(宮之前屋敷)	市：調査1993報告1994

番号	古墳名	所在地	古墳の概要	備考
A	磐沢古墳	高萩市柴崎町	古墳時代前期の古墳。正始元年銘是作四神四獣鏡・獣文帯三神三獣鏡・脚内行花文鏡２面（計４面）・鉄斧・槍等出土。	墳丘削平に拠り古墳の形・位置不明。
B	浅間山古墳	高萩市柴崎町	径30m高さ５mほどの円墳。鏡・勾玉・大刀等出土。横穴式石室(?)	県：「群馬県遺跡台帳」
C	諏訪山古墳	高萩市柴崎町	径30m高さ3mほどの円墳。耳環・大刀・鞆等出土。	県：「群馬県遺跡台帳」
D	かぐら塚古墳	高萩市柴崎町	径20m高さ1.5mほどの円墳。	県：「群馬県遺跡台帳」
E	諏訪神社裏古墳	高萩市柴崎町	本殿の東と北にある２基の円墳。	県：「群馬県遺跡台帳」
F	飯玉山古墳	高萩市柴崎町	前方後円墳。横穴式石室。刀剣・勾玉・金環出土。	県：「群馬県遺跡台帳」
G	富士塚古墳	高萩市下大窪町	径10m高さ2.5mほどの円墳。	県：「群馬県遺跡台帳」
H	将軍塚古墳	高萩市元島名町	前方後方墳。粘土郭内より鏡・石鎧・刀等出土。周堀内より壺等出土。	市：調査1980報告1981
I	御伊勢山古墳	高萩市下魚町	全長30m高さ3.5mの前方後円墳。横穴式両袖型石室、複室。	群大史学研究室調査
J	観音山古墳	高萩市納貫町	全長101m高さ9.4mの前方後円墳。横穴式石室。	県：保存修理報告1981
K	普賢寺裏古墳	高萩市納貫町	全長71m高さ6.6mの前方後円墳。竪穴式石室。墓石。	県：「群馬県遺跡台帳」
L	不動山古墳	高萩市納貫町	全長94m高さ10.1mの前方後円墳。竪穴式石室。埴石。二段築成。	県：「群馬県遺跡台帳」

番号	中世城館名	所在地	立地	存続期間	城・在城者	遺構・遺物等	備考
1	華人屋敷	高萩市柴崎町	平地	天文年間	武華人	２重堀	
2	高井屋敷	高萩市柴崎町	台地	16世紀	高井氏	２重堀・土居	建雄神社社人
3	大類寄居	高萩市柴崎町	平地		柴崎地衆	堀・土居・戸口	近年破壊
4	柴崎西浦屋敷	高萩市柴崎町	平地		高井氏	堀・土居	1990年発掘調査
5	柴崎桜井屋敷	高萩市柴崎町	扇端	文明６年	桜井氏	堀・土居	
6	村間屋敷	高萩市柴崎町	扇端	室町時代		堀	1989年発掘調査
7	大下屋敷	高萩市柴崎町	扇端	16世紀	田口吉真	２重堀・土居・櫓台	
8	道場屋敷	高萩市柴崎町	扇端			堀	1986年発掘調査
9	宝昌寺屋敷	高萩市矢中町	平地	16世紀	矢中新左衛門	堀・土居・戸口	
10	宝昌寺裏屋敷	高萩市矢中町	平地	16世紀		堀	1982年発掘調査
11	軍原屋敷	高萩市矢中町	平地	16世紀	軍原内記	堀・土居	
12	下村北屋敷	高萩市矢中町	平地	16世紀	大沢備後 松本九郎兵衛	２重堀・別郭・堀・戸口・板 蔵・井戸	1985年発掘調査
13	東中里城	高萩市東中里町	平地		太田氏	堀	火雷谷御子神社
14	天田館	高萩市滑大野町	平地		天田氏	堀・水路（水路を兼ねた囲堀）	1983年発掘調査
15	村北屋敷	高萩市塩大野町	平地			堀・井戸・櫓穴列	1984年発掘調査で検出
16	大類館	高萩市南大類町	平地	15世紀	大類氏	堀・土居・戸口	大類伊勢守
17	大類城	高萩市塩大類町	平地	天正年間	和田信業	堀・土居・戸口・馬出・根小屋	1984・86年発掘調査
18	鈴ノ宮屋敷	高萩市元島名町	扇端			堀・井戸・板碑	1977年発掘調査
19	堀ノ越屋敷	高萩市矢島町	平地	14世紀		堀	1993年発掘調査で検出
20	元島名城	高萩市元島名町	平地	15世紀 16世紀	島名伊豆守 長井豊前守政実	堀・戸口・根小屋・板碑	1976・78年一部発掘調査
21	元島名内出	高萩市元島名町	扇端	16世紀	阿久沢氏	堀・土居・戸口	
22	島野渋遺構群	高萩市島野町	平地	16世紀	阿久沢氏	堀	
23	陽照屋敷	高萩市中大窪町	扇端	16世紀	高井氏	堀・土橋	
24	江原屋敷	高萩市上純町	平地	16世紀末	江原重安・重久	堀・土居・郭	
25	上純中屋敷	高萩市上純町	平地	南北朝期		堀、壺・茶碗・擂鉢等の陶磁器	1980年発掘調査
26	新居屋敷	高萩市横手町	平地		新井喜左衛門		
27	中島内出	高萩市中島町	平地	16世紀	田口兵庫業祐	土居・板碑	
28	慈眼寺	高萩市下鴻町	扇端	室町時代		堀	
29	下鴻館	高萩市下鴻町	平地	文明９年	足利成氏 大井田氏	堀・土居・戸口・井戸・別郭	文明９年成氏７ヶ月間仮御所。近世天田氏住
30	八幡山館	高萩市下鴻町	平地	室町時代		堀	
31	堀米屋敷	高萩市倉賀野町	扇端	16世紀	堀米氏		堀米氏墓地：宝塔等
32	上稲荷前屋敷	高萩市倉賀野町	平地	室町時代		井戸・堀：発掘調査で一部検出	倉賀野城の砦
33	倉賀野西城	高萩市倉賀野町	平地	室町時代	倉賀野氏	堀・土居・戸口・櫓台	倉賀野城の西の砦
34	永泉寺の砦	高萩市倉賀野町	平地	16世紀		堀・土居・戸口	倉賀野城の北の砦
35	倉賀野東城 （長賀寺の砦）	高萩市倉賀野町	平地	16世紀		堀・郭（墳丘を利用して築城）	倉賀野城の東の砦 長賀寺の跡
36	倉賀野城 （雛城）	高萩市倉賀野町	扇端	12世紀 16世紀	倉賀野氏 和田正盛	堀・櫓台・戸口・丸馬出	
37	宮之前屋敷	高萩市倉賀野町	平地	室町時代		堀・掘立柱建物・櫓列	1993年発掘調査で検出
38	岩鼻の砦	高萩市岩鼻町	扇端	16世紀	和田業繁(?)	土居（陣屋）	江戸時代の陣屋跡
39	木部北城	高萩市阿久津町	台地	16世紀	木部氏		市指定史跡。玄頭寺

※　県：群馬県教育委員会　　市：高萩市教育委員会　　財：(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
※中世城館の番号は、図６において赤色にて表示。
参考文献　「群馬県の中世城館跡」群馬県教育委員会、「群馬県遺跡台帳（II）西毛編」群馬県教育委員会

第３節　基本土層

柴崎熊野前遺跡は、前項でも触れたように井野川の形成した沖積地、低位河岸段丘上の低地から微高地にかけて立地している。

基本土層としては、右の図にあるように次の３点を記す事とした。Ａ地点として標高の高い微高地部、Ｂ地点として自然流路の岸の部分、Ｃ地点として南側の自然流路である。

１・２・３層に関しては、圃場整備を受けており、その場所毎で様相が違っている。As-Aの純層は、見られない。４層のAs-Bの純層もまた、同様ではあるが低地部では、良く残っていた。

８層の土壌に含まれるHr-FAについては、Hr-FAと確認できたのは、この自然流路跡の部分だけである。その他の地区における榛名二ツ岳起源の軽石については、泥流として運ばれてきた可能性が高く、「Hr-FA」であるのか「Hr-FP」であるのかの判断はできなかった。そのため土層注記に単に「軽石」と記してある。６・７層については、上記の泥流起源の可能性が考えられる。

1	灰黄褐色土	As-Aを含む。
2	黄褐色土	As-AとAs-Bを含む。
3	暗褐色土	As-Bを含む。
4	As-B層	
5	黒色土	水田耕作土。
5'	黒色土	水田耕作土、黄色細礫を少量含む。
6	黒褐色土	しまり強く、黄色細礫を含む。
6'	黒褐色土	黄色細礫、As-Cを含む。
7	暗褐色粘質土	黄色細礫を含む。
8	黒褐色粘質土	Hr-FA少量含む。
9	黒灰色土	きめが細かい。
10	黒灰色土	As-Cを含む。
11	As-C層	
12	灰褐色砂質土	鉄分を含む。
13	灰色砂	
14	井野川泥流層	

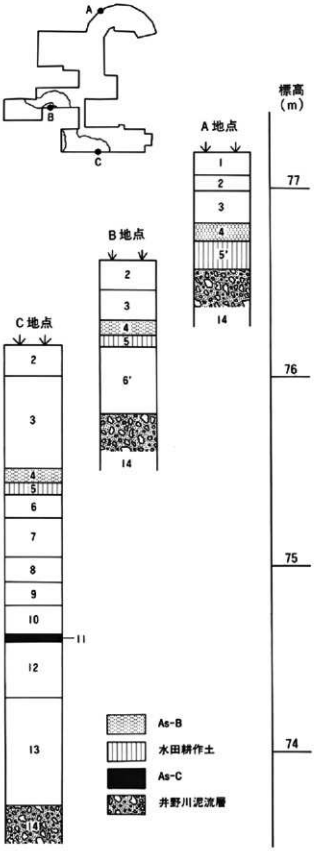


図７　柴崎熊野前遺跡土層柱状図（１：20）

第3章　遺構と遺物

第1節　調査の概要

本遺跡調査は、試掘調査の結果をもとに水田跡、住居跡を中心に、調査過程で確認された遺構を含めて行われた。その結果、古墳時代～中近世までの遺構が確認された。

古墳時代

第2面(平安水田面下)の調査の結果、調査区南西部の低地部より発掘された自然流路(調査時の名称、22号・23号溝)より古墳時代前期・中期の遺物が確認された。自然流路の縁辺部を中心として、浅間C軽石(As-C)の直上に弥生系土器、古墳時代前期・中期の土器、ガラス製品、石製品及びその未製品・剥片を検出した。

平安時代

調査区全域で浅間B軽石(As-B)の残存域を調査し、それに覆われた水田を検出した。しかし、近年の圃場整備により、かなりの部分が削平されていたため、水田の残りが悪く3本の畦を確認したのみであった。また、調査区南東部の微高地より住居3軒を検出した。

中近世

調査区北部の微高地より中世から近世の区画溝と思われる直交している溝を確認した。その区画内では、土坑6基、溝1条と浅間A軽石(As-A)で埋まった近世の畠を検出した。上記、土坑6基のうちの1基は火葬土壙であった。また、調査区中央部からは、浅間A軽石(As-A)を片づけるために掘られたと思われる灰掻き穴が確認された。調査区南部のAs-Bの混じる暗褐色土中からは、中国新朝(9～23年)の王莽銭「貨泉」が出土した。

第2節　遺構と遺物

1、住居

(図8～11、PL3～5)

平安時代の住居3軒。いずれも調査区の南東部の微高地上に確認された。

1号住居(図9、PL3)遺物(図40、PL17)

位置　AE-3・4、AD-3・4グリッド　調査区最東端に位置する。

長軸方位　N-18°-W

規模　3.72×3.98m。面積　約11.61m²。

形状　南北方向の長方形。

重複　14号溝を掘り込む。13号土坑に掘り込まれている。

埋没土　As-B・軽石を含む暗褐色土で埋まる。

残存周壁　約23cm。

周溝・柱穴　検出されなかった。

床面　全体に平坦であり、よく締まっている。

貯蔵穴　位置は、南東隅、カマドの南側。形状は、長径0.51m、短径0.48mの長方形。深さ0.59m。

カマド　位置は、住居の東壁の南側。焚き口の幅は0.71m、　奥行きは、0.6m。煙道部の長さ0.27m、幅0.23m。燃焼部の焼土及び、灰面の残りは、良好。

掘り方　貯蔵穴検出。住居全面検出。

出土遺物　羽釜1点、椀5点、甕3点、土錘16点(貯蔵穴より15点)、台付甕1点、このうちカマドに伴うもの羽釜1点、椀2点、甕1点。

時期　上記遺物より10世紀前半と考えられる。

2号住居(図10、PL4)遺物(図41・42、PL18・19)

位置　AE-6・7、AF-6・7グリッド　15・16号溝を挟んで1号住居の西側に位置する。

長軸方位　N-3°-W

規模　3.2×4.7m。面積　13.05m²。

形状　北辺より南辺の長い台形状。

重複　なし。

埋没土　As-B・軽石を含む暗褐色土で埋まる。

残存周壁　約23cm。
周溝・柱穴・貯蔵穴　検出されなかった。
床面　全体に平坦であり、よく締まっている。カマド寄りの中央部に土坑１基検出。
カマド　位置は、東側の壁。近年の攪乱により破壊されているため、形状は不明。
掘り方　窪み４カ所。
出土遺物　羽釜１点、小形甕１点、甕２点、椀13点、砥石１点、瓦１点、縄文土器(諸磯Ｂ式)破片１点。このうち掘り方より検出された遺物は、椀１点、縄文土器破片１点、瓦１点。
時期　上記遺物より10世紀前半と考えられる。

３号住居(図11、PL５)遺物(図43、PL19)
位置　AF-9･10、AG-9･10グリッド　17・18号溝を挟んで２号住居の西北西に位置する。
長軸方位　N-6°-E
規模　2.7×3.26m。面積　7.37m²。
形状　長方形。南側の壁は近代の溝状の攪乱により破壊されている。
重複　26・27号溝を埋めて作られている。
埋没土　軽石、黄色粘土粒を含む暗褐色土で埋まる。
残存周壁　約11cm。
周溝・柱穴・貯蔵穴　検出されなかった。
床面　全体に平坦であり、硬く締まっている。
カマド　位置は、住居の東壁の南側。焚き口の幅は、0.34m。奥行きの長さは0.35m。煙道部は、検出できなかった。
掘り方　起伏に富んでいる。27号溝を検出。
出土遺物　椀３点、甕２点。遺物のほとんどがカマド内もしくは、その近辺で出土。
時期　上記遺物より９世紀末から10世紀前半と考えられる。

２、水田

(図12～15、PL６)
平安時代の水田、畦３カ所。

近年の圃場整備によりかなりの部分が削平されていた。As-Bの残存範囲は、調査区全体の約半分であり、低地部を除き堆積状況も悪かった(図12)。わずかに畦と思われる高まりを確認したにすぎない。１号畦は南北方向に、２号畦、３号畦は東西方向に走っており、いずれも低地部で検出された。また、２号畦の検出された西側の区では馬の足跡と思われる丸い窪み穴が無数に広がっていた。プラント・オパールの分析からは、この面での稲の栽培があった可能性は高いとの結果を得ている(自然科学分析Ⅲ)。

３、畠・灰掻き穴

(図16～19、PL７)
近世の畠及び、灰掻き穴各１。

畠(図18、PL７)
位置は、BE-9･10･11グリッド　調査区北の微高地上である。畠は「サク」が溝状で南北方向に平行して、検出されたのみであり、「畝」は確認されなかった。「サク」の長さは、ほぼ２～３ｍであり、東西方向に「サク」が起こされているようである。「サク」と「サク」との間隔は、約0.3mであった。この「サク」はAs-Aで埋没していた。As-Aの残存範囲は、12ｍ×３ｍのこの畠の範囲だけであり、その他は、圃場整備により削平を受けていた。時期としては、近世中期と考えられる。

灰掻き穴(図19、PL７)
位置は、AP-15･16･17グリッド　調査区中央の低地部である。この場所も上記同様に削平を受けていたため、残存部はこの灰掻き穴の部分のみであった。残存状況は、方形状と長方形状に掘られた数個の穴が２段に東西方向に並んでいる形を呈していた。方形状の穴(２ｍ×２ｍ)は南側に、長方形状の穴(１ｍ×2.5m)は、その北側に平行して並んでいた。長軸方位はN-70°-Wである。深さは残存している部分で約20cmである。As-A降下後の復旧の跡であり、時期は近世中期以降と考えられる。

4、土坑

(図20～28、PL 8～10)

土坑25基。掲載しなかった土坑5基8、9、10、24、27号土坑は欠番である。

本遺跡では、30基の土坑が調査されている。本報告書では、これらのうち25基を報告する。掲載しない土坑は、形状が不定形であり、遺構と判断されないものである。しかし、遺構番号は、調査時の番号を使用したため、不掲載の土坑は欠番となった。

その他25基の土坑についても出土する遺物が非常に少なく、そのほとんどが時期、及び性格が不詳である。ただし、埋没土より大まかな分類は可能と思われるので、以下に記す。

近世以降と考えられる土坑には、埋没土にAs-Aを含む1、2、3号土坑がある。

中世以降と考えられる土坑には、埋没土にAs-Bを含む4、5、6、13、28、29号土坑があり、また、As-BがAs-Bの混じる土で挟み込まれる状態で埋まっている16、17、18、19、20号土坑がある。これらは前者の土坑より古い。そして、褐色・黒色粘質土ブロックがモザイク状に埋まり、その間にAs-Bが混じる埋没土の土坑に11、12、21、22、23、26号土坑がある。これらの土坑は、しっかりした方形か長方形をしており、その埋没土からAs-B層の上から地山(井野川泥流)まで掘られ、人為的に埋められたことが伺える。

6世紀以降と考えられる土坑には、埋没土に榛名二ツ岳起源の軽石を含む14号土坑がある。

土坑一覧表

土坑番号	位置	長軸方位	規模、深さ (m)	形状	出土遺物	埋没土	備考
1 図24・PL 8	BB-5・6	N-15°-W	1.12×1.04、1.16	円形	須恵器・甕	As-Aを含む	遺物図43・PL 31
2 図24・PL 8	BC・BD-6・7	N-38°-W	1.60×1.36、1.20	円形		As-Aを含む	
3 図24	BA-5・6	N-78°-E	1.60×1.12、1.36	円形		As-Aを含む	
4 図24・PL 8	BF・BG-12・13	N-70°-W	1.08×0.60、0.34	隅丸長方形		As-Bを含む	
5 図25	BE-12・13	N-10°-W	0.80×0.60、0.20	楕円形		As-Bを含む	
6 図25	BE-13	N-75°-W	1.50×1.14、0.48	隅丸長方形		As-Bを含む	
7 図25・PL 8	BE-13	N-18°-E	2.04×1.98、0.38	凸形		As-Bを含む	火葬土壙
11 図25・PL 9	AJ-28	N-13°-E	1.50×1.48、1.08	隅丸方形		褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	
12 図26・PL 9	AG・AH-34	N-80°-W	2.20×1.40、1.16	隅丸方形	肥前陶磁器 簡形碗	褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	2号畦より新しい 遺物図43・PL 31
13 図26	AD-3	N-7°-W	0.92×0.80、1.00	円形		As-Bを含む	1号住居より新しい
14 図26・PL 9	AD-7	N-45°-W	1.10×0.56、0.20	隅丸長方形		軽石を含む	
15 図26・PL 9	AH-33・34	N-80°-W	2.56×0.96、0.72	隅丸長方形		褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	13号溝より古い
16 図26・PL 9	AB-6	N-25°-W	1.16×0.68、0.68	隅丸長方形		軽石を含む	
17 図27・PL 9	AA・AB-13	N-15°-W	1.28×1.02、0.70	楕円形		As-B、As-Bを含む	
18 図27・PL 9	AB-13	N-86°-E	0.92×0.82、0.88	円形		As-B、As-Bを含む	
19 図27	AA-13・14	N-88°-E	1.00×0.40、0.38	不正形		As-B、As-Bを含む	
20 図27	AA・AB-15	N-85°-W	0.88×0.76、0.20	円形		As-B、As-Bを含む	
21 図27・PL 10	AD・AE-13	N-4°-E	2.50×1.32、0.64	隅丸長方形	陶器・瀬戸磁器・青磁 土師器・台付甕	褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	遺物図43・PL 31
22 図27・PL 10	AC-14	N-86°-E	0.84×0.56、0.80	隅丸長方形		褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	遺物図43・PL 31
23 図28・PL 10	AE-16・17	N-4°-W	1.52×1.48、0.52	隅丸方形		褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	21号溝より新しい
25 図26	AC-3	N-83°-E	0.50×0.48、0.20	隅丸方形		As-A、As-B、炭化物	
26 図28・PL 9	AD・AE・AF-21	N-8°-E	5.40×1.18、1.72	隅丸長方形		褐色・黒色粘質土ブロックにAs-Bが混じる	
28 図24・PL 8	BF-13	N-13°-E	0.56×0.52、0.24	隅丸長方形		As-Bを含む	29号土坑より古い
29 図24・PL 8	BF-13	N-13°-E	1.12×0.68、0.28	隅丸長方形		As-Bを含む	28号土坑より新しい
30 図28・PL 10	AD-10	N-2°-W	0.92×0.76、0.20	楕円形	蛇紋岩製紡錘	黄色・黒色粘質土、砂	遺物図43・PL 31

以下、上記以外の特徴のある土坑について述べる。

7号土坑(火葬土壙)(図25、PL 8)

位置は、BE-13グリッド　調査区の北の微高地上であり、3号、4号溝で囲まれたまわりより一段高い内側である。形状は、長軸方位、N-22°-Eの凸形をしている。煙だしの位置は西側にあり、西北西の方向を向いている。規模は、1.60×1.48m、深さ0.28mである。埋没土は、As-Bを含む褐色土である。周壁は煙だし部分と北側の部分は残りはよかったが、南側は全面的に削られて、段になっていたため検出は完全にはできなかった。煙だし部分の壁とその向かい側の壁はよく焼けていた。また、火葬部には、底の部分に割られたか、もしくは火葬の時の熱で割れたかは判断できないが、石が敷いてあった。その上に炭化物や灰、それに混じって人骨片が散らばっていた。頭蓋等大きな部分のないことから、この人骨片は、焼いた後の拾い残しであろう。炭化物は、樹種同定の結果、栗材と同定された(自然科学分析IV)。遺物の検出はなく、はっきりした時期はわからないものの埋没土より、中世と考えられる。

30号土坑(図28、PL10)遺物(図43、PL10)

位置は、AD-10グリッド　調査区の南側の微高地上である。確認された層位は、第2面の井野川泥流上面である。第2面上から検出された土坑はこれのみであり、19号溝の下面であった。

長軸方位は、N-1°-E。形状は、0.92×0.76m、深さ0.20mの楕円形。埋没土は、黄色粘質土、黒色粘質土、灰色の砂がモザイク状に埋まり、その下層は灰褐色の砂であった。出土遺物は、蛇紋岩製の垂飾1点であり、出土位置は、土坑の上位層の縁辺部である。

5、溝

(図29～36、PL11～16)

溝26条。22・23号溝は、同一の自然流路跡であり、次の項で扱うものとする。

第1面(As-B下面)で検出された溝は、1～21号溝である。8・10・13号溝は圃場整備以前まで使用されていた溝と考えられる。8・13号溝からは、木杭が検出された。10号溝は、8号溝を切っていた。

3・4・5・6・7・9・11・12・14・15・20・21号溝は、全てAs-B降下以後に掘削された溝であり、As-Bを含む土によって埋没したものである。6・7・9号溝は、途中から掘り込まれているものもあり、その方向から見て農地の区画溝と思われる。特に4号溝は深く堀り込まれており、3号溝とも直交しているため、中世の屋敷の区画溝と思われる。3・4号溝に囲われたこの区画は他の場所と比べ一段高くなっている。その内側で5号溝が検出された。

16・17・18・19号溝は、いずれも榛名二ツ岳起源の軽石または、それを含む土で埋没したものである。軽石については、Hr-FAであるかHr-FPであるかは判別できないが、6世紀以降の溝と考えられる。

第2面(As-B水田耕作土下面)で検出された溝は、24・25・26・27・28号溝である。24・25号溝は、両溝共に逆台形であり、遺物等からみても時期差はあまり無いものと思われる。また、この溝の下に古墳時代前期の土器を出土した自然流路跡(22・23号溝)を検出している。

1号溝、2号溝(図30、PL11)

位置は、BA-7～BA-4グリッド　調査区の北側の最東端である。走行は東西であり、2号溝が1号溝をわずかに切っている。1号溝は、幅0.80m深さ0.14mであり、2号溝は幅0.76m、深さ0.40mと1号溝より深く掘り込まれている。埋没土にAs-Aを含んでいることから近世以降の溝と考えられる。

3号溝(図30、PL11)

位置は、BG-8～BC-8グリッド　調査区北の微高地上であり、走行は南北方向、北側で4号溝に流れ込むように直交している。幅2.40m、深さ0.36mと浅く掘り込まれている。埋没土は、As-Bを含む褐色土である。中世以降の区画溝と考えられる。

4号溝(図30、PL11)遺物(図44、PL19)

位置は、BE-16～BC-8グリッド　調査区の北側である。走行は東西方向で、3号溝と直交している。直交部分で4号溝は止まっており、緩やかに立ち上がり、ちょうど3号溝が4号溝に流れ込む形になっている。3・4号溝で囲まれた場所はまわりに比べ一段高くなっている。規模は、幅6.10m、深さ0.72mと大きな溝であり、西側の調査区外に延びていた。そのため、延長部と思われる場所にトレンチを2カ所入れ、4号溝の範囲を調査した。埋没土は、As-B、As-Bを含む暗褐色土、黒褐色粘質土である。出土遺物は、土師器・台付甕1点、須恵器・坏1点、椀1点、青磁碗破片1点、陶器・鍋2点、擂鉢2点、内耳鍋1点、甕1点である。以上のことから本遺構は、中世以降の区画溝と考えられる。

5号溝(図30)

位置は、BH-11～BE-11グリッド　調査区北側の微高地上の3号溝と4号溝に囲まれた部分であり、畠下面で検出された。走行は、南北方向。規模は、幅1.16m、深さ0.20mの浅く掘り込まれた溝である。埋没土は、As-Bを含む暗褐色土である。時期は中世以降と考えられる。

6号溝(図30)

位置は、BA-20～AT-21グリッド　走行は、南北方向であるが、南に向かうにつれて浅くなり消滅してしまう。規模は、最大幅2.42m、最深0.32mである。埋没土は、As-B、地山の黄色細礫である。

7号溝(図31)遺物(図44、PL20)

位置は、AP-17～AN-10グリッド　調査区中央部である。走行は東西方向で9号溝と平行して走る。規模は、幅1.70m、深さ0.28mである。8号溝に西側を切られている。埋没土は、As-Bと鉄分を含む赤褐色土。出土遺物は、砥石1点。中世以降の区画溝か。

8号溝(図31、PL11)遺物(図44、PL20)

位置は、AQ-19～AL-17グリッド　調査区中央部である。走行は東から西、そして南へ走る。幅0.85m、深さ0.26m。埋没土は、粘質の暗褐色土であり、木杭が検出された。出土遺物は、陶磁器・碗2点である。圃場整備以前の近代の溝である。7号溝を切り、10号溝に切られる。

9号溝(図31)

位置は、AO-15～AN-10グリッド　規模は、幅0.80m、深さ0.14m。10号溝に切られている。7号溝と平行して走る。埋没土は、As-Bと鉄分を含む赤褐色土。

10号溝(図31、PL11)遺物(図44、PL20)

位置は、AO-15～AP-18～AJ-17グリッド　走行は東から西へ、そして南へ走る。規模は、幅0.72m、深さ0.32mであり、8号溝、11号溝を切り、9号溝を途中より掘り込んでいる。埋没土は、鉄分を含む明褐色土。出土遺物は、陶磁器・碗1点、石鏃1点である。圃場整備以前の近代の溝である。

11号溝(図31)

位置は、AP-19～AP-18グリッド　走行は、東西方向。規模は、幅0.25m、深さ0.06mであり、埋没土は、As-Bと鉄分を含む赤褐色土。

12号溝(図32、PL12)

位置は、AL-26～AG-27グリッド　13号溝の東側である。走行は、南北方向。規模は、幅0.36m、深さ0.24m。埋没土は、上層にAs-Bを含む暗褐色土であり、下層は砂、粘質土である。

13号溝(図32)遺物(図44・45、PL20)

位置は、AH-34～AG-28グリッド　調査区西側。走行は東西方向で東端で南へ向かう。規模は、幅1.25m、深さ0.40mである。15号土坑、2号畦を切っている。埋没土は、As-Bを含む暗灰褐色土であり、木杭が検出された。出土遺物は、陶磁器・碗2点、瓦2点、打製石斧1点。圃場整備以前の近代の溝である。

14号溝(図33、PL12)
位置は、AE-4～AE-3グリッド　調査区南東部の微高地上。走行は、南北方向。規模は、幅0.26m、深さ0.30m。1号住居を切る。埋没土は、黒色粘質土、As-Bを含む褐色土。

15号溝(図33、PL12)
位置は、AE-4～AD-4グリッド　1号住居の西側。走行は、南北方向。規模は、幅0.28m、深さ0.14m。埋没土は、黒色粘質土、As-Bを含む褐色土。

16号溝(図33、PL12)
位置は、AF-5～AC-5グリッド　1号住居と2号住居の間。走行は、南北方向。規模は、幅0.58m、深さ0.29m。埋没土は、軽石を含む灰褐色土。

17号溝(図33、PL12)
位置は、AF-7～AC-7グリッド　2号住居の西側。走行は、南北方向。規模は、幅0.36m、深さ0.24m。埋没土は、軽石を含む暗褐色土。

18号溝(図33、PL12)遺物(図45、PL20)
位置は、AE-8～AC-8グリッド　17号溝の西側。走行は、南北方向。規模は、幅1.36m、深さ0.46m。埋没土は、軽石を含む暗褐色土。出土遺物は、縄文土器・鉢1点、須恵器・椀1点、坏1点。時期は遺物より10世紀代と考えられる。

19号溝(図33、PL12)
位置は、AE-10～AC-10グリッド　走行は、南北方向。規模は、幅0.38m、深さ0.24m。埋没土は、軽石を含む暗褐色土。

20号溝(図33、PL12)遺物(図45、PL20)
位置は、AF-11～AA-11グリッド　走行は、南北方向。規模は、幅1.24m、深さ0.32m。埋没土は、As-Bを含む黄褐色土。出土遺物は、陶器・鍋1点、陶磁器・碗1点、瓦1点。

21号溝(図33)
位置は、AE-16～AC-16グリッド　走行は、南北方向。規模は、幅0.46m、深さ0.20m。23号土坑に切られる。埋没土は、As-Bを含む暗褐色土。

24号溝(図35・36、PL12)遺物(図46、PL20・21)
位置は、AF-12～AC-17～AA-15グリッド　調査区南、3号住居の西側。走行は、西側に張り出すように南北方向に走る。規模は、最大幅3.30m、最深0.70mであり、断面は逆台形状を呈する。23号溝、25号溝を切る。埋没土は、灰褐色の砂層。出土遺物は、須恵器・椀1点、土師器・器台1点、高坏1点、坏1点、椀1点、壺1点、甕1点、台付甕1点、石鏃1点、打製石斧2点。また、馬の歯(上顎第二恒臼歯)が出土している。以上より遺物に時代差があるものの遺物や層位から9世紀代の溝と考えられる。

25号溝(図35・36、PL12)遺物(図47、PL21)
位置は、AF-10～AA-12グリッド　調査区南、24号溝の西側であり、走行は、南北方向で24号溝と隣り合っているが、南に下るに従い離れる。24号溝との時期差は遺物などから見てもあまりないものと思われる。規模は、最大幅3.40m、最深0.55mであり、断面は逆台形状を呈する。埋没土は、灰褐色・黒褐色粘質土、灰色細砂。出土遺物は、須恵器・椀3点、土師器・甕1点、台付甕1点、瓦1点。

26号溝(図36)
位置は、AG-9～AF-9グリッド　走行は、南北方向であり、南側で削平されている。規模は、幅0.55m、深さ0.11m。27号溝に切られる。埋没土は、軽石を含む暗灰褐色土。

27号溝(図36)
位置は、AG-9～AE-12～AC-11グリッド　走行は、北東から南東へ25号溝と平行に走るが、やがて消滅する。規模は、幅0.50m、深さ0.15m。26号溝を切る。埋没土は、暗褐色砂質土。

28号溝(図35・36)

位置は、AF-13～AD-17グリッド　走行は、南北方向に24号溝と平行に走る。規模は、幅0.60m、深さ0.28m。埋没土は、軽石、黄色細礫。

6、自然流路

(図37～39、PL13～16)

調査時の名称は22号溝、23号溝である。

22号溝(図38、PL13・14)

遺物(図48・49、PL22・23)

23号溝(図39、PL13・15・16)

東側遺物(図50～54・58～65、PL23～28・32～36)

西側遺物(図55～57、PL29～31)

本流路は前橋泥流上に堆積した黄褐色砂質土の地山を侵食してできた流路である。この黄褐色砂質土は井野川泥流である。本遺跡の南側には粕川が流れており、北には長野堰が流れている。この長野堰も小河川が元になっている可能性もあり、本遺跡の周辺には多数の小河川によって作られた微高地が多数存在する。この流路もそうした小河川の一つと考えられる。

この流路は、北西から南に向かっている。22号溝と称している北側の部分では北西よりの流れが南に方向を変える部分である。この南に流れを変える縁辺部付近から多数の土器片が出土した。時期は、4～5世紀初めのものが多く、また、これらの土器片の出土層位は大部分がAs-C上もしくはその上の灰黒色の粘質土中である。それ以下の層からは、遺物は出土していない。この流路はAs-C降下以前からのものであり、As-C層下には灰黒色土層、砂層が堆積している。

流路はさらに南に下り、深く広くなって行く。23号溝と称する南部調査区では、北側から続くと思われる部分では幅約10mであるが、そこからすぐに幅は東へ広がり、最大幅で37.50mとなり沼状になる。ちょうど沼に流れ込む河川といった形を呈している。南側で調査区外となるため全体の規模は不明である。遺物は、東西の縁辺部に確認され、時期は4～5世紀初めである。西側は、東側より5世紀初頭の土器が多く見られることから、東と西で若干の時期差があるように思われる。これら遺物の出土層位は22号溝同様である。As-C上もしくは、その上層の灰黒色粘質土中である。

東側縁辺部では、4世紀の土器が多く確認され、またガラス小玉、蛇紋岩質滑石の勾玉・管玉・白玉やその未製品が多量に出土した。周辺に玉製作の工房のある可能性も想定される。また、ここでは猪の上顎乳白歯3本が出土している。

西側縁辺部では、その川岸に沿って多量の土器片が出土した。川の中ということもあり、土器片の中には、取り上げ不可能なほどぐずぐずに溶けてしまっているものも多くあった。ここでは、木製品が1点出土した。土圧によりかなり潰れてしまってはいるが、その形は梯子状をなし、両端に臍が切ってある横木は、両側の木枠にはめ込まれている。横木は断面形が菱形状であり、その一角を尖らせているところから水田耕作に使用される「大足」という農具であると考えられる。

以上のことから、この自然流路の遺物群は、As-C降下以降に何らかの理由により、この小河川に流れ込んだものと思われる。また、これら遺物により考えられることは、この自然流路の周辺に古墳時代前期及び中期の集落が存在したという可能性である。自然流路の東側には、古墳時代前期の集落と玉製作工房の存在、そして西側には、古墳時代前期及び中期の集落の存在が想定される。

7、遺構外遺物

銅銭「貨泉」(図43、PL31)。王莽銭の一つで初鋳年はA.D.14年である。現段階(1997)では全国で24件の出土例が報告されており、群馬県では、最初の出土である。出土位置は、AF-12グリッド　調査区の南側で20号溝西側の段差の部分であり、As-Bを含んだ暗褐色土壌中より出土した(図33、PL12)。出土状況より、この「貨泉」の流通していた時期は中世と考えられる。

第4章　まとめ

今回の発掘調査の結果、井野川右岸の低地から微高地にかけて立地する柴崎熊野前遺跡において、古墳時代前期から近世に至るまでの遺構・遺物を確認した。古墳時代前期から近世まで遺構の主だったものは、第3章で記したように「古墳時代前期・中期の土器が出土した自然流路跡、平安時代の住居跡・水田跡、中世の溝跡・土壙跡、近世の畠跡・灰掻き穴跡」である。以上により本遺跡は、生産跡を中心とした遺跡と判断する。

本遺跡の推移を自然科学分析の結果からみると次のようになる(本書101～117p「花粉分析、プラント・オパール分析」)。古墳時代前期、As-C降下以前この遺跡の地はヨシ属などが繁茂する湿地であった。As-C降下後より水田耕作が開始され、Hr-FA降下以降にその水田域は拡大していく。その後シイやカシの照葉樹林が拡大し水田は減少するものの、平安時代にはさらに水田域は広がる。しかしAs-Bの降下によりこの水田域は放棄される。中世になりここは再び農地となる。近世では水田、畑とその生産高を増加させ、As-Aの降下後も灰掻き穴等を掘り火山灰を処理し、再び農地として発展させていく。

一般的に言われることだが、山の多い地域は水が多く流れるので、低地では水が溜まり湿地になり易い。低湿地は古来より人にとって危険な場所であった。それは洪水に襲われ易い、病気が発生し易い、猪などの動物が棲んでいるなどといったことからである。こうした低湿地をいかに利用するかが古来より人々の課題であったといえる。

こうした低湿地を水田化するには、誘水溝を掘るか、水をせき止める設備を作るかして水を排除しなければならない。その現れとしては、本遺跡の北西の柴崎遺跡群・南大類遺跡群で検出された古墳時代前期の大溝があげられるだろう。また、水田が存在した可能性としては、本遺跡の自然流路跡のAs-C直上より出土した「大足」と考えられる木製品があげられる。「大足」とは、水田で足に履いて使用する農具のことである。さらには、本遺跡の西の低丘陵には蟹沢古墳が立地していた。この古墳の被葬者は、出土遺物によってもかなりの力を持った人物であったことは確かである。この地域の湿地を水田化したとしてもなんら不思議ではなく、本遺跡の低地にも、遺構としての水田跡は検出できないが、前述のプラント・オパール分析や「大足」の所見から、古墳時代前期以降には水田が営まれていた可能性が高い。

集落については、本遺跡の東の下大類遺跡で古墳時代前期の住居跡が確認されている。この遺跡の立地する微高地上にこの時期の集落が形成されていたのではないだろうか。また西側の蟹沢古墳が立地していた低丘陵には周溝墓群があり、この地域には墓域と集落域が立地している可能性も考えられる。それを想定するのに、本遺跡の自然流路跡より出土した土器群があげられる。この土器を中心とする遺物群は流路跡の東側と西側の縁辺部に検出された。共にAs-C直上からの出土であり、東側では古墳時代前期の遺物がその大部分を占めるのに対して、西側の遺物群は中期が多くなるのである。これを単純に考えれば、東に前期の集落、西に中期の集落があることが想定されるのである。さらに東側からはガラス玉・勾玉・管玉・臼玉、そしてその剣片と未製品が出土している。原材料の発見はなかったものの明らかに周辺に工房のあった可能性が考えられる。また、蟹沢古墳の立地する低丘陵を望む水辺は、祭祀の場として使われた可能性もある。

As-B下水田跡は本遺跡を含め、この地域では発掘調査された低地部全てで検出されている。しかし、これは裏を返せばAs-B降下後この地域の水田全てが放棄され、不毛の地となったことを意味している。この地を再び甦らせたのは、どのような人々なのだろうか。中世にこの地が発展するのは中世館跡の数を考えれば明らかである。

農地の変遷は、社会の変化を映し出し、生産力の拡大は人の住む領分の拡大を意味する。その背景を遺跡からどのように捉えるのか。それが、今後の課題と考えられる。

柴崎熊野前遺跡

遺構図編

住居

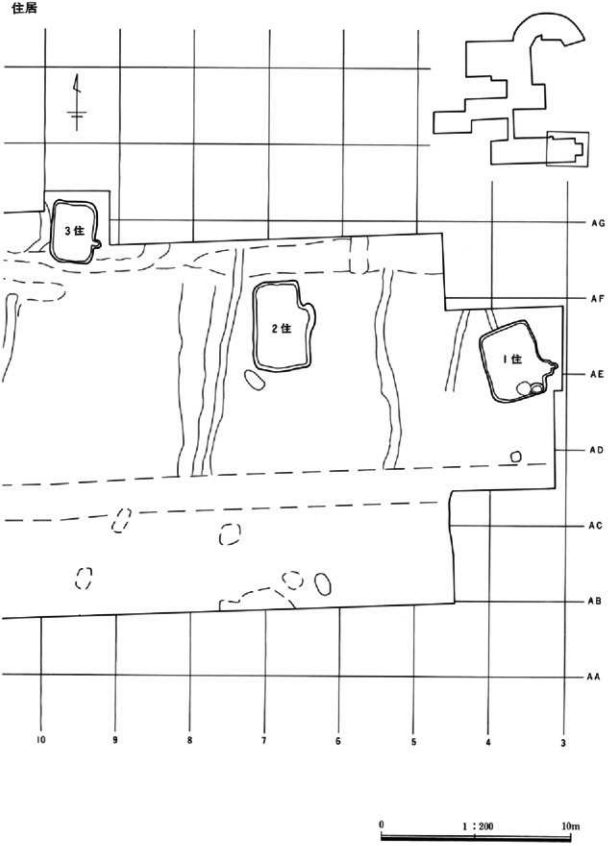
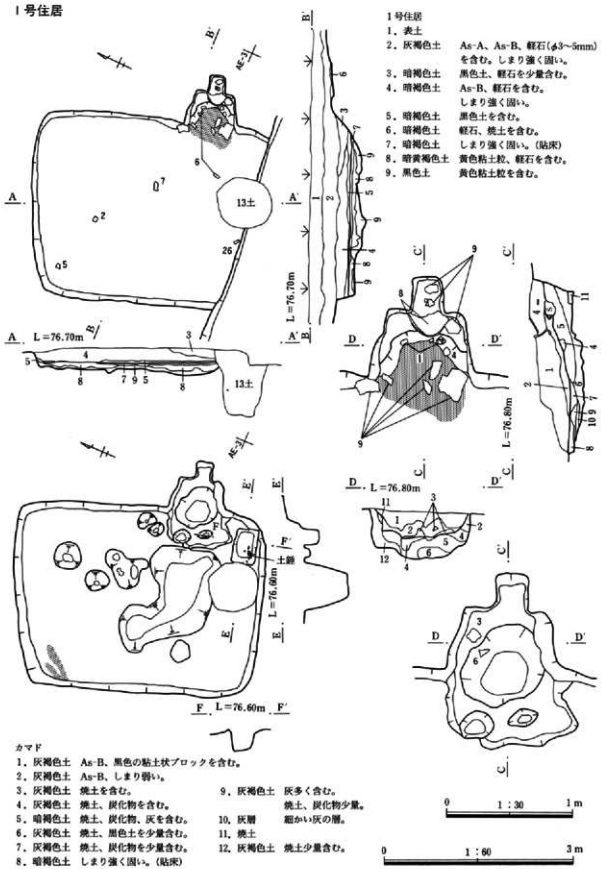


図8　住居位置図

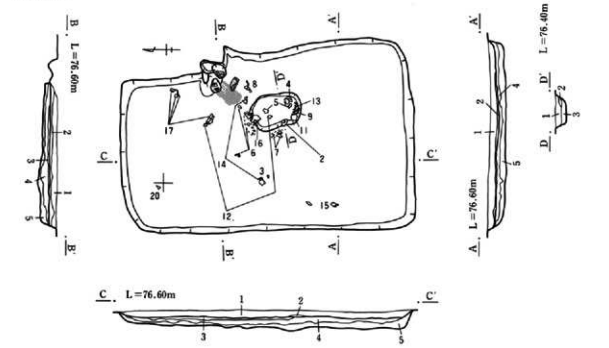
1号住居



1号住居
1．表土
2．灰褐色土　As-A、As-B、軽石（φ3～5mm）を含む。しまり強く固い。
3．暗褐色土　黒色土、軽石を少量含む。
4．暗褐色土　As-B、軽石を含む。しまり強く固い。
5．暗褐色土　黒色土を含む。
6．暗褐色土　軽石、焼土を含む。
7．暗褐色土　しまり強く固い。（貼床）
8．暗黄褐色土　黄色粘土粒、軽石を含む。
9．黒色土　黄色粘土粒を含む。

図9　1号住居

2号住居

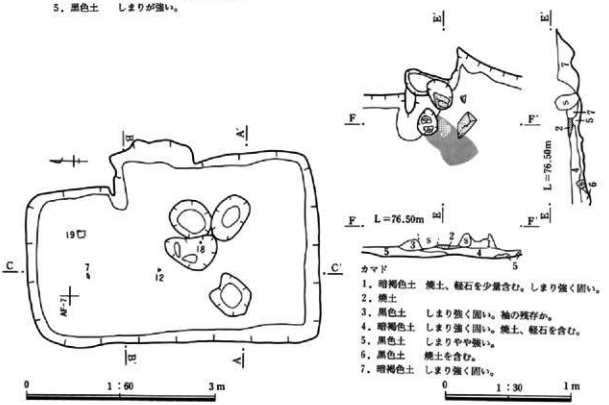


2号住居

1．暗褐色土　軽石（φ3～5mm）、橙色粘土粒を含む。しまり強く固い。
2．黒色土　しまり強く固い。
3．暗褐色土　しまり強く固い。（貼床）
4．黒色土　しまりやや強い。軽石を含む。
5．黒色土　しまりが強い。

2号住居内土坑

1．黒色土　軽石、炭化物少量含む。
2．褐色土　黒色土が混じる。
3．黒色土　地山に似るが、やや柔らかい。



カマド

1．暗褐色土　焼土、軽石を少量含む。しまり強く固い。
2．焼土
3．黒色土　しまり強く固い。袖の残存か。
4．暗褐色土　しまり強く固い。焼土、軽石を含む。
5．黒色土　しまりやや強い。
6．黒色土　焼土を含む。
7．暗褐色土　しまり強く固い。

図10　2号住居

3号住居

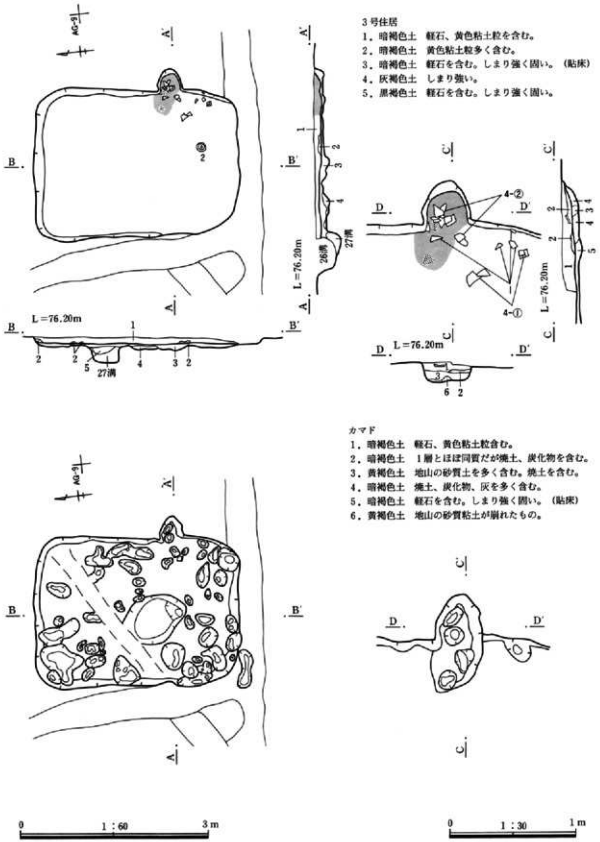


図11　3号住居

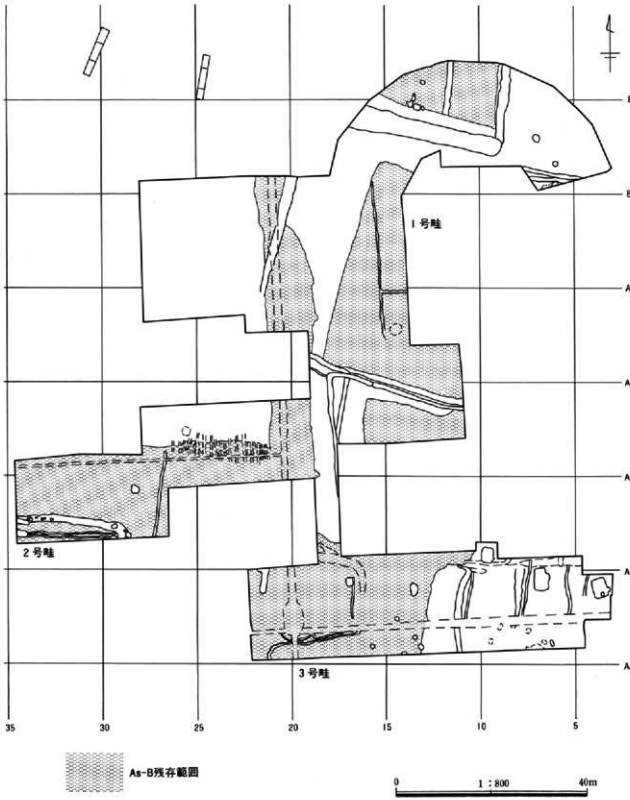

BF
BA
AU
AP
AK
AF
AA
1号畦
2号畦
3号畦
35
30
25
20
15
10
5
As-B残存範囲
0
1:800
40m

図12　水田全体図

1号畦

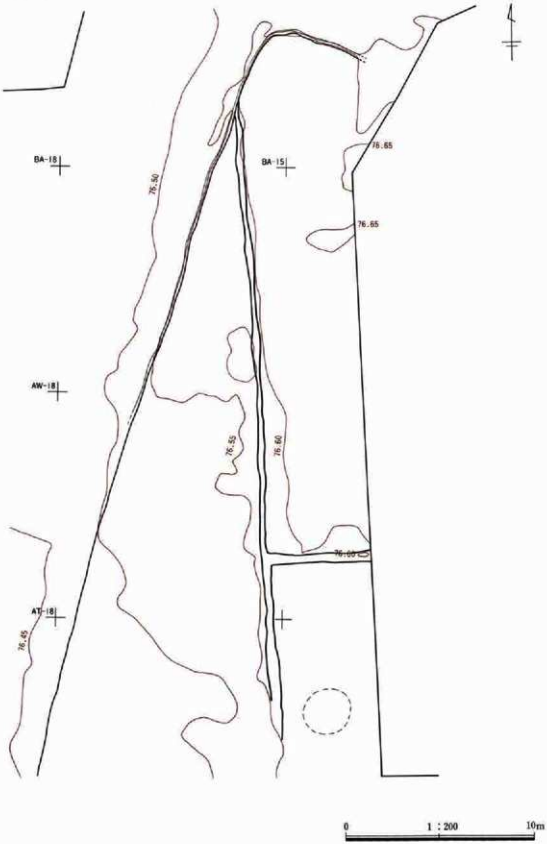

BA-18
BA-15
AW-18
AT-18
76.50
76.65
76.65
76.55
76.60
76.60
76.45
0
1 : 200
10m

図13　1号畦

2号畦

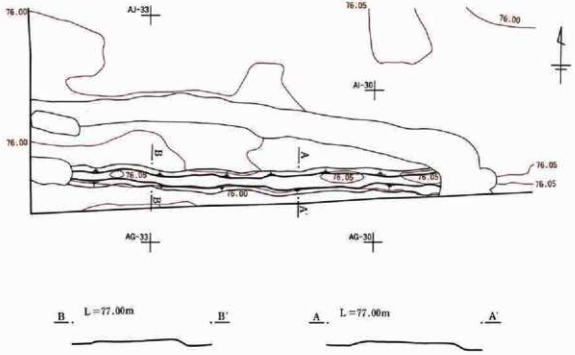


図14　2号畦

3号畦

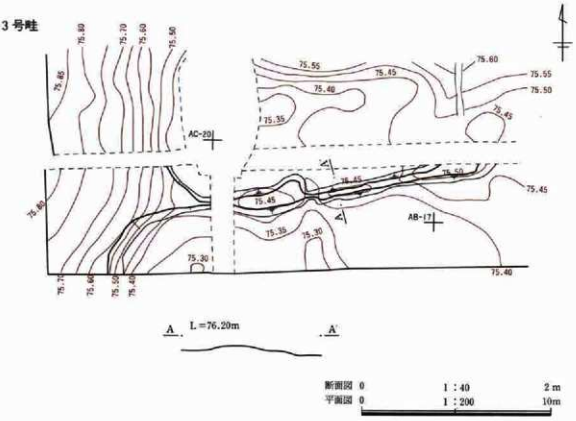


図15　3号畦

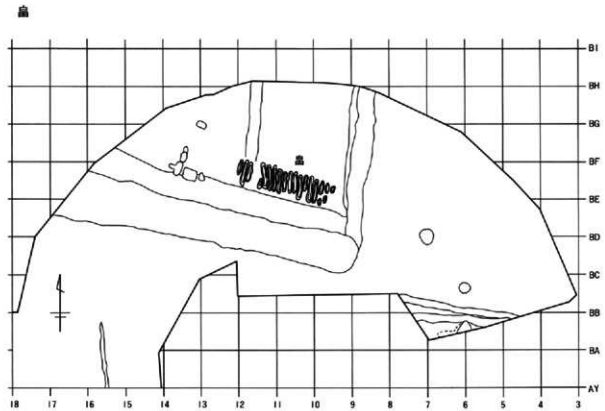


図16　畠位置図

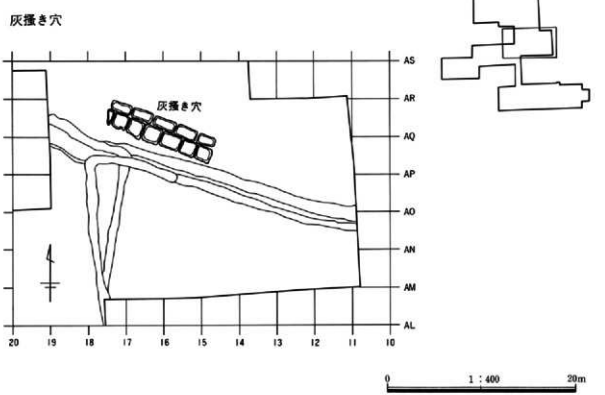


図17　灰掻き穴位置図

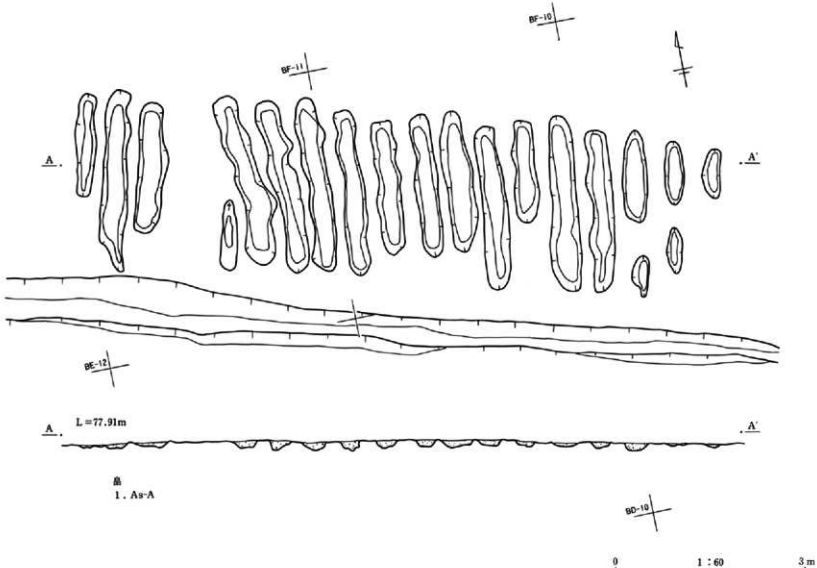


図18 畠

灰掻き穴

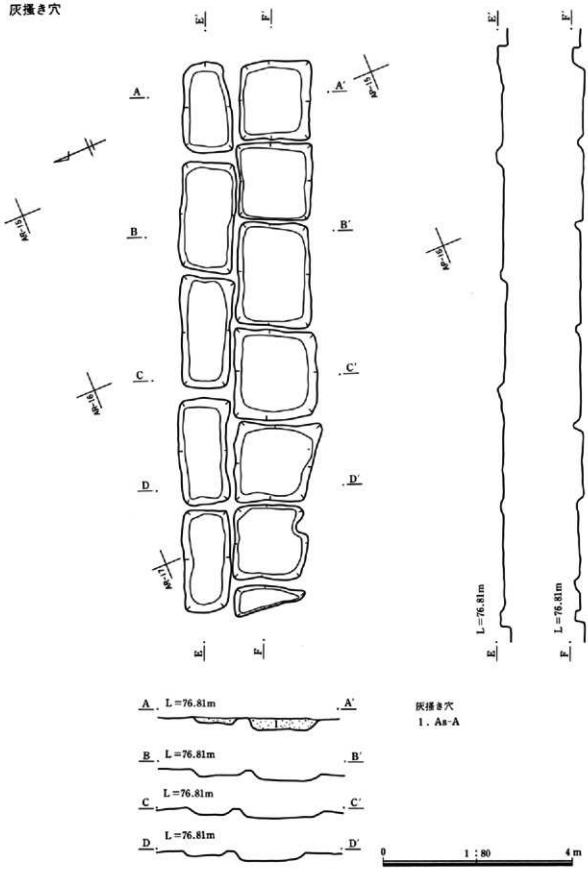


図19 灰掻き穴

土坑（I）

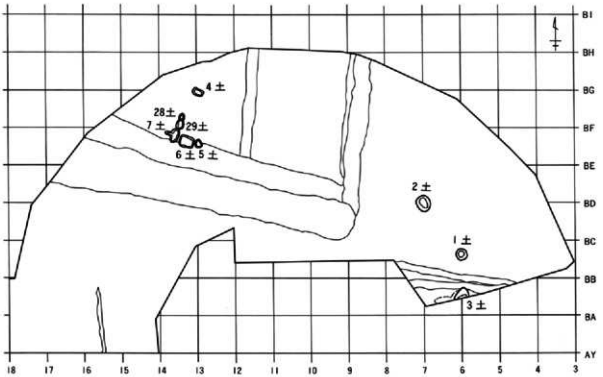


図20　土坑位置図①Ⅰ面

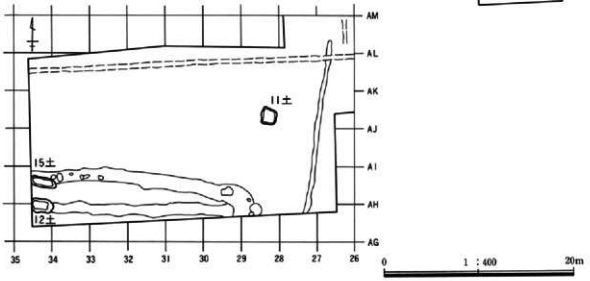


図21　土坑位置図②Ⅰ面

土坑（2）

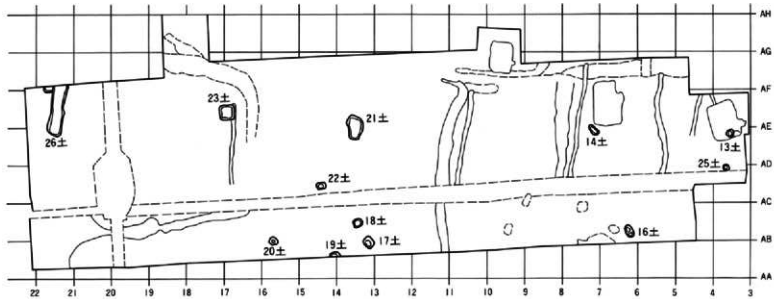


図22　土坑位置図③Ⅰ面

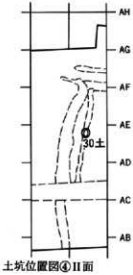
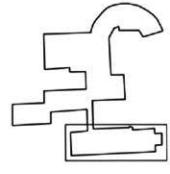
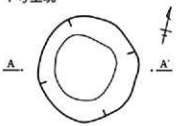


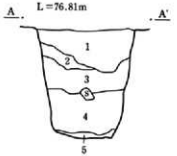
図23　土坑位置図④Ⅱ面



0　1：400　20m

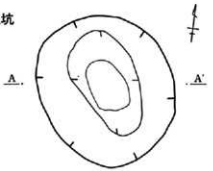
1号土坑

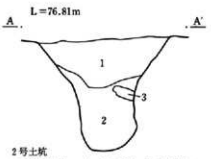




1号土坑
1．暗褐色土　As-Aを含む。しまり強い。
2．暗褐色土　As-A、黄色細礫を含む。
3．暗褐色土　褐色の粘土状の土を含む。
4．黒灰色土　黄色細礫を含む。しまり弱い。
5．黒灰色土　砂状土

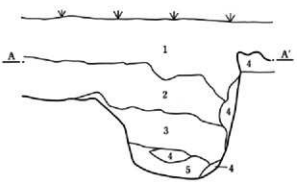
2号土坑





2号土坑
1．暗褐色土　As-Aを含む。しまり強い。
2．暗褐色土　1層同様であるが、しまり弱い。
3．暗褐色土　褐色の粘土状の土を含む。

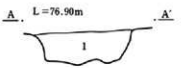
3号土坑



3号土坑
1．表土
2．明褐色土　黄色細礫を含む。
3．黒灰色土　As-B、黄色細礫を含む。
4．黄色粘質土
5．黒灰色土　粘土状の土。

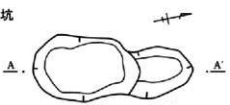
0　1：40　2m

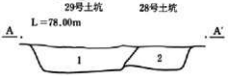
4号土坑



4号土坑
1．暗灰褐色土　As-Bを含む。

28・29号土坑

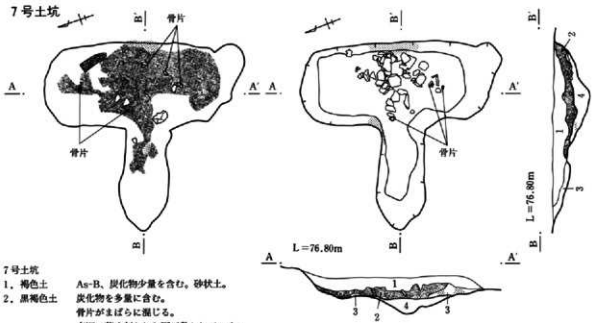




28号・29号土坑
1．灰褐色土　As-Bを含む。しまり弱い。
2．灰褐色土　As-Bを含む。1層よりしまりがある。

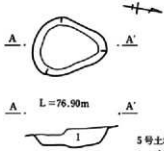
図24　1・2・3・4・28・29号土坑

7号土坑



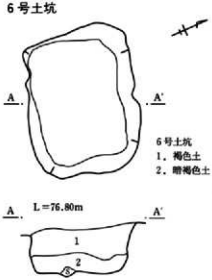
7号土坑
1．褐色土　As-B、炭化物少量を含む。砂状土。
2．黒褐色土　炭化物を多量に含む。
骨片がまばらに混じる。
底辺に薄く割られた石が敷かれている。
3．黄褐色土　焼土を含む。粘土状土。
4．暗褐色土　As-Bを少量含む。

5号土坑



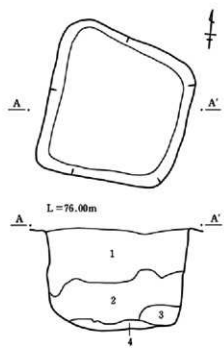
5号土坑
1．暗灰褐色　As-Bを含む。

6号土坑



6号土坑
1．褐色土　As-B、黄色細礫を含む。しまり強い。
2．暗褐色土　粘着質の土のあつまりにより形成。
① 褐色の粘土状の土。
② 暗褐色の粘土状の土のブロック。
③ 地山の黄色細礫。

11号土坑



11号土坑
1．As-B、褐色粘質土、黒色粘土ブロック、
黄色細礫層がモザイク状に埋まる。
2．暗褐色土　3層と同様であるが、
黄色細礫が多い。
3．褐色土　As-Bを含む。粘質。
4．灰褐色土　As-B、黄色細礫を含む。

0　1：40　2m

図25　5・6・7・11号土坑

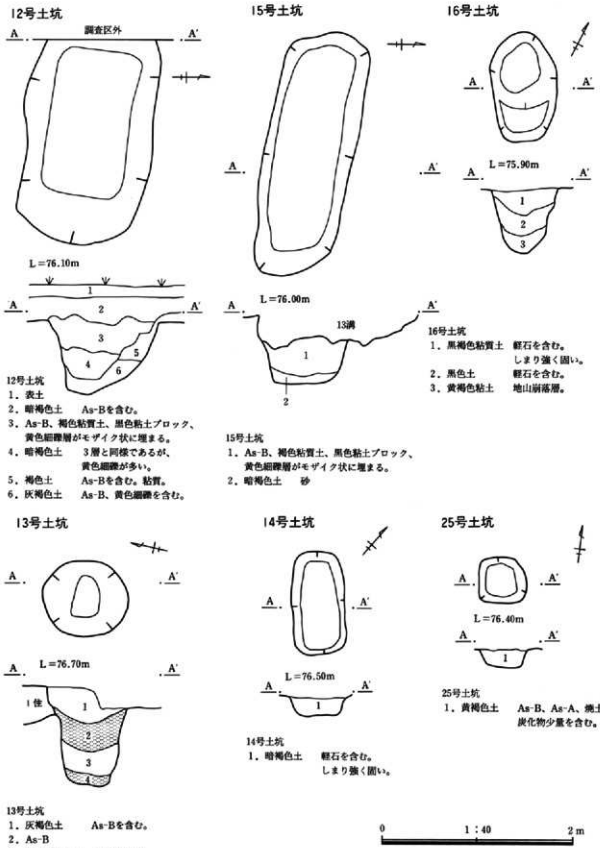
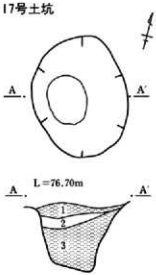


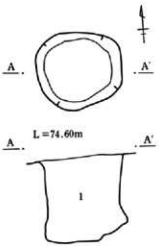
図26　12・13・14・15・16・25号土坑

17号土坑



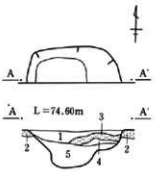
17号土坑
1．As-B
2．As-Bに灰紫色粘質土（火山灰か）を含む。
3．As-B
1・3は左下がりの層状。

18号土坑



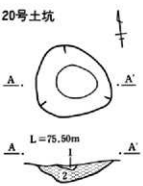
18号土坑
1．黒色粘質土　As-Bを含む。

19号土坑



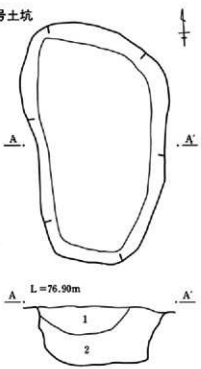
19号土坑
1．黒灰色土　As-Bを多量に含む。
2．As-B層
3．As-B
4．黒色粘質土
5．As-B、黒色粘質土が混ざる。

20号土坑



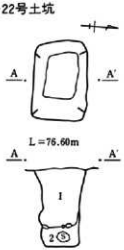
20号土坑
1．灰紫色粘質土（火山灰か）
2．As-B

21号土坑



21号土坑
1．As-B、黄色、黒色粘質土ブロックが混ざる。
2．As-B、黄色・黒色・灰色粘質土ブロックがモザイク状に堆まる。

22号土坑

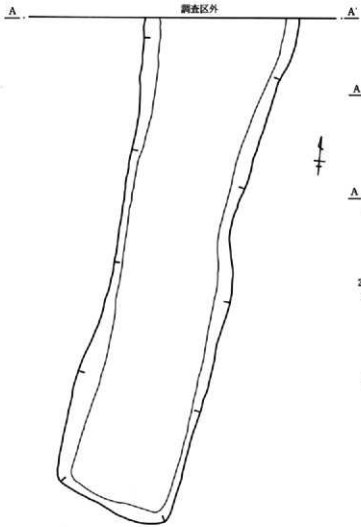


22号土坑
1．As-B、黒色粘質土ブロック、暗褐色粘質土ブロックがモザイク状に堆まる。
2．黒色粘質土ブロックと砂が混ざる。

0　1：40　2m

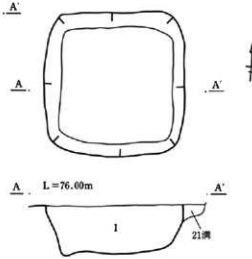
図27　17・18・19・20・21・22号土坑

26号土坑



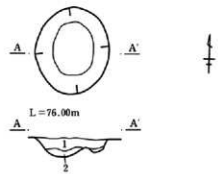
26号土坑
1．表土
2．灰黄褐色土　As-Aを含む。
3．赤褐色土　As-A、鉄分を含む。
4．褐色土　As-B、鉄分を含む。
5．暗褐色土　As-Bを含む。
6．As-B
7．As-B、黒色粘質土、褐色粘質土がモザイク状に埋まる。

23号土坑



23号土坑
1．As-Bを含む土、地山の黄褐色粘質土、黒色粘質土がモザイク状に埋まる。

30号土坑



30号土坑
1．黄色粘質土、灰色の砂、黒色粘質土状の土がモザイク状に埋まる。
2．灰褐色土　砂

0　1：40　2 m

図28　23・26・30号土坑

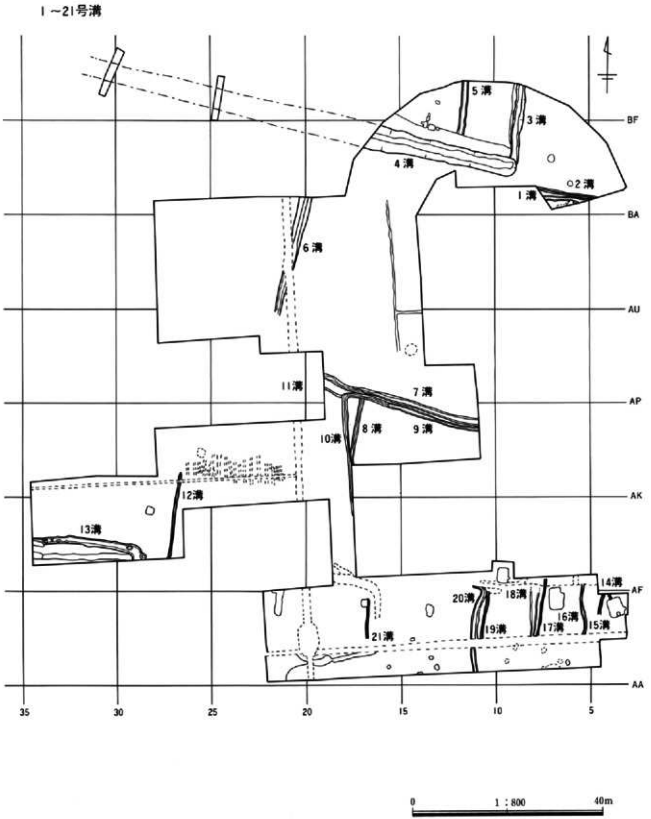


図29　溝全体図Ⅰ面（1～21号）

1・2・3・4・5・6号溝

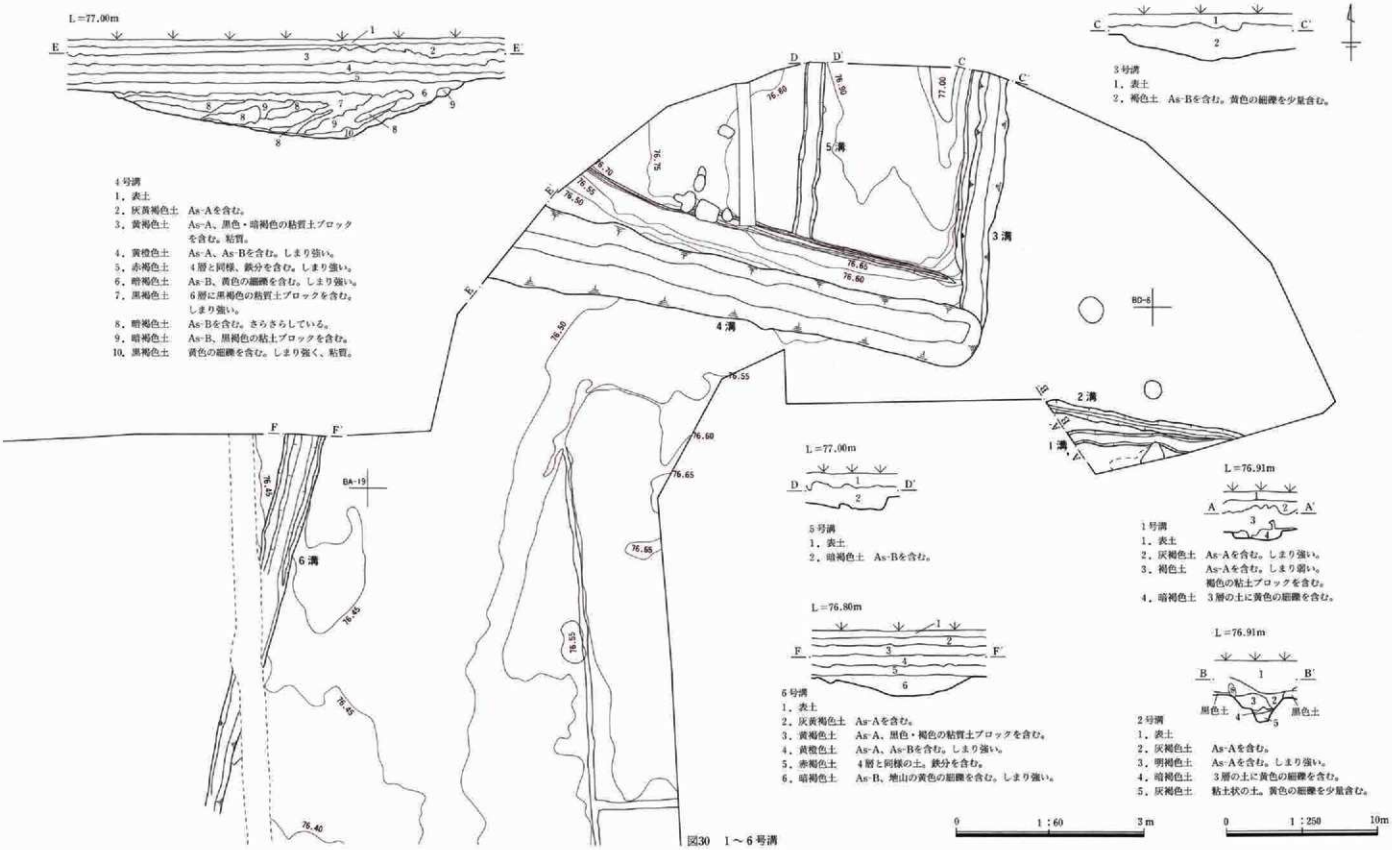
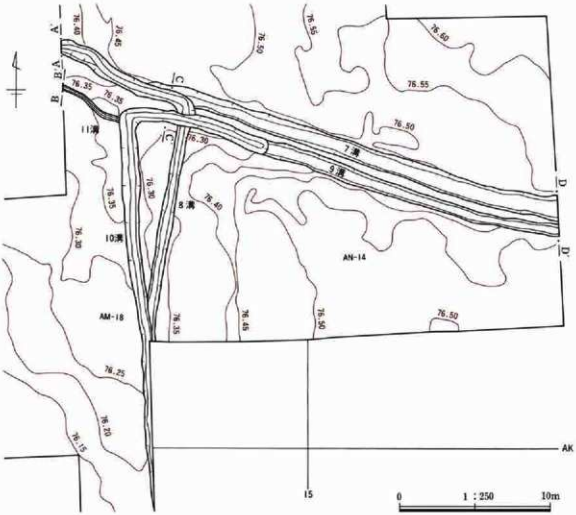
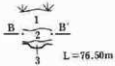


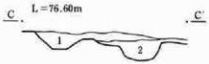
図30　1～6号溝

7・8・9・10・11号溝

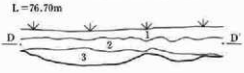




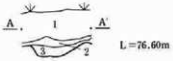
11号溝
1．灰褐色土　As-Aを含む。しまり弱い。
2．明灰褐色土　As-Bを含む。しまり強い。
3．赤褐色土　As-Bを含む。鉄分を含む。



10号・8号溝
1．明褐色土　鉄分を含む。しまり強い。
2．暗褐色土　粘質。



7号・9号溝
1．表土
2．褐色土　As-A、As-Bを含む。しまり強い。
3．赤褐色土　As-Bを含む。鉄分を含む。しまり強い。

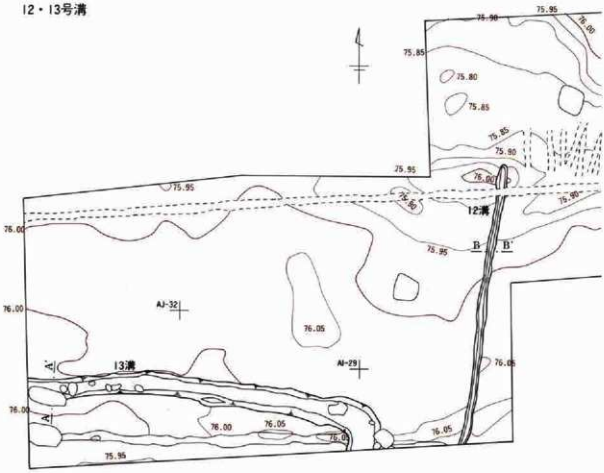


8号溝(西壁)
1．表土
2．明褐色土　鉄分を含む。しまり強い。
3．暗褐色土　粘質。

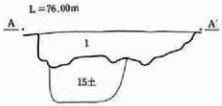
0　1：60　3m

図31　7～11号溝

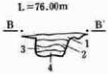
12・13号溝



0　1：250　10m



13号溝
1．暗灰褐色土　As-Bを含む。しまり弱い。



12号溝
1．褐色土　As-Bを少量含む。
2．暗褐色土　As-Bを含む。
3．褐色砂
4．黒色粘質土

0　1：40　2m

図32　12・13号溝

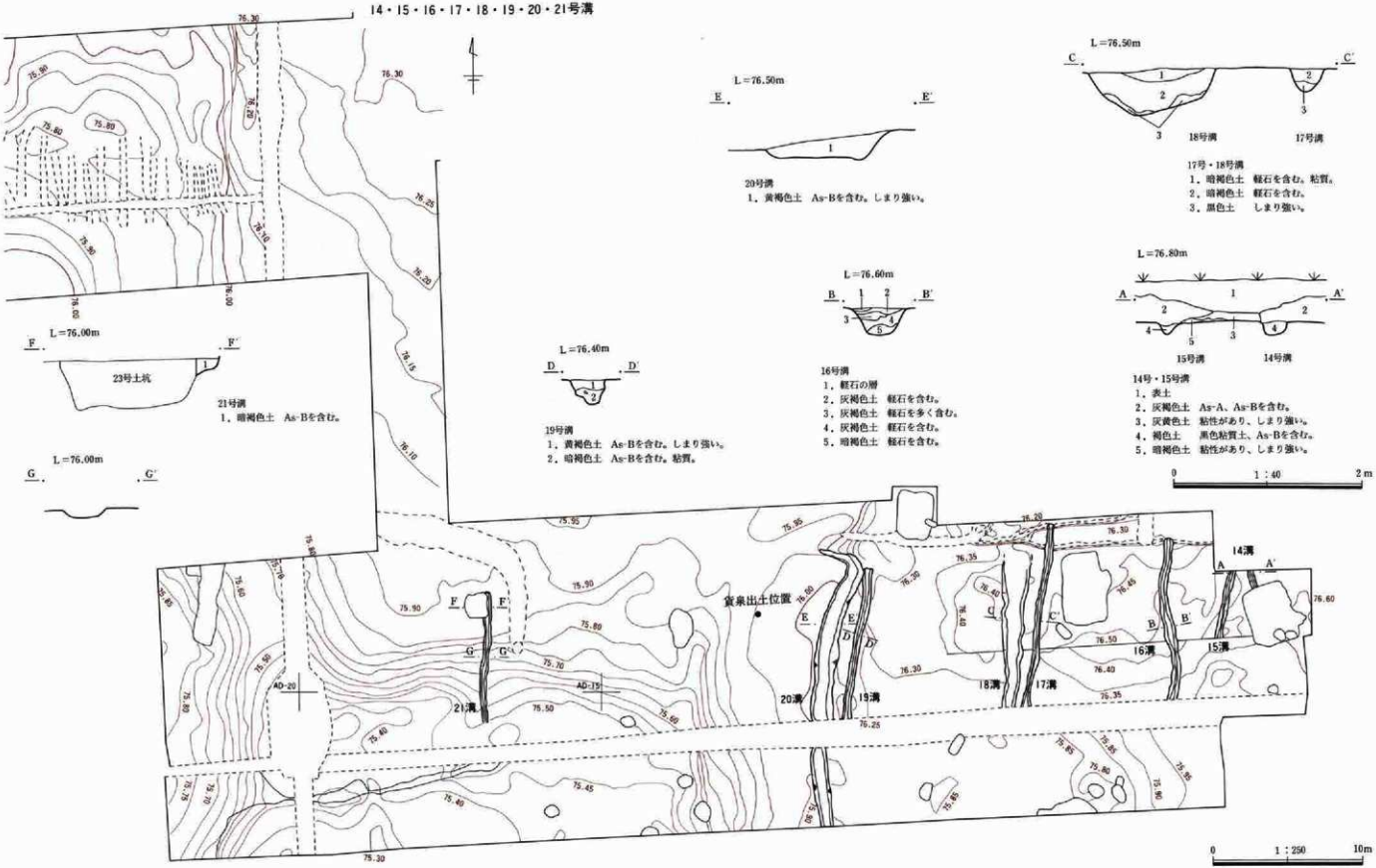
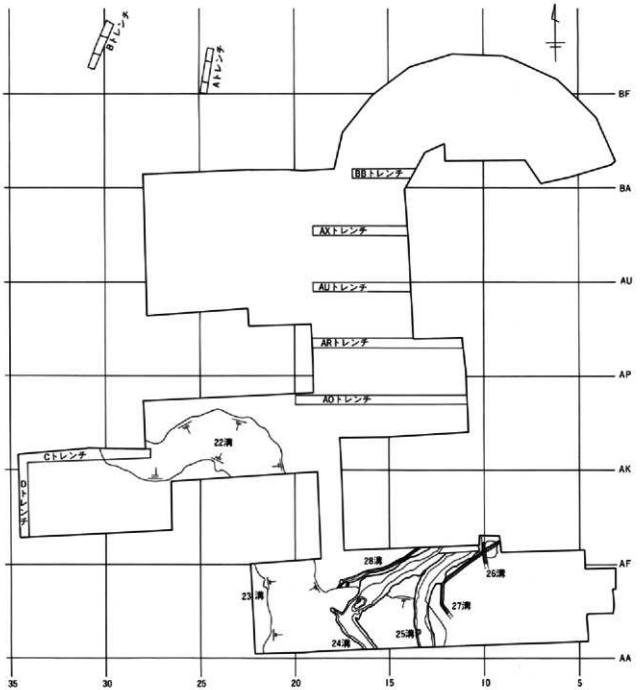

14・15・16・17・18・19・20・21号溝
L=76.00m
23号土坑
21号溝
1．暗褐色土　As-Bを含む。
L=76.00m
L=76.40m
19号溝
1．黄褐色土　As-Bを含む。しまり強い。
2．暗褐色土　As-Bを含む。粘質。
L=76.50m
20号溝
1．黄褐色土　As-Bを含む。しまり強い。
L=76.60m
16号溝
1．軽石の層
2．灰褐色土　軽石を含む。
3．灰褐色土　軽石を多く含む。
4．灰褐色土　軽石を含む。
5．暗褐色土　軽石を含む。
L=76.50m
18号溝
17号溝
17号・18号溝
1．暗褐色土　軽石を含む。粘質。
2．暗褐色土　軽石を含む。
3．黒色土　しまり強い。
L=76.80m
15号溝
14号溝
14号・15号溝
1．表土
2．灰褐色土　As-A、As-Bを含む。
3．灰黄色土　粘性があり、しまり強い。
4．褐色土　黒色粘質土、As-Bを含む。
5．暗褐色土　粘性があり、しまり強い。
0　1：40　2m
資泉出土位置
14溝
15溝
16溝
17溝
18溝
19溝
20溝
21溝
AD-20
AD-15
0　1：250　10m

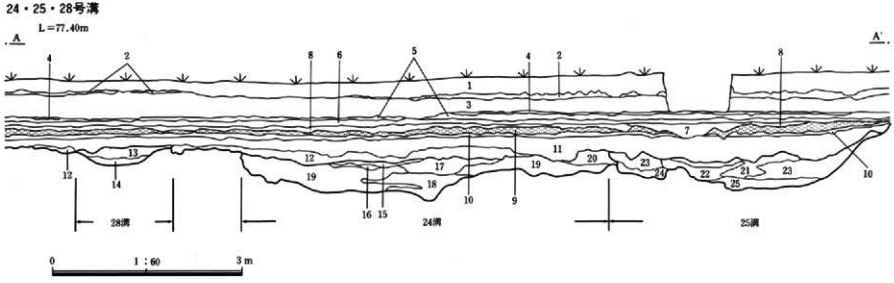
図33　14～21号溝

24・25・26・27・28号溝



0　1：800　40m

図34　溝全体図II面（24～28号）・トレンチ位置図



24号・25号・28号溝（北壁）

1．表土
2．暗褐色粘質土
3．暗褐色土　As-A、As-Bを多量に含む。
4．灰褐色粘質土　As-A、As-Bを含む。
5．灰褐色土　As-A、As-Bを多量に含む。
6．灰橙色土　As-Bを多量に含む。鉄分を含む。
7．暗灰褐色土　As-Bを含む。
8．黒褐色土　As-Bを含む。しまり強い。
9．As-B層
10．黒色土　水田耕作土。
11．黒灰色土　黄色細礫を含む。
12．暗褐色粘質土　橙・黄色細礫多量に含む。
13．暗褐色粘質土　灰橙色砂利層を含む。
14．暗灰褐色砂　軽石、黄色細礫を含む。
15．灰褐色砂　黄色砂利を含む。
16．灰褐色砂　黄色砂利を多量に含む。
17．灰褐色砂と暗褐色粘土、黄色砂利との互層。
18．灰褐色砂　うすい黄色砂利の層。
19．灰褐色砂質粘土　黄色砂利の層を含む。
20．灰色細砂　きめ細かく、鉄分の凝集あり。
21．灰褐色粘質土　黄色砂利を含む。
22．黒褐色粘質土　黄色砂利少量含む。鉄分の凝集あり。
23．灰色細砂　鉄分の凝集あり。
24．地山崩落層
25．砂利

28号溝：13～14
24号溝：15～20
25号溝：21～25

図35　24・25・28号溝土層断面図

24・25・26・27・28号溝

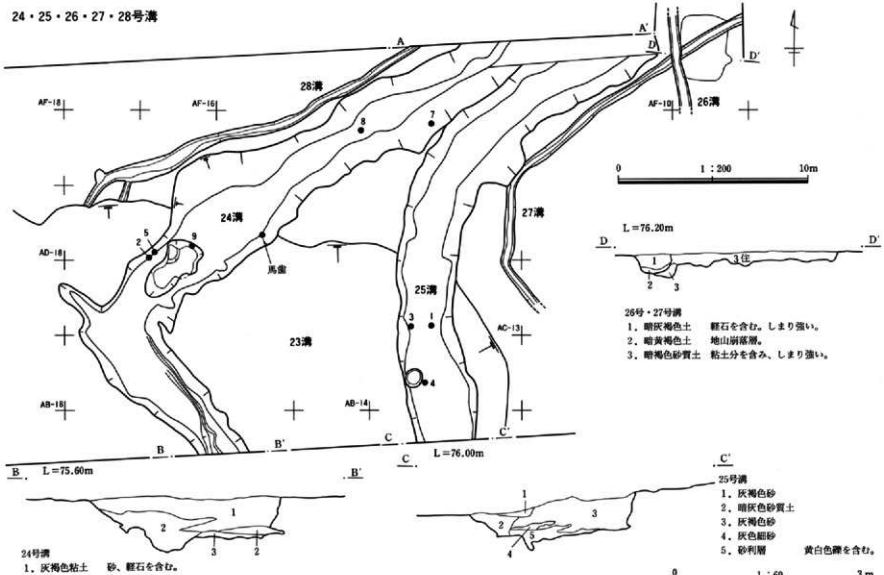


図36　24・25・26・27・28号溝

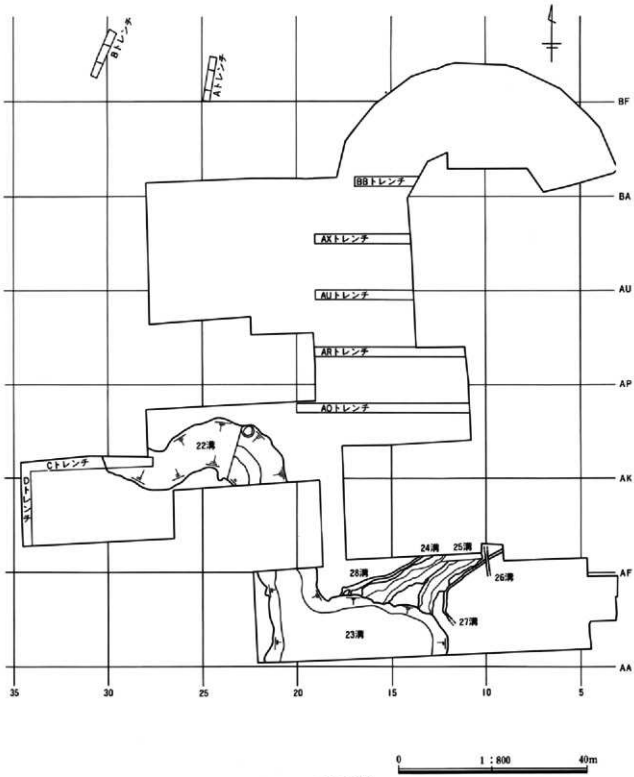


図37　22・23号溝全体図

22号溝

22号溝
1．表土
2．灰褐色砂質土　As－Bを多量に含む。鉄分の凝集が見られる。
3．As-B層
4．黒色土　水田耕作土。
5．黒褐色土　黄色細礫を含む。鉄分の凝集が見られる。
6．黒灰色土　Hr-FA、黄色粘質土のブロックを含む。
7．黒灰色土　きめの細かい土。
8．黒灰色土　As-C、黄白色礫を含む。　遺物包含層
9．黒灰色粘質土　As-Cを含む。
10．As-C層
11．黒色土　きめの細かい土、間にうすい砂層あり。
12．黒褐色粘質土　地山の粘土粒を含む。溝の底部に近づくほど砂が多くなる。
13．黒色粘質土　図左端付近に炭化物含む。
14．暗灰色土　黄白色の礫を多量に含む。溝底面には砂利を多く含む。鉄分の凝集あり。

図38　22号溝遺物出土位置図・土層断面図

図39　23号溝遺物出土位置図・土層断面図

柴崎熊野前遺跡

遺物実測図編

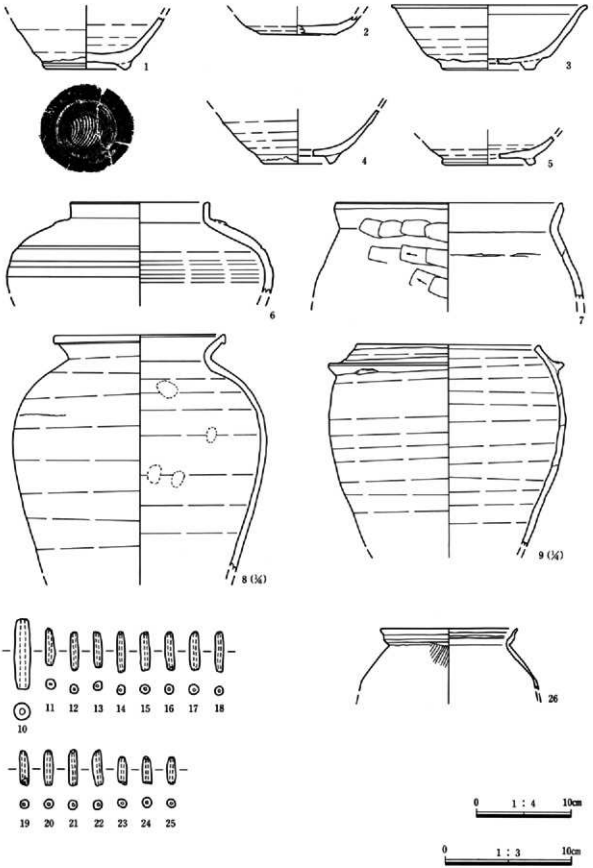


図40　1号住居出土遺物

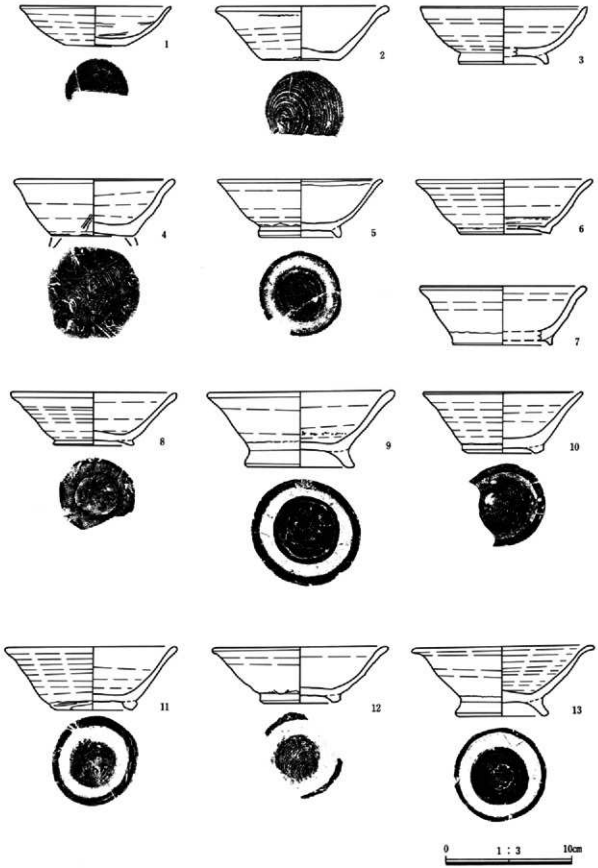


図41　2号住居出土遺物 (1)

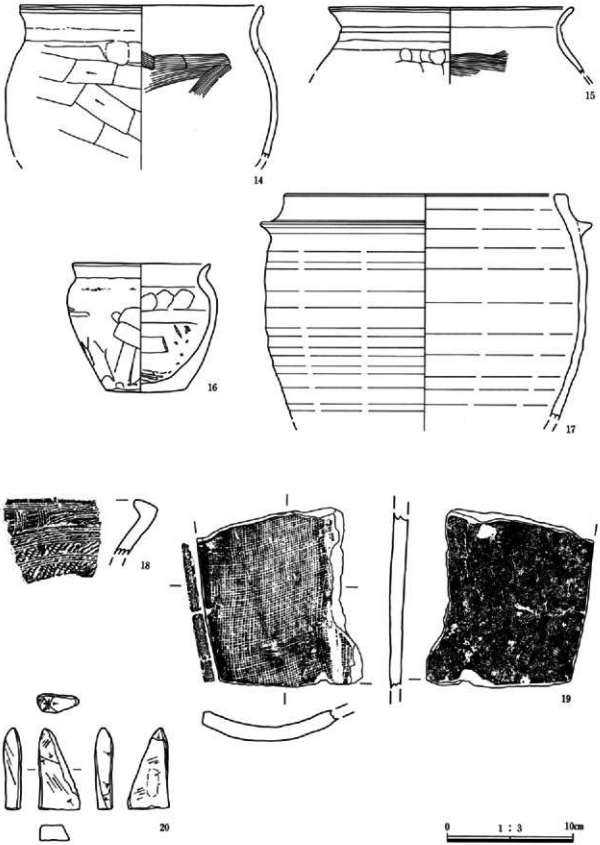


図42　2号住居出土遺物 (2)

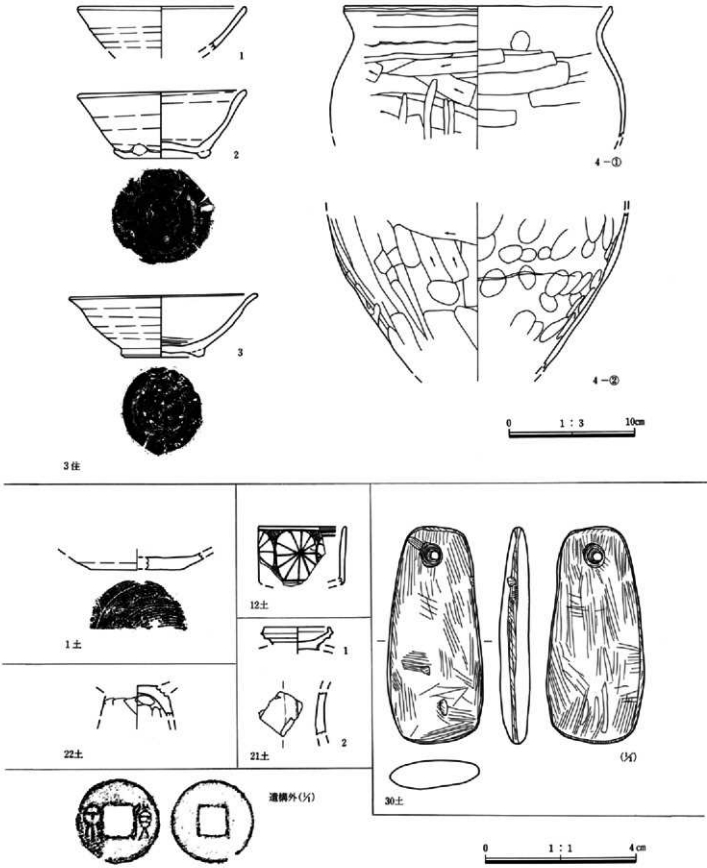


図43　3号住居、1・12・21・22・30号土坑出土遺物、遺構外遺物

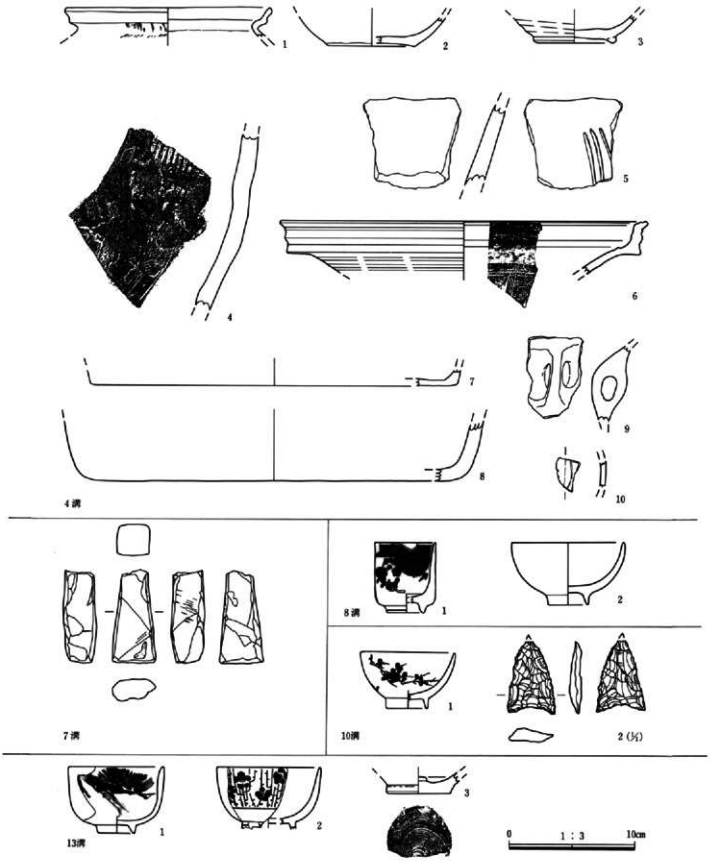


図44　4・7・8・10・13号溝出土遺物

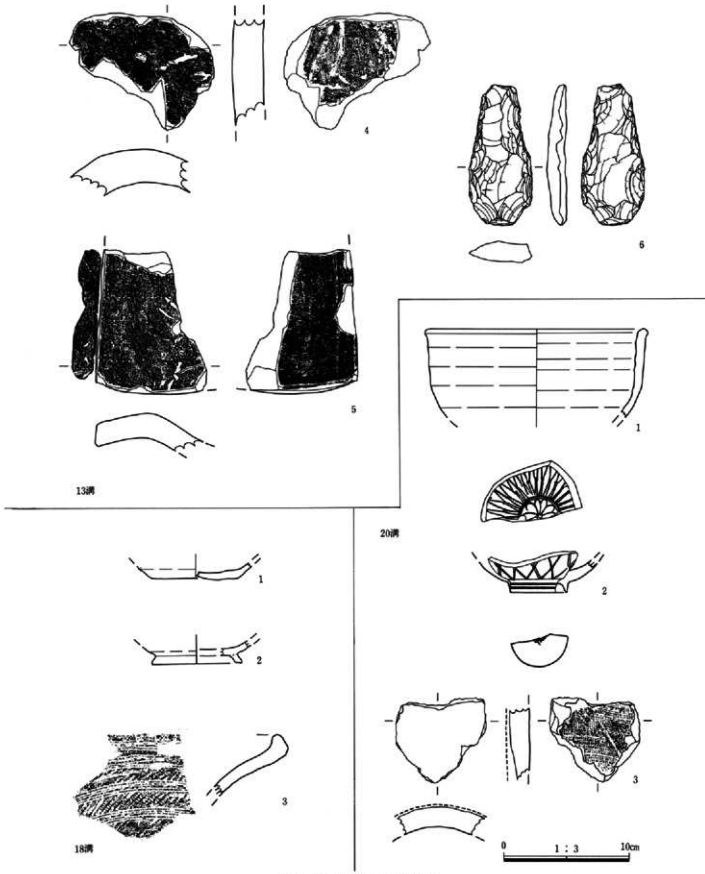


図45　13・18・20号溝出土遺物

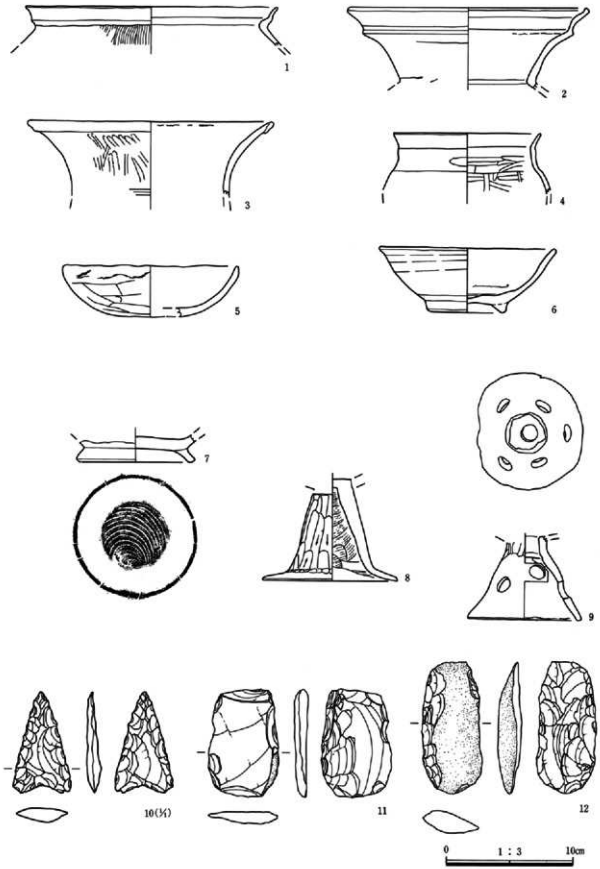
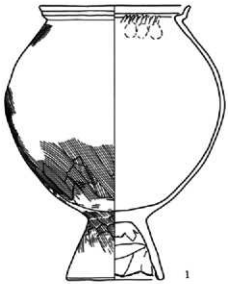
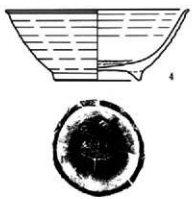
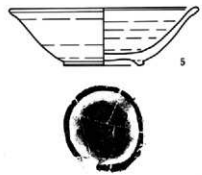


図46　24号溝出土遺物







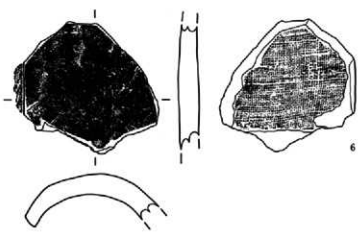


図47　25号溝出土遺物

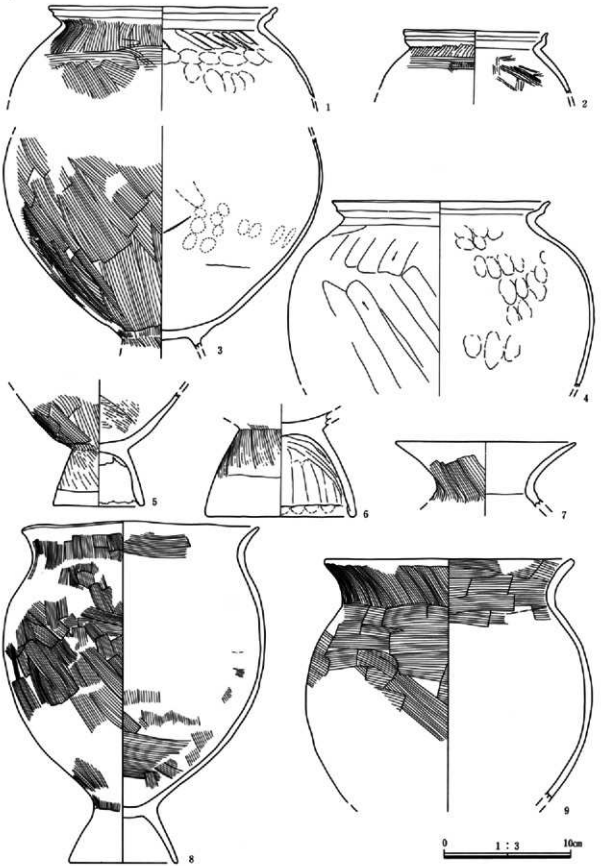


図48　22号溝出土遺物 (1)

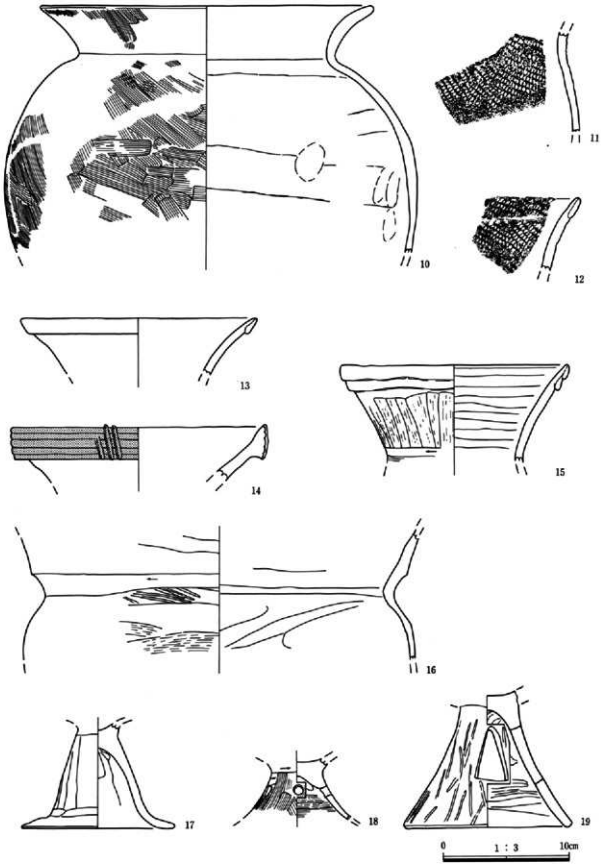


図49　22号溝出土遺物 (2)

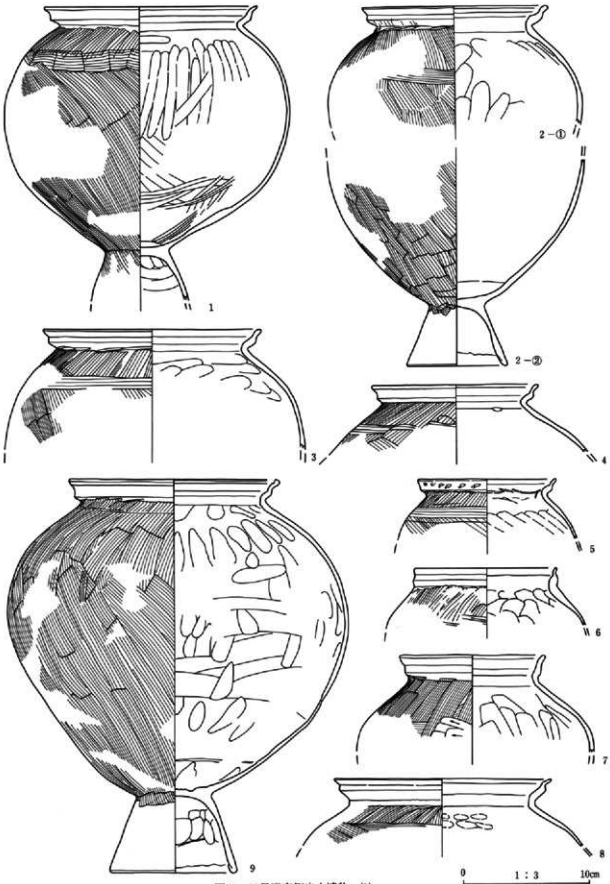


図50　23号溝東側出土遺物　(1)

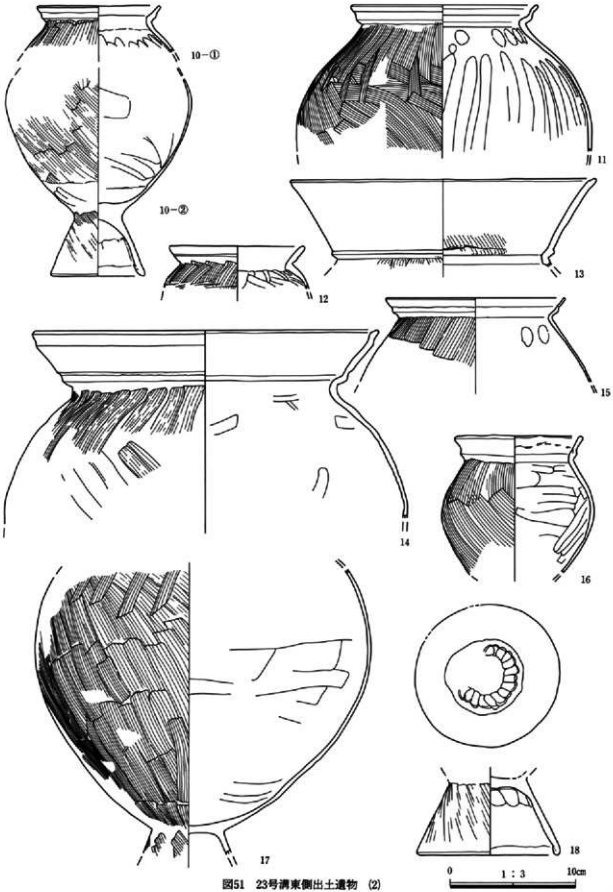


図51　23号溝東側出土遺物　(2)

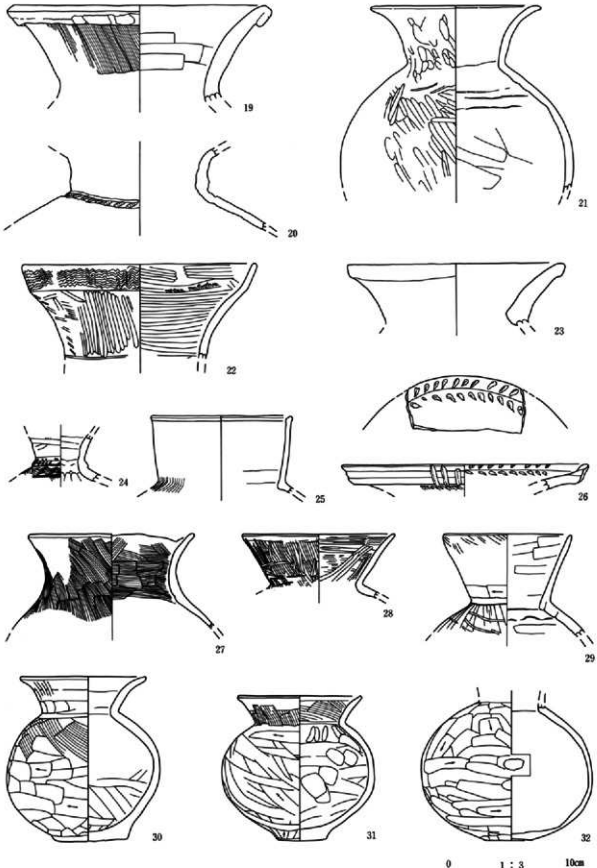


図52　23号溝東側出土遺物 (3)

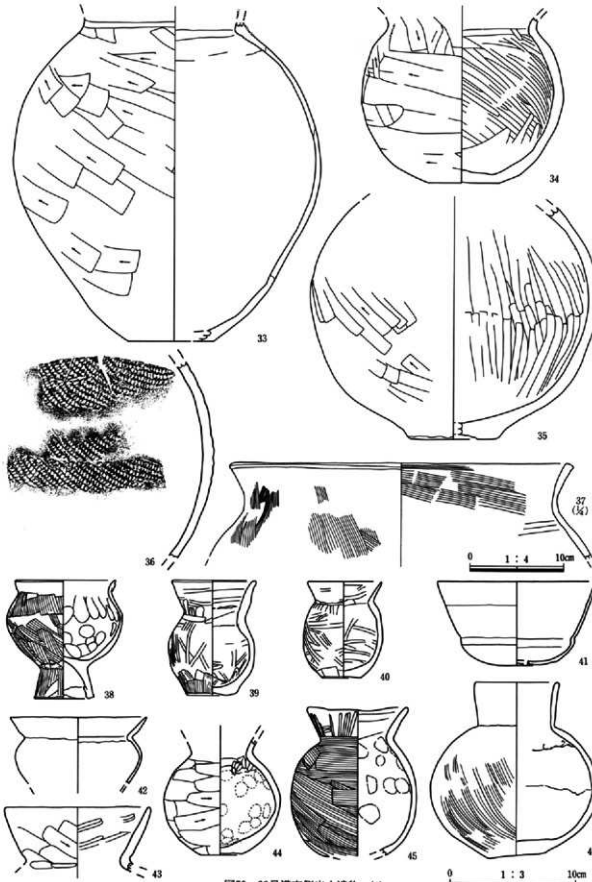


図53 23号溝東側出土遺物 (4)

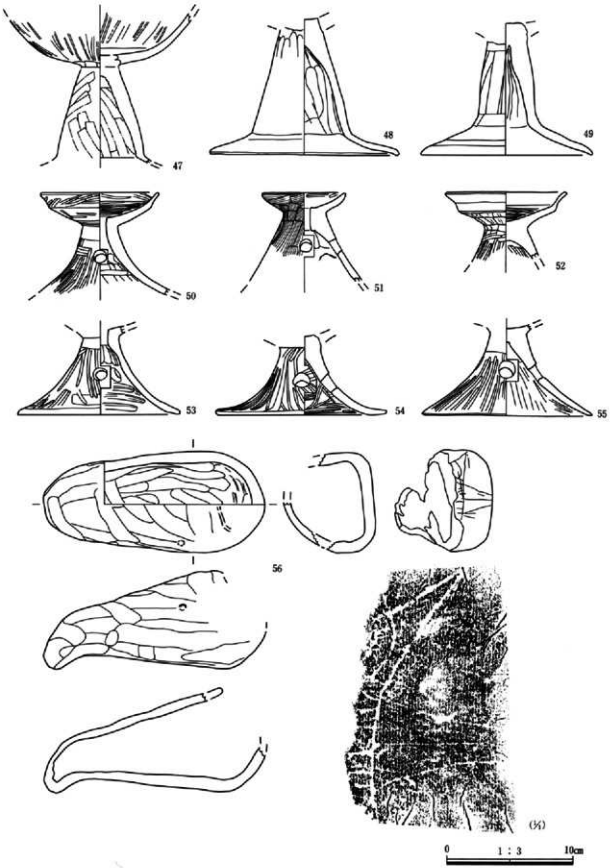


図54　23号溝東側出土遺物 (5)

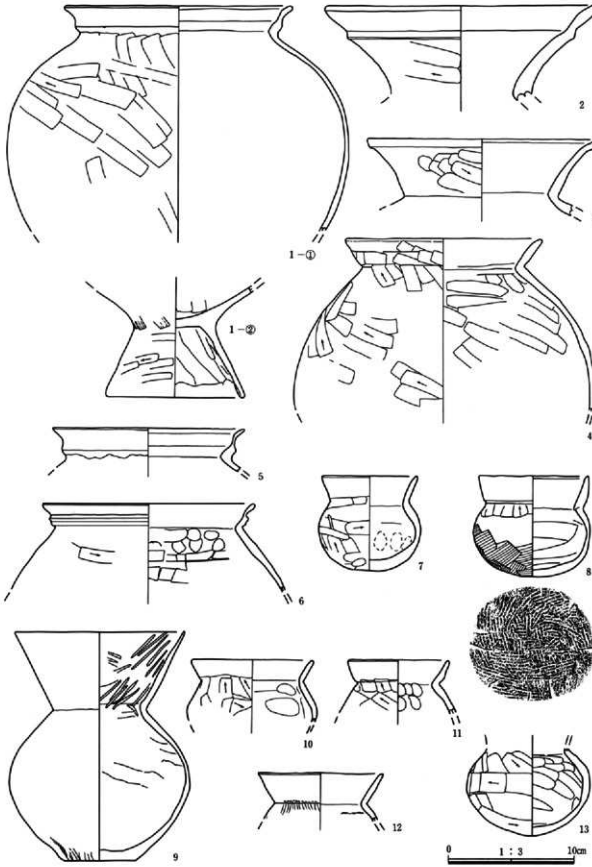


図55　23号溝西側出土遺物（1）

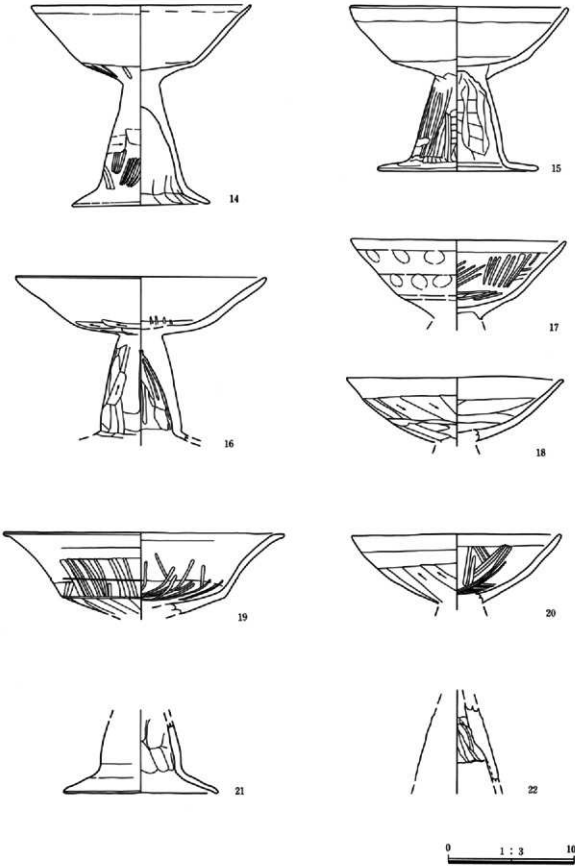


図56　23号溝西側出土遺物 (2)

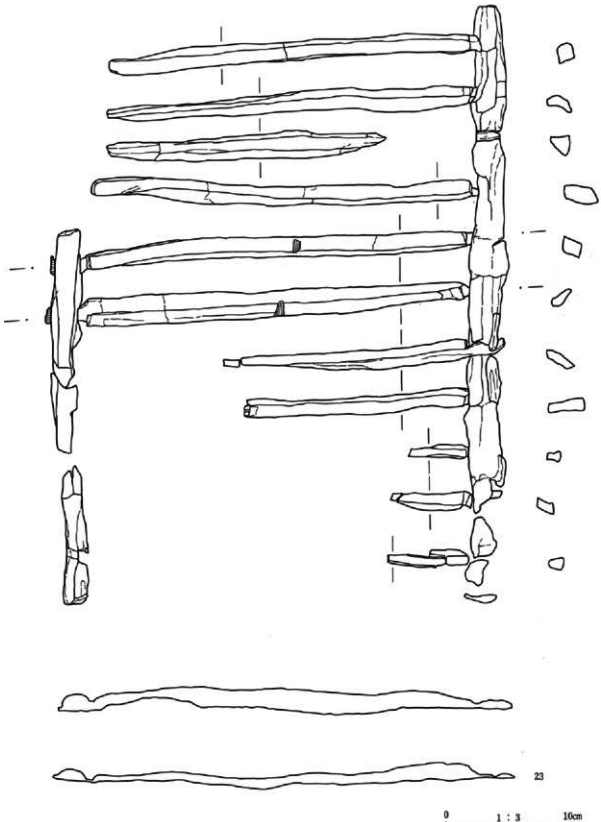


図57　23号溝西側出土遺物　木製品

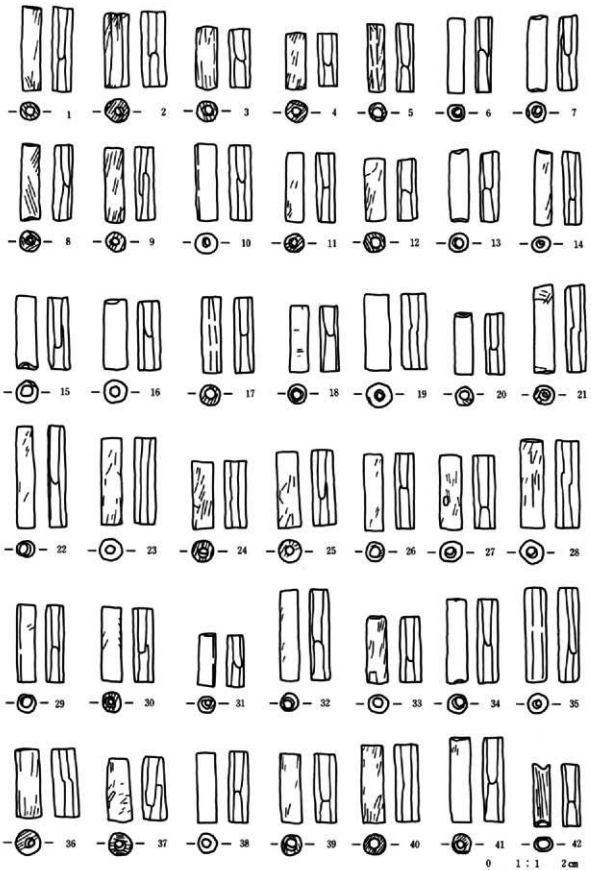


図58　23号溝東側出土遺物　石製品 (1)

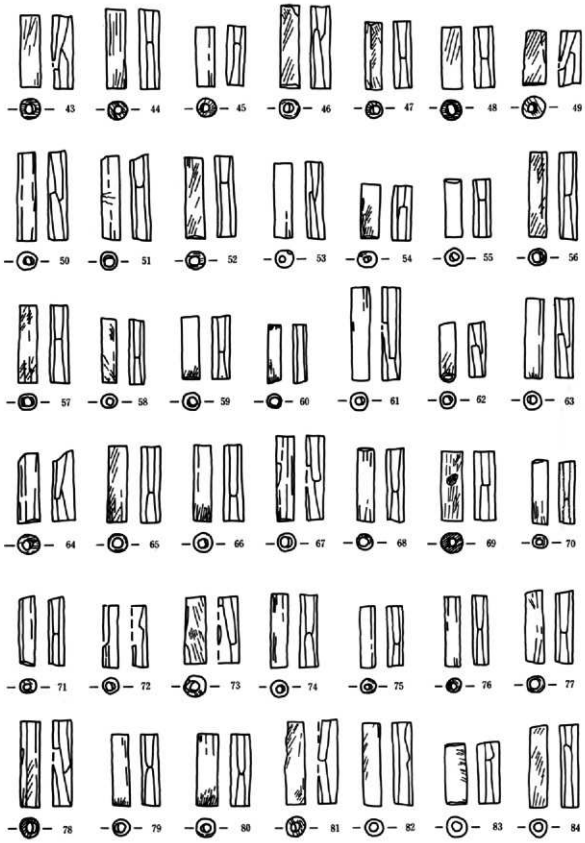


図59 23号溝東側出土遺物 石製品 (2)

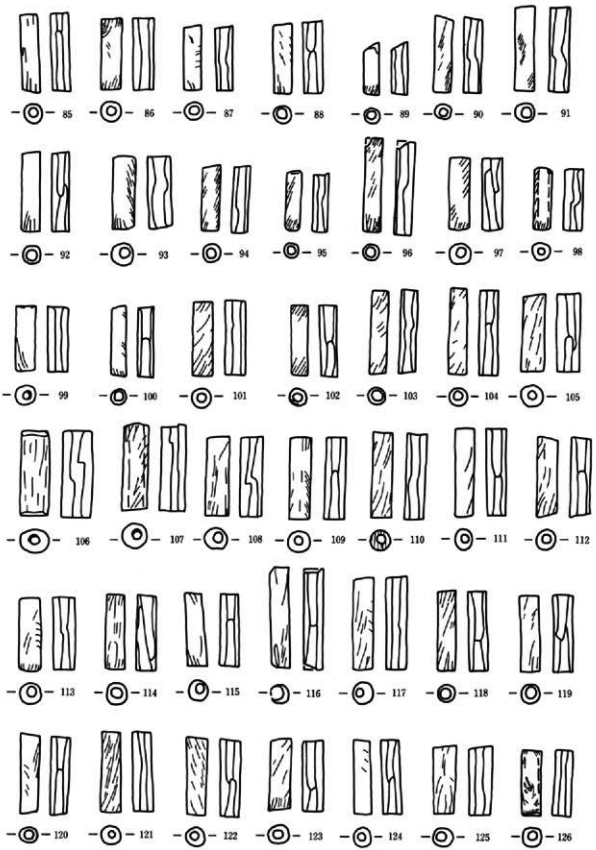


図60　23号溝東側出土遺物　石製品 (3)

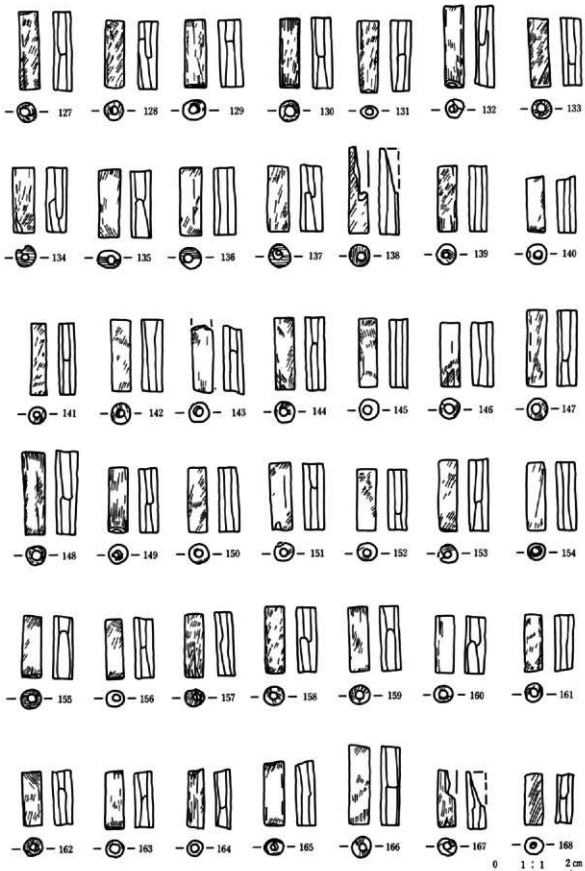


図61　23号溝東側出土遺物　石製品　(4)

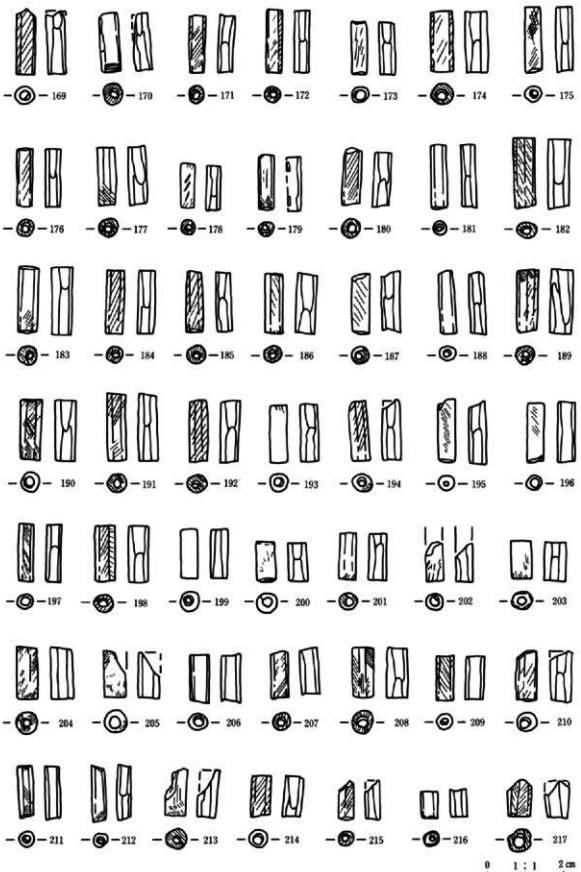


図62　23号溝東側出土遺物　石製品 (5)

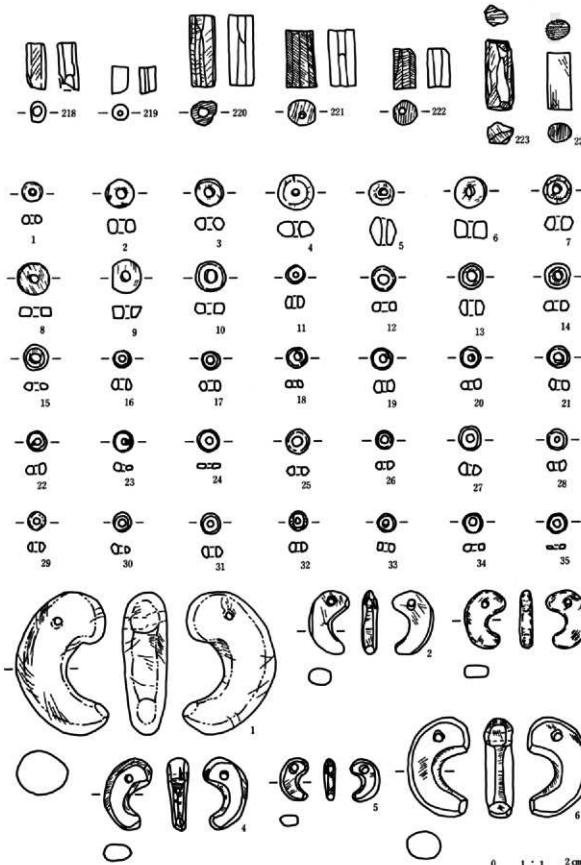


図63 23号溝東側出土遺物 石製品 (6)

図64　23号溝東側出土遺物　石製品 (7)

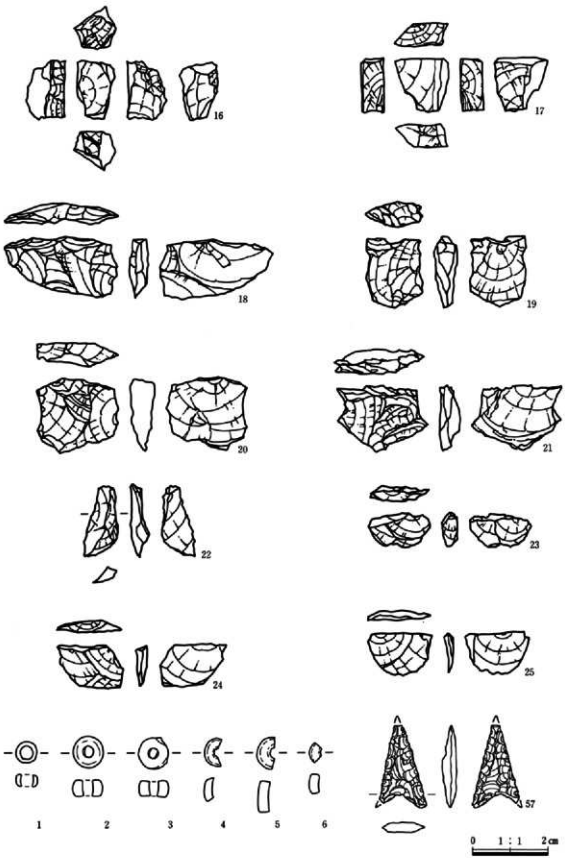


図65 23号溝東側出土遺物 石製品 (8)、ガラス製品

遺物観察表

柴崎熊野前遺跡1号住居出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	須恵器 椀	カマド	口－ 底 7.1 高－	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	底部
2	須恵器 坏	床面より ＋5cm	口－ 底 (6.0) 高－	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔・硬 ③灰色	底部1/2
3	須恵器 椀	カマド 掘り方	口 (15.6) 底 (7.4) 高 5.1	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔・軟 ③黄色	破片
4	須恵器 椀	カマド	口－ 底 (5.6) 高－	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔・軟 ③灰白色	底部片
5	須恵器 椀	床面より ＋5cm	口－ 底 (7.4) 高－	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔・硬 ③灰色	底部1/4
6	須恵器 甕	カマド 床直	口 (9.8) 底－ 高－	輪積成形。口縁端部に面取り。外面に自然釉がわずかに付着。	①細砂粒 ②還元焔・硬 ③灰白色	口縁部片
7	土師器 甕	床直	口 (18.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面斜横位箆削り、内面横位箆撫で。口縁端部外面に面取りあり。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③明赤褐色	口縁部側面部 1/3
8	須恵器 甕	カマド	口 18.1 底－ 高－	輪積成形後、体部は回転撫で。内面に指頭圧痕あり。口縁端部外面に面を取る。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部1/2
9	須恵器 羽釜	カマド	口 19.1 底－ 高－	輪積成形後、体部外面下半縦位箆削り。鍔は貼り付けで、上下を丁寧に撫でる。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	底部破損
10	土製品 土錘	貯蔵穴	長 5.5 孔 0.4 径 1.3 重量 9.72	撫で。両端を削り調整。	①細粒 ②酸化焔 ③灰褐色	完形
11	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.9 孔 0.1 径 0.7 重量 1.88	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
12	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.0 孔 0.2 径 0.7 重量 1.71	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
13	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.8 孔 0.2 径 0.7 重量 1.59	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
14	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.2 孔 0.2 径 0.6 重量 1.79	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
15	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.1 孔 0.2 径 0.8 重量 1.98	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
16	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.0 孔 0.2 径 0.7 重量 1.97	撫で。一端を欠損。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	破損品
17	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.0 孔 0.2 径 0.8 重量 1.98	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
18	土製品 土錘	貯蔵穴	長 3.2 孔 0.2 径 0.7 重量 1.88	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
19	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.7 孔 0.2 径 0.7 重量 1.48	撫で。一端を欠損。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	破損品
20	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.7 孔 0.2 径 0.7 重量 1.55	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
21	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.8 孔 0.2 径 0.7 重量 1.65	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
22	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.8 孔 0.2 径 0.7 重量 1.62	撫で。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	完形
23	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.2 孔 0.2 径 0.7 重量 1.25	撫で。一端を欠損。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	破損品
24	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.1 孔 0.2 径 0.7 重量 1.33	撫で。一端を欠損。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	破損品
25	土製品 土錘	貯蔵穴	長 2.1 孔 0.2 径 0.7 重量 1.12	撫で。一端を欠損。	①細粒 ②酸化焔 ・軟 ③褐色	破損品

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
26	土師器 台付甕	覆土	口 (10.8) 底 − 高 −	口縁部内外面丁寧な横撫で。体部外面斜縦位箆削り、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③にぶい黄橙色	口縁部片

柴崎熊野前遺跡２号住居出土遺物

1	須恵器 坏	床直	口 11.9 底 4.8 高 3.2	轆轤成形。底部右回転糸切り無調整。	①細砂粒 ②酸化焔 ③淡黄色	1/2
2	須恵器 坏	住居内土坑 縁辺部	口 (13.6) 底 0.6 高 4.0	轆轤成形。底部右回転糸切り無調整。	①細砂粒 ②還元焔 ③にぶい黄橙色	1/2
3	須恵器 椀	張り方 覆土	口 (13.0) 底 (7.0) 高 4.5	轆轤成形。なお、小片のために、底部の切り離しと調整は不明。	①細砂粒 ②還元焔・硬 ③灰色	破片
4	須恵器 椀	住居内土坑	口 12.7 底 6.5 高 4.4	轆轤成形後、回転撫で。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③にぶい黄橙色	ほぼ完形
5	須恵器 椀	住居内土坑	口 (13.0) 底 6.2 高 4.5	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③淡黄色	1/4
6	須恵器 椀	床直	口 (13.8) 底 (7.0) 高 4.3	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③にぶい橙色	1/2
7	須恵器 椀	掘り方	口 (13.0) 底 (8.0) 高 4.7	轆轤成形。なお、小片のために、底部の切り離しと調整は不明。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰白色	破片
8	須恵器 椀	床面より ＋5cm	口 13.2 底 (6.4) 高 4.2	轆轤成形。底部回転糸切り（高台貼り付け時の撫でによって痕跡が消えている）。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③灰白色	3/4
9	須恵器 椀	住居内土坑	口 14.8 底 8.6 高 6.1	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②酸化焔・軟 ③にぶい橙色	ほぼ完形
10	須恵器 椀	カマド	口 (12.5) 底 5.4 高 4.9	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③浅黄橙色	1/3
11	須恵器 椀	住居内土坑	口 (13.5) 底 6.0 高 5.0	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③にぶい橙色	1/2
12	須恵器 椀	掘り方	口 (13.8) 底 (6.3) 高 4.4	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③灰白色	1/4
13	須恵器 椀	住居内土坑	口 14.3 底 7.2 高 5.5	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③灰白色	ほぼ完形
14	土師器 甕	床直	口 (19.0) 底 − 高 −	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位箆削り、内面箆撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐色	口縁部1/4
15	土師器 甕	床面より ＋5cm	口 (19.1) 底 − 高 −	口縁部内外面横撫で。体部外面横位箆削り、内面箆撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	口縁部片
16	土師器 小形甕	住居内土坑 縁辺部	口 10.9 底 6.2 高 10.1	口縁部内外面横撫で。体部外面箆削り後撫で、内面丁寧な横撫で。	①細砂粒 ②酸化焔・軟 ③にぶい赤褐色	ほぼ完形
17	須恵器 羽釜	床直	口 (22.0) 底 − 高 −	轆轤成形後、体部外面下半縦位箆削り。	①細砂粒 ②酸化焔・軟 ③灰白色	破片
18	縄文土器 深鉢	掘り方		半截竹管による幅２mmの平行沈線で口縁に対弧状に文様を施文する。口縁以下を同じ工具で横位に区画。地文の縄文はＬＲ。諸磯Ｂ式。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	口縁部片

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
19	瓦 平瓦	掘り方		挟端の隅部。凸面、荒い撫で。凹面、布目圧痕。側面、面取り一回。	①細砂粒 ②酸化焔 ③橙色	破片

番号	器種	出土位置 残存状況	計測値（cm・g）				石材	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量		
20	石製品 砥石	床直	6.1	3.3	1.2	27.80	変質流紋岩	3側面を砥石として使用。

柴崎熊野前遺跡3号住居出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	須恵器 椀	床直	口 13.3 底－ 高－	輪積成形。	①粗砂粒 ②還元焔 ③浅黄色	口縁部3/4
2	須恵器 椀	床直	口 13.2 底 6.3 高 5.2	輪積成形後、口縁部内外面撫で。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②酸化焔・軟 ③にぶい橙色	完形
3	須恵器 椀	覆土	口 14.7 底 5.9 高 4.8	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②酸化焔・軟 ③にぶい橙色	半完形
4①	土師器 甕	床直	口 (21.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面斜横位篦削り、内面篦撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③明赤褐色	口縁部1/4
4②	土師器 甕	カマド	口－ 底－ 高－	体部外面中位斜横位篦削り、下半縦位篦削り、内面篦撫で。内面に多くの指頭圧痕あり。	①細砂粒 ②酸化焔 ③明赤褐色	体部下半部

柴崎熊野前遺跡1号土坑出土遺物

1	須恵器 坏	覆土	口－ 底 (7.5) 高－	輪積成形。底部右回転糸切り。	①細砂粒 ②還元焔 ③橙色	底部片

柴崎熊野前遺跡12号土坑出土遺物

1	肥前陶磁器 筒型碗	覆土	口 (7.0) 底－ 高－	外面、菊花文。18世紀後半～19世紀前半。	①白色 ②普通 ③	1/4

柴崎熊野前遺跡21号土坑出土遺物

1	須恵器 椀の蓋	覆土	摘径 5.2 底－ 高－	輪積成形。自然釉がかかる。	①細砂粒 ②還元焔・硬 ③灰色	蓋の摘
2	中国磁器 青磁碗	覆土		龍泉窯系青磁碗Ⅰ-56類。釉に貫入入る。	①青灰色 ②やや不良 ③	体部小片

柴崎熊野前遺跡22号土坑出土遺物

1	土師器 台付甕	覆土	口－ 底－ 高－	台部外面斜位篦削り、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③暗灰黄色	台部上部分 1/2

柴崎熊野前遺跡30号土坑出土遺物

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）					石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	孔径	重量			
1	石製品 垂飾	覆土	5.7	2.5	0.75	0.6	17.14	蛇紋石	完形	両面穿孔。光沢あり。側面・裏面に研磨痕。

柴崎熊野前遺跡 4 号溝出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	土師器 台付甕	覆土	口 (16.0) 底 − 高 −	口縁部内外面横撫で、頸部外面縦位刷毛目、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③淡黄橙色	口縁部片
2	須恵器 坏	覆土	口 − 底 (7.0) 高 −	轆轤成形。底部右回転糸切り。	①細砂粒 ②還元焔 ③にぶい黄色	底部片
3	須恵器 椀	覆土	口 − 底 6.5 高 −	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②還元焔 ③灰白色	底部片
4	焼締陶器 壺	覆土		外面、タタキ目あり。瀬美窯。12世紀〜13世紀前半。	① ② ③黒灰色	体部小片
5	軟質陶器 擂鉢	覆土		内面にスリ目を施す。中世。	① ② ③黒灰色	体部小片
6	焼締陶器 擂鉢	覆土	口 (24.0) 底 − 高 −	体部外面轆轤目あり。信楽系。17〜18世紀。	① ② ③	口縁部片
7	陶器 内耳鍋か 焙烙	覆土	口 − 底 (28.9) 高 −	胎土の特徴から中世と考えられる。	① ② ③	底部片
8	陶器 内耳鍋	覆土	口 − 底 (28.0) 高 −	底部は丸底と考えられる。14世紀後半〜15世紀前半。	① ② ③	底部小片
9	陶器 内耳鍋	覆土		内耳部小片のため、口縁部形態不明。15〜16世紀。	① ② ③	体部小片
10	中国磁器 青磁碗	覆土		器壁が厚く、釉が厚い。外面に蓮弁文を施す。龍泉窯系青磁碗III類か。	①青灰色 ② ③	小片

柴崎熊野前遺跡 7 号溝出土遺物

番号	器種	出土位置 残存状況	計測値 (cm・g)				石材	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量		
1	石製品 砥石	覆土	7.3	2.6	2.6	91.74	変質流紋岩	4 側面を砥石として使用。

柴崎熊野前遺跡 8 号溝出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	瀬戸・美濃 磁器 湯飲み茶碗	覆土	口 (4.9) 底 (2.8) 高 5.5	外面、銅板プリントによる染め付け。明治〜昭和。	①灰白色 ②やや不良 ③	1/2
2	瀬戸・美濃 磁器 湯飲み茶碗	覆土	口 (8.7) 底 (3.0) 高 4.9	外面、クローム青磁釉。内面と高台内透明釉のかけ分け。明治〜昭和。	①白色 ②普通 ③	1/4

柴崎熊野前遺跡10号溝出土遺物

1	瀬戸・美濃 磁器 小碗	覆土	口 (7.4) 底 (3.1) 高 4.4	外面、銅板プリントによる梅の折枝文。明治〜昭和。	①白色 ②普通 ③	1/2

番号	器種	出土位置	計測値 (cm・g)				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
2	打製石斧	覆土	(1.9)	1.3	0.4	0.63	黒曜石	頭部欠損	凹基無茎。

遺物観察表

柴崎熊野前遺跡13号溝出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	瀬戸・美濃 磁器 湯飲み茶碗	覆土	口 (7.4) 底 (2.8) 高 4.6	下絵松文。昭和。	①白色 ②普通 ③	1/4
2	瀬戸・美濃 磁器 湯飲み茶碗	覆土	口 (8.0) 底－ 高 4.8	ゴム印判による梅文。昭和。	①白色 ②普通 ③	1/5
3	瀬戸・美濃 陶器 蓋	覆土	口－ 底 (5.0) 高－	低い摘を有する落とし蓋状の蓋。残存部には施釉していない。18世紀。	① ②普通 ③	口縁部欠損
4	瓦 桟瓦	覆土		凸面、研磨。凹面、縁辺部無で。	① ②還元焔・硬 ③黒灰色	破片
5	瓦 平瓦	覆土		凸面、荒い撫で。凹面、布目圧痕、絞り痕。	①細砂粒 ②還元焔 ③暗灰色	破片

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
6	打製石斧	覆土	11.0	4.9	1.7	115.19	安山岩	完形	ばち形。横長剝片素材。

柴崎熊野前遺跡18号溝出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	須恵器 椀	覆土	口－ 底 (6.8) 高－	轆轤成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台（高台は剥離している）。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰色	底部片
2	須恵器 椀	覆土	口－ 底 (7.0) 高－	轆轤成形。底部、回転糸切り（と思われる）。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰白色	底部片
3	縄文土器 深鉢	覆土		半截竹管による幅2mmの平行沈線を横位に数本単位で蛇文し、横位に区画する。地文の縄文はLR。諸磯B式。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい黄橙色	口縁部片

柴崎熊野前遺跡20号溝出土遺物

1	瀬戸・美濃 陶器 片口鉢(?)	覆土	口 (17.0) 底－ 高－	内外面、鉄釉。口縁部外反する。18世紀前半。	① ②普通 ③	口縁部片
2	肥前磁器 椀	覆土	口－ 底 (4.4) 高－	内面、一重網目に菊花文。外面、二重網目文。高台内不明銘。波佐見系。18世紀前～後期。	①灰白色 ②普通 ③	底部片
3	瓦 丸瓦	覆土		凸面、全面剥離。凹面、布目圧痕。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰黄色	破片

柴崎熊野前遺跡24号溝出土遺物

1	土師器 台付甕	西側縁辺部	口 (20.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面縦位刷毛目、内面荒撫で、頸部内面指押さえ。	①粗砂粒 ②微化焔 ③淡赤橙色	口縁部片
2	土師器 甕	覆土	口 (19.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。頸部内外面横撫で。	①粗砂粒 ②微化焔・硬 ③橙色	口縁部片
3	土師器 小形台付甕		口 (19.6) 底－ 高－	口縁部外面撫で後丁寧な篦研磨、内面撫で後頸部付近のみ篦研磨痕あり。	①細砂粒 ②微化焔 ③にぶい橙色	口縁部片
4	土師器 甕		口 (11.6) 底－ 高－	口縁部から頸部内外面横撫で、篦研磨を施す。体部外面斜横位荒削り、内面荒撫で。	①細砂粒 ②微化焔 ③橙色	口縁部片

番号	種類 器種	出土位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
5	土師器 坏	西側縁辺部	口 (14.0) 底 — 高 —	口縁部外面横撫で。内面斜横位撫で。体部外面斜位篦削り、内面斜横位撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	破片
6	土師器 椀	覆土	口 (14.0) 底 (6.3) 高 5.1	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	1/2
7	須恵器 椀	東側縁辺部	口 — 底 9.4 高 —	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰色	底部
8	土師器 高坏	底部	口 — 底 (10.8) 高 —	脚部外面篦削り後撫でと篦研磨、内面指撫でと刷毛調整。裾部外面撫で、内面撫でと刷毛調整。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	脚部
9	土師器 器台	底部	口 — 底 9.0 高 —	脚部内外面丁寧な撫で。5個の穿孔。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③浅黄橙色	脚部

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
10	打製石鏃	覆土	2.6	1.5	0.4	1.26	頁岩	完形	凹基無茎。
11	打製石斧	覆土	8.4	5.5	0.9	62.33	頁岩	頭部欠損	全体が摩滅。ぼち型。原石面残存。
12	打製石斧	覆土	10.4	4.9	1.8	99.62	頁岩	完形	全体が摩滅。短冊形。原石面残存。分割剥離素材。

柴崎熊野前遺跡25号溝出土遺物

番号	種類 器種	出土位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1	土師器 台付甕	覆土 24溝覆土	口 (12.0) 底 7.8 高 (21.4)	口縁部内外面横撫で。頸部内面指押さえ。体部外面斜位刷毛目、内面篦撫で後撫で。台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、下半撫で、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	1/4
2	土師器 甕	覆土	口 (15.0) 底 — 高 —	口縁部内外面横撫で。体部外面斜横位篦削り、内面斜位篦撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③明褐灰色	口縁部片
3	須恵器 椀	覆土	口 (14.0) 底 (7.2) 高 5.6	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰色	3/4
4	須恵器 椀	覆土	口 (14.4) 底 (6.8) 高 5.5	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰白色	1/3
5	須恵器 椀	覆土	口 (15.5) 底 6.4 高 4.5	輪積成形。底部右回転糸切り。貼り付け高台。	①細砂粒 ②還元焔 ③灰白色	3/4
6	瓦 丸瓦	東側縁辺部		凸面、撫で。凹面、布目圧痕。	①細砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	破片

柴崎熊野前遺跡22号溝出土遺物

1	土師器 台付甕	As-C層上面	口 18.2 底 — 高 —	口縁部内外面横撫で。体部外面頸部縦位刷毛目、肩部横位刷毛目、胴部斜位刷毛目、内面頸部篦撫で、接合部指押さえ、以下縦位指撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③灰黄褐色	口縁部片
2	土師器 台付甕	As-C層上面	口 (11.3) 底 — 高 —	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、肩部横線が巡る、内面斜位篦撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③淡黄色	口縁部片
3	土師器 台付甕	As-C層上面	口 — 底 — 高 —	体部外面斜縦位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕多数あり。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③にぶい黄橙色	体部1/3
4	土師器 台付甕	As-C層上面	口 17.3 底 — 高 —	口縁部内外面横撫で。体部外面斜縦位篦撫で、煤付着、内面縦位指撫で、指頭圧痕多数あり。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	口縁部体部

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
5	土師器 台付甕	As-C層上面	口— 底 7.2 高—	体部外面斜位刷毛目、内面篦撫で。台部外面上半斜位刷毛目後縦位指撫で、下半横撫で、内面撫で。	①細砂粒 ②微化焔・硬 ③淡赤橙色	底部～台部
6	土師器 台付甕	As-C層上面	口— 底 6.0 高—	台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、下半撫で、内面接合部指押さえ、縦位撫で後一部篦撫で。	①粗砂粒 ②微化焔・硬 ③淡黄色	台部
7	土師器 壺	As-C層上面	口 (14.0) 底— 高—	口縁端部横撫で。口縁部～頸部外面斜位刷毛目、内面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔 ③淡橙色	口縁部片
8	土師器 台付甕	As-C層上面	口 (18.8) 底 (8.5) 高 27.0	口縁部外面横撫で、内面横位篦撫で。体部外面頸部縦位刷毛目、他斜位刷毛目、内面上半篦撫で、下半横斜位刷毛目。台部内外面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい黄橙色	半完形
9	土師器 甕	As-C層上面	口 (19.8) 底— 高—	口縁部外面斜位刷毛目、内面斜横位篦撫で。体部斜横・斜位刷毛目、内面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい黄橙色	口縁部体部
10	土師器 甕	As-C層上面	口 26.2 底— 高—	口縁部外面縦位刷毛目、内面篦撫で。体部外面斜横位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕あり。	①細礫 ②微化焔 ③橙色	口縁部体部
11	弥生系土器 (赤井戸) 壺	As-C層上面	口— 底— 高—	体部外面、縄文ＲＬ施文。内面撫で。	①細砂粒 ②微化焔 ③にぶい褐色	破片
12	弥生系土器 (赤井戸) 壺	As-C層上面	口— 底— 高—	折り返し後口縁部～体部外面に縄文ＲＬ施文。 内面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔・軟 ③にぶい橙色	口縁部片
13	土師器 壺	As-C層上面	口 (18.8) 底— 高—	口縁部外面折り返し後横撫で、内面横撫で。黒斑あり。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい黄橙色	口縁部片
14	土師器 壺	As-C層上面	口 (20.0) 底— 高—	口縁部外面横撫で後４本の沈線を巡らし、３本の棒状付文を縦位に貼付、赤色塗彩、内面横撫で。頸部外面横撫で、内面撫で。	①細礫 ②微化焔・硬 ③淡橙色	口縁部片
15	土師器 甕	As-C層上面	口 (18.0) 底— 高—	２段の輪積み口縁部貼付後内外面横撫で、口縁部外面下半縦位篦撫で。頸部外面横撫で。口縁部～頸部内面横位篦研磨。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい橙色	口縁部片
16	土師器 甕	As-C層上面	口— 底— 高—	口縁部外面篦撫で、内面撫で。頸部外面横撫で、内面篦撫で。体部外面横斜位篦撫で、内面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔 ③淡黄色	破片
17	土師器 高坏	As-C層上面	口— 底 12.0 高—	脚部外面篦撫で、内面絞り後縦位指撫で。裾部内外面撫で。	①細礫 ②微化焔 ③橙色	脚部1/2
18	土師器 器台	As-C層上面	口— 底— 高—	脚部外面斜縦位刷毛目。内面指撫で後横位篦撫で。４個の穿孔。	①粗砂粒 ②微化焔 ③浅黄橙色	脚部の上部
19	土師器 器台	As-C層上面	口— 底 13.4 高—	外面接続部下横撫で。脚部外面篦研磨。内面斜横位篦撫で。４個の三角形の穿孔。	①粗砂粒 ②微化焔 ③にぶい橙色	脚部

柴崎熊野前遺跡23号溝東側出土遺物

1	土師器 台付甕	As-C層上面	口 17.1 底— 高—	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、胴部横位刷毛目、内面上半指撫で、下半篦撫で。台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、下半撫で、内面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔 ③橙色	1/3
2①	土師器 台付甕	As-C層上面	口 (14.7) 底— 高—	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、胴部横線が巡る、内面撫で、接合部に指頭圧痕あり。	①粗砂粒 ②微化焔・硬 ③灰黄褐色	口縁部体部
2②	土師器 台付甕	As-C層上面	口— 底 (7.8) 高—	体部外面斜位刷毛目、内面撫で。台部内外面撫で。	①粗砂粒 ②微化焔・硬 ③明黄褐色	体部下半部
3	土師器 台付甕	As-C層上面	口 17.1 底— 高—	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、胴部横線が巡る、頸部の刷毛目は深くはっきりしている。内面撫で、指頭圧痕あり。	①細砂粒 ②微化焔 ③にぶい黄橙色	口縁部

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
4	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ 13.2 底－ 高－	□縁部外面横撫で後刺突痕が巡る、内面横撫で。体部外面斜位刷毛目、肩部横線が巡る。内面は撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③灰黄褐色	□縁部
5	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (10.8) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、肩部横線が巡る。内面篦撫で。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③灰白色	□縁部1/2
6	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ 11.3 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、肩部横線が巡る、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③灰黄色	□縁部
7	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ 11.6 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面斜縦位指撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	□縁部体部
8	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (17.2) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜横位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕あり。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③淡黄色	□縁部1/3
9	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ 16.5 底 9.8 高 31.2	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕多数あり。台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、下半撫で、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③暗褐色	半完形
10①	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (9.8) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕あり。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③淡黄色	□縁部1/4
10②	土師器 台付甕	As-C層上 面	□－ 底 7.4 高－	体部外面斜位刷毛目、内面篦撫で後撫で。台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、下半撫で、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③淡黄色	体部下半部
11	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ 14.8 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面縦・斜横位刷毛目、内面縦位指撫で、頸部内面指押さえ。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③灰褐色	□縁部体部
12	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (10.7) 底－ 高－	□縁部外面横撫で後沈線が巡る、内面横撫で。体部外面斜位刷毛目、肩部に横線が巡る、内面篦撫で後撫で、接合部指押さえ。	①細砂粒 ②酸化焔 ③灰白色	□縁部1/4
13	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (2.4) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。頸部外面刷毛目、内面接合部篦撫で後撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	□縁部片
14	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (27.3) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③淡黄色	□縁部1/4
15	土師器 台付甕	As-C層上 面	□ (14.1) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面撫で、頸部指押さえ。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	□縁部1/4
16	土師器 小形台付甕	As-C層上 面	□ 9.8 底－ 高－	□縁部内面横撫で。体部外面斜位刷毛目、内面篦撫で後撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	□縁部体部
17	土師器 台付甕	As-C層上 面	□－ 底－ 高－	体部外面斜位刷毛目、内面篦撫で後撫で。台部外面上半斜縦位刷毛目後縦位指撫で、内面縦位指撫で。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③灰白色	体部
18	土師器 台付甕	As-C層上 面	□－ 底 11.2 高－	台部外面斜縦位刷毛目後縦位指撫で、内面撫で、接合部指押さえ。外面接合部に篦痕あり。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③明赤褐色	脚部
19	弥生系土器 (樽式) 壺	As-C層上 面	□ (20.0) 底－ 高－	折り返し口縁部撫で、指頭圧痕あり、口縁部外面縦位篦撫で、内面篦撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	□縁部片
20	土師器 壺	As-C層上 面	□－ 底－ 高－	器面刺落のため調整不明。頸部外面篦刻みを入れた凸帯が巡る。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③淡黄色	頸部
21	土師器 壺	As-C層上 面	□ (13.4) 底－ 高－	□縁部内外面横撫で。頸部外面篦撫で、内面基部削り後撫で。体部外面篦撫で、内面撫で、輪積み痕あり。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③橙色	□縁部体部 1/2
22	土師器 壺	As-C層上 面	□ 18.7 底－ 高－	□縁端部外面横撫で後櫛描波状文、下半篦撫で後縦位篦研磨、口縁部～頸部内面撫で後横位篦研磨。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③淡黄色	□縁部

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
23	土師器 壺	As-C層上 面	口 (16.9) 底一 高一	□縁部内外面横撫で。器表面摩滅。	①細礫 ②酸化焔 ③橙色	□縁部1/2
24	土師器 壺	As-C層上 面	口一 底一 高一	□縁部内外面横撫で。頸部外面刺突文の付いた凸帯が巡る。体部外面胴部波状文、その下部に横線、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	□縁部1/2
25	土師器 壺	As-C層上 面	口 (11.0) 底一 高一	□縁部外面縦位篦撫で後撫で、内面斜横位篦撫で後撫で。頸部外面篦撫で、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐色	□縁部片
26	土師器 壺	As-C層上 面	口 (19.6) 底一 高一	□縁部外面横撫で後3本の棒状付文を縦位に貼付、内面横撫で後口縁端部にハの字状に刺突文が巡る。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	□縁部片
27	土師器 壺	As-C層上 面	口 13.2 底一 高一	□縁部～体部外面刷毛目、□縁部内面篦撫で。頸部内面指押さえ。体部内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	□縁部
28	土師器 壺	As-C層上 面	口 12.2 底一 高一	□縁部外面篦撫で、内面篦撫で後撫で。頸部外面刷毛目、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③灰白色	□縁部
29	土師器 壺	As-C層上 面	口 10.0 底一 高一	□縁部外面篦撫で後撫で、内面篦撫で後横撫で。頸部外面横撫で。体部外面篦撫で、内面撫で。輪積み痕が残る。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	□縁部
30	土師器 壺	As-C層上 面	口 9.8 底 5.6 高 12.9	□縁部・頸部内外面横撫で。□縁部外面接合部に撫で痕あり。体部外面篦撫で後撫で、赤色塗彩。内面篦撫で後接合部撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③にぶい黄橙色	完形
31	土師器 壺	As-C層上 面	口 9.6 底 3.8 高 11.4	□縁部内外面横撫で。頸部外面縦位刷毛目、内面斜横位刷毛目。体部外面篦撫で後撫で、内面撫で、接合部指押さえ。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	ほぼ完形
32	土師器 壺	As-C層上 面	口一 底 3.5 高一	体部外面篦撫で。内面篦撫で後撫で、底部外面に黒斑あり。体部中位に焼成後の穿孔あり。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③明赤褐色	□縁破損
33	土師器 壺	As-C層上 面	口一 底 6.7 高一	体部外面斜位篦撫で、内面篦撫で後撫で。器表面摩滅。	①細礫 ②酸化焔 ③にぶい黄色	□縁破損
34	土師器 壺	As-C層上 面	口一 底 5.5 高一	□縁部内外面横撫で。体部外面篦撫で、内面斜位刷毛目状の撫で、内面底部篦撫で後撫で。	①細礫 ②酸化焔 ③にぶい黄褐色	□縁破損
35	土師器 壺	As-C層上 面	口一 底 (7.0) 高一	体部外面斜位篦撫で、内面斜縦位撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	胴部底部1/3
36	弥生系土器 (赤井戸) 甕	As-C層上 面	口一 底一 高一	体部外面、縄文RL施文、黒斑あり。内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③灰白色	破片
37	土師器 甕	As-C層上 面	口 (36.4) 底一 高一	□縁部端部横撫で。□縁部外面撫で、内面篦撫で。頸部・体部外面斜位刷毛目、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	□縁部1/4
38	土師器 ミニチュア台付甕	As-C層上 面	口 (7.8) 底 4.6 高 9.3	□縁部内外面横撫で。体部外面斜縦位刷毛目、内面篦撫で後撫で、接合部指押さえ。台部斜縦位刷毛目、内面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	ほぼ完形
39	土師器 ミニチュア壺	As-C層上 面	口 (6.5) 底 3.8 高 9.0	□縁部内外面横撫で。体部外面篦撫で、底部縦位刷毛目、内面篦撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	ほぼ完形
40	土師器 ミニチュア壺	As-C層上 面	口 (5.7) 底 3.0 高 7.6	□縁部内外面篦撫で。体部外面篦削り後篦研磨、内面篦撫で後撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	ほぼ完形
41	土師器 小形丸底壺	As-C層上 面	口 (12.6) 底 (3.5) 高 6.6	□縁部内外面横撫で。体部内外面撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③淡橙色	1/4
42	土師器 坩	As-C層上 面	口 (10.8) 底一 高一	□縁部内外面横撫で。体部外面篦撫で後撫で、内面撫で、頸部に接合痕あり。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③灰白色	□縁部片

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
43	土師器 坩	As-C層上面	口 (11.6) 底－ 高－	口縁部外面斜位篦撫で、端部横撫で、内面斜横位篦研磨。頸部内外面横撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄色	口縁部2/3
44	土師器 坩	As-C層上面	口－ 底 3.3 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面篦撫で、内面撫で、指頭圧痕多数あり。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄色	口縁部破損
45	土師器 坩	As-C層上面	口 7.9 底－ 高－	口縁部外面縦位刷毛目、内面篦撫で。体部外面斜横位刷毛目、内面撫で、指頭圧痕あり。頸部外面横撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	2/3
46	土師器 坩	As-C層上面	口 (6.6) 底 4.4 高 13.8	口縁部内外面撫で。体部外面篦撫で、内面撫で、接合部指押さえ。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③橙色	2/3
47	土師器 高坏	As-C層上面	口－ 底－ 高－	体部内外面篦研磨。脚部外面篦撫で、内面斜縦位指撫で。裾部内外面撫で。器表面摩滅。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	1/3
48	土師器 高坏	As-C層上面	口－ 底 (15.2) 高－	脚部外面篦撫で、内面縦位指撫で、上位絞り痕あり。裾部内外面撫で。器表面摩滅。	①細砂粒 ②酸化焔 ③橙色	脚部
49	土師器 高坏	As-C層上面	口－ 底 (13.5) 高－	脚部外面篦撫で、内面斜縦位指撫で、上位絞り痕あり。裾部内外面撫で、端部横撫で。	①細砂粒 ②酸化焔 ③橙色	脚部
50	土師器 器台	As-C層上面	口 9.2 底－ 高－	口縁部内外面横撫で後篦研磨。体部内外面篦研磨。脚部外面上位横撫で後縦・横位篦研磨、内面上半縦位指撫で後横撫で、下半篦撫で後横撫で。3個の穿孔。	①細砂粒 ②酸化焔・硬 ③浅黄色	ほぼ完形
51	土師器 器台	As-C層上面	口 6.6 底－ 高－	口縁部外面斜位刷毛目後横撫で、内面撫で後篦研磨。脚部外面斜縦位刷毛目後篦研磨、内面篦撫で後撫で、上位に指頭圧痕あり。4個の穿孔。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	ほぼ完形
52	土師器 器台	As-C層上面	口 9.4 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面縦位刷毛目後横撫で、内面篦研磨。脚部外面篦研磨、内面篦撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③灰白色	脚部破損
53	土師器 器台	As-C層上面	口－ 底 12.9 高－	脚部外面篦研磨、内面上位指撫で、以下篦撫で。裾部内外面横撫で。3個の穿孔。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③橙色	脚部
54	土師器 器台	As-C層上面	口－ 底 (13.6) 高－	脚部・裾部外面横撫で後篦研磨、脚部内面篦撫で、裾部内面横撫で。3個の穿孔。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③明褐灰色	脚部
55	土師器 器台	As-C層上面	口－ 底 (13.5) 高－	脚部外面上位横撫で、以下篦研磨、内面篦研磨、上位絞り痕あり。3個の穿孔。	①粗砂粒 ②酸化焔・硬 ③にぶい橙色	脚部
56	土師器 有線刻土器	As-C層上面	長 17.7 幅 8.0 高 7.8	内外面撫で。外面に線刻あり。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部破損

番号	器種	出土位置	計測値 (cm・g)				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
57	打製石鏃	覆土	4.4	1.3	0.4	0.65	チャート	一部欠損	凹基無茎先端部と片脚部を欠損。

柴崎熊野前遺跡23号溝西側出土遺物

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
1①	土師器 台付甕	As-C層上面	口 (17.9) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位篦撫で、内面撫で。器表面摩滅。	①細礫 ②酸化焔 ③橙色	口縁部体部1/2
1②	土師器 台付甕	As-C層上面	口－ 底 10.9 高－	体部外面篦撫で、内面篦撫で、底部撫で。台部外面篦撫で、内面斜縦位指撫で。器表面摩滅。	①細礫 ②酸化焔 ③橙色	台部

遺物観察表

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①胎土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
2	土師器 甕	As-C層上 面	口 (21.6) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。頸部内外面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	破片
3	土師器 甕	As-C層上 面	口 (18.2) 底－ 高－	口縁部外面荒撫で、端部横撫で、口唇部に面取り、内面横撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部1/3
4	土師器 壺	As-C層上 面	口 15.6 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位荒撫で、内面斜横・斜位撫で、指頭圧痕あり。	①細礫 ②酸化焔 ③橙色	口縁部体部
5	土師器 台付壺	As-C層上 面	口 (15.2) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面器表面剥落により調整不明、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部片
6	土師器 台付壺	As-C層上 面	口 (16.4) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面荒撫で、内面荒撫で、接合部指押さえ。器表面摩滅。	①細礫 ②酸化焔 ③橙色	口縁部片
7	土師器 坩	As-C層上 面	口 (7.6) 底－ 高 7.5	口縁部内外面横撫で。体部外面荒削り後撫で、内面指撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③灰白色	ほぼ完形
8	土師器 坩	As-C層上 面	口 (8.6) 底－ 高 7.9	口縁部内外面横撫で。体部外面刷毛目、内面荒撫で後撫で。器表面摩滅。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	ほぼ完形
9	土師器 坩	As-C層上 面	口 (13.4) 底 (5.6) 高 17.9	口縁部内面荒研磨。体部外面下位荒研磨の痕跡あり、内面撫で。器表面摩滅により外面の調整不明。	①細砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	ほぼ完形
10	土師器 坩	As-C層上 面	口 (9.7) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面縦斜位荒削り、内面頸部指押さえ、撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部1/2
11	土師器 坩	As-C層上 面	口 (16.0) 底－ 高－	口縁部内外面撫で。頸部・体部外面斜位荒削り、内面撫で、指頭圧痕あり。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい赤褐色	口縁部片
12	土師器 坩	As-C層上 面	口 (10.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。頸部・体部外面荒撫で、内面撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい褐色	口縁部片
13	土師器 坩	As-C層上 面	口－ 底－ 高－	体部外面荒撫で、内面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	口縁部破損
14	土師器 高坏	As-C層上 面	口 (17.4) 底 10.8 高 15.6	口縁部内外面横撫で。体部内外面荒研磨の痕跡あり。脚部外面中位荒撫で、下位荒研磨、内面縦位指撫で、上位絞り痕あり。裾部内外面撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	半完形
15	土師器 高坏	As-C層上 面	口 17.0 底 12.5 高 13.0	口縁部内外面横撫で。脚部外面荒研磨、内面縦位指撫で後斜横位撫で、上位絞り痕あり。裾部内外面横撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③明赤褐色	ほぼ完形
16	土師器 高坏	As-C層上 面	口 19.9 底－ 高－	口縁部内外面撫で。体部外面荒撫で、内面荒研磨痕。脚部外面荒撫で、内面縦位指撫で、上位に絞り痕あり。裾部外面上位横撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	1/2
17	土師器 高坏	As-C層上 面	口 (17.0) 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面横撫で、指頭圧痕あり、内面荒研磨。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③赤色	坏部1/2
18	土師器 高坏	As-C層上 面	口 17.0 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面荒研磨、内面荒撫で。器表面摩滅。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	坏部
19	土師器 高坏	As-C層上 面	口 22.3 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部内外面縦位荒研磨。底部外面荒撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③橙色	坏部
20	土師器 高坏	As-C層上 面	口 16.5 底－ 高－	口縁部内外面横撫で。体部外面斜位荒削り、内面荒研磨。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③にぶい橙色	坏部
21	土師器 高坏	As-C層上 面	口－ 底 12.3 高－	脚部外面撫で、内面斜縦位指撫で。裾部外面上位横撫で、内外面撫で。	①粗砂粒 ②酸化焔 ③浅黄橙色	脚部下部

番号	種類 器種	出土 位置	計測値 (cm、g)	成・整形技法の特徴	①粘土 ②焼成 ③色調	残存状態 備考
22	土師器 高坏	As-C層上面	口－ 底－ 高－	器表面摩滅により外面の調整不明。脚部内面上位斜縦位指撫で、中位撫で、上位に絞り痕あり。	①細砂粒 ②酸化焔 ③にぶい黄橙色	脚部上部

番号	種類	出土位置	木取り 樹種	加工・形状等の特徴
23	木製品 犬足	As-C層上面	アカメガシワ、 ケヤキ、 トネリコ	梯子状をなしている。縦木と横木の接合部にそれぞれ臍が切られ、はめ込まれている。横木の断面は菱形であり、その角が下になるように取り付けられている。ただし、上から4本目と8本目は断面の形状が菱形ではない。土圧によりかなり潰れている。

柴崎熊野前遺跡23号溝東側出土遺物（石製品）

番号	器種	出土位置	石孔	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			方向	長さ	孔径	厚さ	重量			
1	勾玉	AC-14	両面	3.7	0.3	1.1	12.00	蛇紋石質滑石	完形	腹部・背部に研磨痕。
2	勾玉	AC-13	片面	1.8	0.2	0.4	1.21	蛇紋石質滑石	完形	全体に扁平。腹部に稜と研磨痕あり。
3	勾玉	AC-13	片面	1.5	0.2	0.3	0.85	蛇紋石質滑石	完形	非常に扁平で両面平坦。稜あり。
4	勾玉	AC-13	片面	1.6	0.2	0.4	0.79	蛇紋石質滑石	完形	頭部扁平。やや光沢がある。
5	勾玉	AC-13	片面	1.1	0.2	0.3	0.32	蛇紋石質滑石	完形	小形で扁平、両面平坦。稜あり。
6	勾玉	AC-13	片面	2.6	0.2	0.7	4.16	蛇紋石質滑石	完形	腹部に研磨痕。深緑色で光沢あり。
1	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.2	0.10	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
2	臼玉	AC-13	片面	0.8	0.2	0.4	0.37	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕。
3	臼玉	AC-13	片面	0.7	0.3	0.3	0.25	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
4	臼玉	AC-13	片面	0.9	0.2	0.4	0.51	蛇紋石質滑石	完形	全体に丸みを帯びる。周辺部に研磨痕。
5	臼玉	AC-14	片面	0.7	0.2	0.8	0.46	蛇紋石質滑石	完形	算盤玉状を呈する。周辺部に稜あり。
6	臼玉	AC-13	片面	0.9	0.2	0.4	0.52	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕。
7	臼玉	AC-13	片面	0.8	0.3	0.4	0.31	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕・稜あり。
8	臼玉	AC-13	片面	0.8	0.3	0.3	0.30	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕。
9	臼玉	AC-13	片面	0.8	0.2	0.3	0.31	蛇紋石質滑石	側面破損	両面平坦、研磨痕あり。
10	臼玉	AC-13	片面	0.8	0.3	0.3	0.29	石英質岩石	完形	両面平坦。光沢あり。
11	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.09	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕・稜あり。
12	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.3	0.2	0.13	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
13	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.4	0.18	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
14	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.16	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
15	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.3	0.2	0.12	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
16	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.09	珪質真岩	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕・若干稜あり。
17	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.08	石英質岩石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
18	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.2	0.10	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。
19	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.4	0.14	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
20	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.10	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
21	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.13	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
22	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.11	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
23	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.2	0.10	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。片面に穿孔時の傷あり。
24	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.2	0.06	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦、非常に扁平。光沢あり。
25	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.2	0.13	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に若干稜あり。
26	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.2	0.06	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
27	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.13	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に稜あり。
28	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.11	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に稜あり。
29	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.08	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に稜あり。
30	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.08	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。光沢あり。
31	臼玉	AC-13	片面	0.6	0.2	0.3	0.14	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に稜あり。光沢あり。
32	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.3	0.10	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕・稜あり。
33	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.2	0.08	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。周辺部に研磨痕・稜あり。
34	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.2	0.07	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦。
35	臼玉	AC-13	片面	0.5	0.2	0.1	0.05	蛇紋石質滑石	完形	両面平坦、非常に扁平。光沢あり。
1	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.5	1.19	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。
2	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.6	1.58	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に若干稜あり。
3	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.80	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。
4	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.6	0.73	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
5	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.5	0.68	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
6	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.4	0.70	蛇紋石質滑石	完形	両端、側面研磨。光沢あり。
7	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.99	蛇紋石質滑石	完形	両端丸みを帯びる。光沢あり。

遺物観察表

番号	器種	出土位置	穿孔方向	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
				長さ	孔径	厚さ	重量			
8	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.5	0.93	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
9	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.5	0.94	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
10	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.6	1.23	蛇紋石質帯石	完形	両端、側面研磨。光沢あり。
11	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.5	0.78	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
12	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.75	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
13	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.81	蛇紋石質帯石	完形	両端丸みを帯び、よく研磨されている。
14	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.4	0.75	蛇紋石質帯石	完形	両端丸みを帯びる。
15	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	1.07	蛇紋石質帯石	完形	一端に出臍状態による穿孔痕あり。
16	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	1.18	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
17	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.95	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に若干被あり。
18	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.68	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
19	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.7	1.61	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
20	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.5	0.73	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
21	管玉	AC-13	両面	2.3	0.3	0.5	1.06	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
22	管玉	AC-13	両面	2.7	0.3	0.5	0.95	蛇紋石質帯石	一端破損	研磨時に破損。側面に研磨痕。
23	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.6	1.39	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
24	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	1.05	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
25	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.6	1.23	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
26	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.86	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
27	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.6	1.10	蛇紋石質帯石	側面に穴	側面研磨時に破損。よく研磨されている。
28	管玉	AC-13	両面	2.3	0.3	0.6	1.57	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
29	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.83	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
30	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.90	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
31	管玉	AC-13	両面	1.4	0.3	0.5	0.49	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
32	管玉	AC-13	両面	2.4	0.3	0.5	0.94	蛇紋石質帯石	一端破損	研磨時に破損。側面に研磨痕。
33	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
34	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.6	0.96	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
35	管玉	AC-13	両面	2.5	0.2	0.6	1.31	蛇紋石質帯石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
36	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.7	1.33	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
37	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.6	1.01	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
38	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.89	蛇紋石質帯石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
39	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.95	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
40	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.6	1.20	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
41	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	1.00	蛇紋石質帯石	一端破損	研磨時に破損。側面に研磨痕。
42	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.4	0.55	蛇紋石質帯石	完形	両面に出臍状態による穿孔痕あり。
43	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	1.03	蛇紋石質帯石	側面に穴	研磨時に破損。
44	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	1.31	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
45	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.5	0.78	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
46	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	1.05	蛇紋石質帯石	両端破損	研磨時に破損。側面に斜位研磨痕。
47	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.4	0.67	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
48	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
49	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.6	1.00	蛇紋石質帯石	側面に穴	研磨時に破損。一端若干破損。
50	管玉	AC-13	両面	2.3	0.2	0.5	1.04	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
51	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.4	0.89	蛇紋石質帯石	一端破損	研磨時に破損。
52	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	0.98	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
53	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	1.08	珪質頁岩	完形	深い緑色。よく研磨されている。
54	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.5	0.72	蛇紋石質帯石	完形	側面に若干研磨痕。光沢あり。
55	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.4	0.74	蛇紋石質帯石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
56	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.4	0.85	蛇紋石質帯石	完形	側面に斜位研磨痕。
57	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.81	蛇紋石質帯石	完形	側面に斜位研磨痕。
58	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.51	蛇紋石質帯石	完形	端部破損後研磨。
59	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.66	蛇紋石質帯石	完形	両端に研磨痕。
60	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.4	0.40	蛇紋石質帯石	完形	一端部破損後研磨。
61	管玉	AC-13	両面	2.4	0.3	0.4	1.18	蛇紋石質帯石	側面に穴	側面研磨時に破損。よく研磨されている。
62	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.4	0.49	蛇紋石質帯石	完形	両端破損後研磨。
63	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	1.02	蛇紋石質帯石	完形	よく研磨されている。
64	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.6	1.15	蛇紋石質帯石	一端破損	側面研磨時に破損。
65	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	1.06	蛇紋石質帯石	完形	側面に斜位研磨痕。
66	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	1.03	蛇紋石質帯石	完形	端部に研磨痕。
67	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	1.01	蛇紋石質帯石	側面に穴	側面研磨時に破損。

番号	器種	出土位置	穿孔	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			方向	長さ	孔径	厚さ	重量			
68	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.4	0.83	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
69	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.6	1.35	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
70	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.57	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。
71	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.4	0.69	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
72	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.4	0.43	蛇紋石質滑石	側面破損	研磨時に破損か。よく研磨されている。
73	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.6	0.83	蛇紋石質滑石	側面破損	側面研磨時に破損。
74	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.4	0.74	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
75	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.4	0.56	蛇紋石質滑石	完形	薄い緑色。よく研磨されている。
76	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.4	0.61	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
77	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
78	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	1.09	蛇紋石質滑石	側面に穴	側面研磨時に破損。
79	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.4	0.78	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
80	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	1.19	蛇紋石質滑石	完形	端部に若干の研磨痕。
81	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.5	1.26	蛇紋石質滑石	側面破損	側面研磨時に破損。
82	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	0.80	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
83	管玉	AC-13	両面	1.1	0.3	0.6	0.93	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
84	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.5	0.83	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。側面に若干の研磨痕。
85	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	0.81	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
86	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.6	1.04	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
87	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.65	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
88	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.79	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。側面若干研磨痕。
89	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.4	0.47	蛇紋石質滑石	一端破損	よく研磨されている。
90	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.5	0.69	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後研磨。
91	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	1.06	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
92	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	0.84	蛇紋石質滑石	完形	薄い緑色。よく研磨されている。
93	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.6	1.32	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
94	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.60	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
95	管玉	AC-13	両面	1.1	0.2	0.4	0.59	蛇紋石質滑石	完形	一端部に研磨痕。
96	管玉	AC-13	両面	2.5	0.3	0.5	0.88	蛇紋石質滑石	一端破損	側面研磨時に破損。側面に斜位研磨痕。
97	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.6	1.13	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
98	管玉	AC-13	両面	1.1	0.2	0.5	0.72	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後研磨。
99	管玉	AC-13	片面	1.2	0.2	0.5	1.05	蛇紋石質滑石	完形	薄緑色。光沢あり。よく研磨されている。
100	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.4	0.62	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後研磨。よく研磨されている。
101	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	1.14	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
102	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.87	蛇紋石質滑石	完形	端部に斜位研磨痕。よく研磨されている。
103	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
104	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.5	1.03	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
105	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.6	1.25	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。
106	管玉	AC-13	両面	2.3	0.2	0.8	2.39	蛇紋石質滑石	完形	側面に縦位研磨痕。
107	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.7	1.92	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
108	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.6	1.51	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
109	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.6	1.27	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
110	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.6	1.17	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
111	管玉	AC-13	両面	2.3	0.2	0.5	1.17	蛇紋石質滑石	完形	両端斜に研磨。側面に斜位研磨痕。
112	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	1.06	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
113	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.6	1.23	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
114	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.6	1.08	蛇紋石質滑石	側面に穴	研磨時に破損。側面に縦位研磨痕。
115	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.93	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
116	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	1.14	蛇紋石質滑石	一端破損	研磨時に破損。もう一端を斜に研磨。
117	管玉	AC-13	両面	2.4	0.3	0.6	1.47	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。
118	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。
119	管玉	AC-13	両面	2.0	0.3	0.5	0.92	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
120	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.4	0.99	蛇紋石質滑石	完形	両端を斜に研磨。よく研磨されている。
121	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	1.15	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
122	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	1.12	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
123	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	1.00	蛇紋石質滑石	完形	一端を斜に研磨。よく研磨されている。
124	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.89	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
125	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	1.07	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。
126	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.70	蛇紋石質滑石	側面に穴	研磨時に破損。破損側面は光沢あり。
127	管玉	AC-13	両面	2.1	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。

遺物観察表

番号	器種	出土位置	穿孔方向	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
				長さ	孔径	厚さ	重量			
128	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.85	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。
129	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.97	蛇紋石質滑石	完形	側面に縦位研磨痕。よく研磨されている。
130	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.89	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
131	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.63	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。
132	管玉	AC-13	両面	2.2	0.2	0.5	0.99	蛇紋石質滑石	完形	両端斜に研磨。光沢あり。
133	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.5	0.84	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
134	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.88	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
135	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.92	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。
136	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.95	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
137	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.6	1.19	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面両端に研磨痕。
138	管玉	AC-13	両面	2.3	0.3	0.5	0.83	蛇紋石質滑石	側面破損	端部に研磨痕。よく研磨されている。
139	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.92	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に縦位研磨痕。
140	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.5	0.66	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後斜に研磨。
141	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.70	蛇紋石質滑石	完形	側面に若干研磨痕。よく研磨されている。
142	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.6	0.97	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
143	管玉	AC-13	両面	1.8	0.3	0.6	0.81	蛇紋石質滑石	一端破損	よく研磨されている。
144	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.6	1.13	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
145	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.78	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
146	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.83	蛇紋石質滑石	完形	端部に研磨痕。よく研磨されている。
147	管玉	AC-13	両面	2.0	0.2	0.5	0.86	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
148	管玉	AC-13	両面	2.2	0.3	0.5	0.96	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。端部側面に研磨痕。
149	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.81	蛇紋石質滑石	完形	側面に縦位研磨痕。一端を斜に研磨。
150	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.88	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
151	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.6	0.82	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
152	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.75	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
153	管玉	AC-13	両面	1.9	0.2	0.5	0.87	蛇紋石質滑石	一端破損	よく研磨されている。
154	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.92	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
155	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.5	0.56	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
156	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.51	蛇紋石質滑石	完形	端部側面に研磨痕。よく研磨されている。
157	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.83	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
158	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.73	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
159	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.71	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
160	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.48	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
161	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.5	0.53	蛇紋石質滑石	完形	一端部斜に研磨。よく研磨されている。
162	管玉	AC-13	両面	1.4	0.3	0.5	0.73	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。一端を斜に研磨。
163	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.58	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
164	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.4	0.42	蛇紋石質滑石	完形	両端斜に研磨。側面に縦位研磨痕。
165	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.75	蛇紋石質滑石	完形	一端を斜に研磨。よく研磨されている。
166	管玉	AC-13	両面	2.1	0.2	0.5	0.89	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
167	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.5	0.37	蛇紋石質滑石	側面破損	側面に縦位研磨痕。
168	管玉	AC-13	両面	1.3	0.2	0.5	0.60	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
169	管玉	AC-13	両面	1.7	0.3	0.5	0.54	蛇紋石質滑石	一端破損	側面に縦位研磨痕。
170	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.68	蛇紋石質滑石	一端破損	両端に研磨痕。よく研磨されている。
171	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.4	0.46	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
172	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.54	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
173	管玉	AC-13	両面	1.4	0.3	0.4	0.44	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
174	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.6	0.83	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
175	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.72	蛇紋石質滑石	完形	側面に研磨痕。よく研磨されている。
176	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.4	0.59	蛇紋石質滑石	完形	一端に出擦状痕による穿孔痕あり。
177	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.66	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
178	管玉	AC-13	両面	1.2	0.2	0.4	0.39	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
179	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.4	0.35	蛇紋石質滑石	側面破損	研磨時に破損。よく研磨されている。
180	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.50	蛇紋石質滑石	完形	両端に出擦状痕による穿孔痕あり。
181	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.54	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
182	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.5	0.93	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
183	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
184	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.76	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
185	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.66	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
186	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.5	0.57	蛇紋石質滑石	完形	両端に出擦状痕による穿孔痕あり。
187	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.5	0.78	蛇紋石質滑石	完形	両端に出擦状痕による穿孔痕あり。

番号	器種	出土位置	穿孔方向	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
				長さ	孔径	厚さ	重量			
188	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.58	蛇紋石質滑石	完形	両端を斜に研磨。よく研磨されている。
189	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.91	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
190	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。
191	管玉	AC-13	両面	1.8	0.2	0.5	0.76	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
192	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.5	0.67	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に斜位研磨痕。
193	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.68	蛇紋石質滑石	完形	光沢あり。よく研磨されている。
194	管玉	AC-13	両面	1.6	0.2	0.5	0.71	蛇紋石質滑石	一端破損	表面に傷が多い。
195	管玉	AC-13	両面	1.7	0.2	0.4	0.64	蛇紋石質滑石	完形	一端に出擦状態による穿孔痕あり。
196	管玉	AC-13	両面	1.6	0.3	0.4	0.38	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後研磨、斜に研磨。
197	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.4	0.46	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
198	管玉	AC-13	両面	1.5	0.3	0.5	0.68	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
199	管玉	AC-13	片面	1.3	0.3	0.5	0.57	瑪瑙質岩	完形	深緑色。光沢あり。よく研磨されている。
200	管玉	AC-13	両面	1.1	0.3	0.5	0.50	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後斜に研磨。
201	管玉	AC-13	両面	1.2	0.2	0.5	0.54	蛇紋石質滑石	完形	一端部破損後斜に研磨。
202	管玉	AC-13	両面	1.0	0.2	0.4	0.40	蛇紋石質滑石	1/2破損	研磨時に穴の開いた痕跡あり。
203	管玉	AC-13	両面	1.0	0.2	0.5	0.62	蛇紋石質滑石	完形	一端に出擦状態による穿孔痕あり。
204	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.6	0.68	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。一端を斜に研磨。
205	管玉	AC-13	片面	1.2	0.3	0.6	0.56	瑪瑙質岩	一端破損	深い緑色。よく研磨されている。
206	管玉	AC-13	片面	1.2	0.3	0.5	0.50	蛇紋石質滑石	完形	両端に出擦状態による穿孔痕あり。
207	管玉	AC-13	両面	1.2	0.2	0.4	0.43	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。よく研磨されている。
208	管玉	AC-13	両面	1.3	0.3	0.5	0.82	蛇紋石質滑石	完形	両端に研磨痕。側面に若干後が残る。
209	管玉	AC-13	両面	1.2	0.2	0.4	0.45	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
210	管玉	AC-13	両面	1.3	0.3	0.5	0.64	蛇紋石質滑石	一端破損	表面が荒れている。
211	管玉	AC-13	両面	1.4	0.2	0.4	0.48	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
212	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.4	0.44	蛇紋石質滑石	完形	一端に出擦状態による穿孔痕あり。
213	管玉	AC-13	両面	1.2	0.2	0.6	0.54	蛇紋石質滑石	端部残存	側面に打撃痕あり。
214	管玉	AC-13	両面	1.1	0.2	0.5	0.41	蛇紋石質滑石	完形	よく研磨されている。
215	管玉	AC-13	片面	1.1	0.2	0.4	0.28	蛇紋石質滑石	端部残存	側面に斜位研磨痕。よく研磨されている。
216	管玉	AC-13	両面	0.7	0.2	0.4	0.32	蛇紋石質滑石	完形	端部破損後研磨。
217	管玉	AC-13	両面	1.0	0.3	0.6	0.56	蛇紋石質滑石	端部残存	一端に研磨痕。
218	管玉	AC-13	両面	1.2	0.3	0.5	0.59	蛇紋石質滑石	1/2破損	一端に出擦状態による穿孔痕あり。
219	管玉	AC-13	片面	0.7	0.1	0.4	0.21	瑪瑙質岩	完形	一端部破損後研磨。よく研磨されている。
220	管玉	AC-13	両面	1.9	0.3	0.7	1.61	蛇紋石質滑石	完形	側面に明瞭な後、斜位研磨痕。
221	管玉	AC-13	両面	1.5	0.2	0.7	1.40	蛇紋石質滑石	完形	側面に明瞭な後、斜位研磨痕。
222	管玉	AC-13	片面	1.0	0.1	0.6	0.79	蛇紋石質滑石	完形	側面に明瞭な後、斜位研磨痕。
223	管玉	AC-13		1.8		0.7	1.66	蛇紋石質滑石	未製品	両端・側面に後。側面に打ち割り痕あり。
224	管玉	AC-13		1.5		0.6	1.49	石英質岩石	未製品	両端に研磨痕。よく研磨されている。

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
1	勾玉	AC-13	1.6	1.0	0.3	1.07	石英質岩石	未製品	腹部薄く背部厚く両面研磨。明瞭な後。
2	管玉	AC-13	3.0	0.9	0.9	2.31	蛇紋石質滑石	未製品	右側面に鑿状工具による割込痕あり。
3	管玉	AC-13	2.4	1.0	0.9	3.82	蛇紋石質滑石	未製品	明瞭に後が残り、全面に研磨痕。
4	管玉	AC-13	1.8	0.9	0.9	2.14	蛇紋石質滑石	未製品	底部に研磨痕。他の面は剥離面を残す。
5	管玉	AC-13	1.2	0.7	0.7	1.82	蛇紋石質滑石	破損品	穿孔時に破損。後を明瞭に残す。
6	剥片	AC-13	2.0	0.6	1.3	1.50	蛇紋石質滑石		玉製作途中でできる小剥片。
7	剥片	AC-13	1.3	0.6	0.2	0.19	蛇紋石質滑石		玉製作途中でできる小剥片。
8	剥片	AC-13	2.7	0.7	0.3	0.82	蛇紋石質滑石		玉製作途中でできる小剥片。
9	剥片	AC-13	1.8	1.1	0.4	0.89	蛇紋石質滑石		裏面に鑿状工具による割込痕あり。
10	剥片	AC-13	1.9	1.9	0.4	1.88	蛇紋石質滑石		玉製作途中でできる小剥片。
11	剥片	AC-13	2.0	1.0	0.4	0.84	蛇紋石質滑石		右側面に鑿状工具による割込痕あり。
12	剥片	AC-13	2.2	1.9	0.3	1.36	蛇紋石質滑石		剥離面は裏側。後を割取ったもの。
13	管玉	AC-13	1.9	1.2	0.7	1.42	瑪瑙質岩	端部残存	非常によく研磨されている。光沢あり。
14	剥片	AC-13	1.4	1.4	1.3	3.04	瑪瑙質岩		形割剥片の一部か。菅子状の剥片。
15	剥片	AC-13	2.3	1.0	0.9	1.86	瑪瑙質岩		1面が平坦。3面に剥離面。
16	剥片	AC-13	1.5	1.1	1.0	1.32	瑪瑙質岩		2面が平坦。板状の形割剥片の一部か。
17	剥片	AC-13	1.4	1.4	0.6	1.46	瑪瑙質岩		右側以外非常に平坦に割られている。
18	剥片	AC-13	1.6	3.0	0.5	2.37	瑪瑙質岩		玉製作途中でできる剥片。
19	剥片	AC-13	1.9	1.5	0.7	1.37	瑪瑙質岩		上部に剥離のための鑿状工具痕あり。
20	剥片	AC-13	2.0	2.2	0.7	2.44	瑪瑙質岩		玉製作途中でできる剥片。
21	剥片	AC-13	1.7	2.4	0.6	2.35	瑪瑙質岩		玉製作途中でできる剥片。

遺物観察表

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）				石材	残存状況	特徴
			長さ	幅	厚さ	重量			
22	剥片	AC-13	1.9	0.8	0.3	0.44	珪質頁岩		玉製作途中でできる小剥片。
23	剥片	AC-13	0.9	1.6	0.4	0.87	珪質頁岩		右上に剥離のための敲状工具痕あり。
24	剥片	AC-13	1.1	1.8	0.3	0.51	珪質頁岩		上面平坦。玉製作途中でできる小剥片。
25	剥片	AC-13	1.1	1.7	0.2	0.95	珪質頁岩		上面平坦。玉製作途中でできる小剥片。

番号	器種	出土位置	計測値（cm・g）				材質	色	残存状況	特徴
			長さ	孔径	厚さ	重量				
1	ガラス小玉	AC-13	0.2	0.1	0.1		ガラス	シアン	完形	縦方向に筋、気泡が入る。
2	ガラス小玉	AC-13	0.4	0.1	0.2	0.04	ガラス	ブルシャンブルー	完形	気泡が内外面に多数あり。
3	ガラス小玉	AC-13	0.4	0.1	0.2	0.05	ガラス	ブルシャンブルー	完形	気泡が内外面に多数あり。
4	ガラス小玉	AC-13	0.3	0.1	0.3	0.02	ガラス	ターコイズブルー	1/2破損	縦方向に筋、気泡が入る。
5	ガラス小玉	AC-13	0.4	0.2	0.4	0.05	ガラス	ターコイズブルー	1/2破損	縦方向に筋、気泡が入る。
6	ガラス小玉	AC-14	0.2	0.1	0.2	0.02	ガラス	ターコイズブルー	1/4破損	縦方向に筋、気泡が入る。

遺構外遺物

番号	種類	銭貨名	国名	初鋳年	計測値（cm・g）				面郭	備考
					長さ	郭辺長	厚さ	重量	有無	
1	刷銭	貨泉	新	A.D.14	2.24	0.70 ×0.74	0.11	1.64	有	多少磨滅しているが、文字、郭は明瞭。下方端部に小さな穴が開けられている。

遺物の観察については以下の方々にご協力いただいた。
大西雅広　関根慎二　高井佳弘　深沢敦仁

自然科学分析

Ⅰ．柴崎熊野前遺跡の土層とテフラ

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

群馬県域の完新世に形成された火山灰土中には、浅間火山や榛名火山をはじめとする関東地方とその周辺に分布する火山のほか、九州地方の鬼界カルデラなど遠方の火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代の不明な土層や流路跡が認められた柴崎熊野前遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を合わせて行って、土層の層序を記載するとともに、示標テフラの層位を把握して、土層や流路跡の年代に関する資料を収集することになった。

2．土層の層序

調査の対象とした地点は、第１地点（水田遺構）、第４地点（水田、遺構を断って造られた平坦面）、第５地点（水田遺構畦畔部）、第７地点（11号土坑）、第８地点（水田遺構畦畔部）、第11地点（流路跡）の６地点である。以下、地点ごとに土層の層序について記載する。

（１）第１地点（水田遺構）

この地点では、下位より暗灰色粘質土(層厚２cm以上)、灰褐色軽石層(層厚４cm，軽石の最大径８mm)、暗灰褐色土(層厚12cm)、灰白色軽石混じり褐色土(層厚26cm，軽石の最大径３mm)、表土（層厚15cm）の連続が認められた(図２)。発掘調査では、灰褐色軽石層の直下から水田遺構が検出されている。この灰褐色軽石層は層相から1108（天仁元）年に浅間火山から噴出した浅間Ｂテフラ（As-B，新井，1979）に同定される。したがって水田遺構は、As-Bの降灰に伴って埋没した水田と考えられる。なお灰白色軽石は、岩相から1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A，荒牧，1968）に由来すると考えられる。

（２）第４地点（水田遺構を断って造られた平坦面）

この地点では、下位より黒灰色粘質土（層厚２cm以上）、褐色土（層厚17cm）、灰白色軽石に富む灰色土（層厚３cm，軽石の最大径３mm）、灰白色軽石混じり灰色土（層厚12cm，軽石の最大径３mm）、灰色作土（層厚42cm）の連続が認められた（図３）。灰白色軽石は、岩相からAs-Aに由来すると考えられる。

（３）第５地点（水田遺構畦畔部）

この地点では、下位より黒灰色粘質土（層厚３cm以上）、基底部に粗粒の軽石を含む黄灰褐色軽石層（層厚８cm，軽石の最大径９mm）、暗褐色砂質土（層厚８cm）、褐色土（層厚12cm）、褐灰色作土（層厚11cm）の連続が認められた（図４）。発掘調査では、黄灰褐色軽石層の直下から水田遺構が検出されている。この黄灰褐色軽石層は、層相からAs-Bに同定される。したがって水田遺構は、As-Bの降灰に伴って埋没した水田と考えられる。

（４）第７地点（11号土坑）

この遺構の覆土は、下位より亜円礫混じり黄白色土（層厚40cm以上）、黒灰色土（層厚21cm）、よく発泡した灰色軽石に富む暗褐色土（層厚８cm）、よく発泡した灰色軽石を含む黒褐色土（層厚28cm）、黄灰

褐色軽石層（層厚2cm以上）の連続が認められた（図5）。よく発泡した灰色軽石は、岩相から4世紀中葉に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C，新井，1979）に由来すると考えられる。またその上位の黄灰褐色軽石層は、層相からAs-Bに同定される。

（5）第8地点（水田遺構畦畔部）

ここでは、下位より黒色粘質土（層厚3cm以上）、基底部に粗粒の軽石を含むかすかに成層した黄灰褐色軽石層（層厚7cm，軽石の最大径9mm）、黒褐色砂質土（層厚4cm）、砂混じり暗灰色土（層厚38cm）、灰褐色土（層厚12cm）、灰白色軽石層（層厚6cm，軽石の最大径6mm）、灰色表土（層厚11cm）の連続が認められた（図6）。発掘調査では、黄灰褐色軽石層の直下から水田遺構が検出されている。この黄灰褐色軽石層は層相からAs-Bに同定される。したがって水田遺構は、As-Bの降灰に伴って埋没した水田と考えられる。なお灰白色軽石層は、層相からAs-Aに同定される。

（6）第11地点（流路跡）

流路跡を埋めた土層は、下位より黄白色礫混じり暗灰色土（層厚18cm）、黒泥層（層厚25cm）、桃灰色軽石層（層厚3cm，軽石の最大径4mm）、黒灰色粘質土（層厚12cm）、黄灰色細粒火山灰層および黄色礫混じり黒灰色土（層厚8cm，礫の最大径30mm）、黒灰色土（層厚20cm）、黄色礫混じり暗灰色土（層厚31cm）、黒灰色土（層厚3cm）、黒色土（層厚3cm）、黄灰色粗粒火山灰層（層厚6cm）、灰褐色砂質土（層厚18cm）、褐色表土（層厚33cm）からなる（図7）。

これらのうち、黄灰色粗粒火山灰層は、その層相からAs-Bに同定される。

3．テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

第11地点（流路跡）覆土中の桃灰色軽石層（試料番号17）および黄灰色細粒火山灰層（試料番号13'）さらに第10地点（16号溝）覆土中に認められた円磨された軽石（試料番号17）の起源を求めるために、テフラ検出分析を試みた。分析の手順は、次の通りである。

1）超音波洗浄装置により泥分を除去。

2）80℃で恒温乾燥。

3）実体顕微鏡下でテフラ粒子の特徴や量を観察。

（2）分析結果

テフラ検出分析の結果を、表1に示す。桃灰色軽石層（試料番号17）には、スポンジ状によく発泡した軽石（最大径6.3mm）がとくに多く認められた。斑晶には斜方輝石や単斜輝石が認められた。この軽石は、その特徴から4世紀初頭に浅間火山から噴出した浅間C軽石（As-C，新井，1979）に由来すると考えられる。したがって試料番号17の軽石層は、As-Cに同定される。

一方、その上位の黄灰色細粒火山灰層（試料番号13'）には、あまり発泡のよくない白色軽石（最大径1.4mm）が比較的多く含まれている。軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。このテフラは、層相や軽石の特徴などから、6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ層（Hr-FA，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に同定される。以上のことから、流路跡が埋没し始めたのは、As-C降灰前のことと推定される。

第10地点（16号溝覆土）に含まれる円磨された軽石（試料番号1）は白色で、発泡の程度はあまり良くない。また、その最大径は8.7mmである。この軽石の斑晶には、角閃石や斜方輝石が認められる。この軽石は、その特徴から6世紀初頭に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，新井，1979，坂口，

1986，早田，1989，町田・新井，1992）、あるいは6世紀中葉に榛名火山から噴出した榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，新井，1962，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）に由来する可能性が大きいと考えられる。とくに軽石が粗粒で円磨されていることなどから、これらのテフラの堆積に伴って発生した火山泥流堆積物に由来していると考えられる。

4．小結

柴崎熊野前遺跡において、地質調査とテフラ検出分析を合わせて行った。その結果、下位より浅間C軽石（As-C，4世紀中葉）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）、浅間Bテフラ（As-B，1108年）、浅間A軽石（As-A，1783年）を検出することができた。柴崎熊野前遺跡で検出された水田遺構は、As-Bにより直接覆われている。また、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）あるいは榛名二ツ岳伊香保テフラ（Hr-FP，6世紀中葉）起源の水流により円磨された軽石も検出された。

文献

新井房夫（1962）関東盆地北西部地域の第四紀編年．群馬大学紀要自然科学編，10，p.1-79.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no.53，p.41-52.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no.14，45p.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p.103-119.

早田　勉（1989）6世紀における榛名火山の2回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p.297-312.

表1　柴崎熊野前遺跡のテフラ検出分析結果

地点	試料	軽石の量	軽石の色調	軽石の最大径
11	13'	++	白	1.4
11	17	++++	灰白	6.3
10	1	−	白	8.7

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，−：認められない．最大径の単位は，mm.

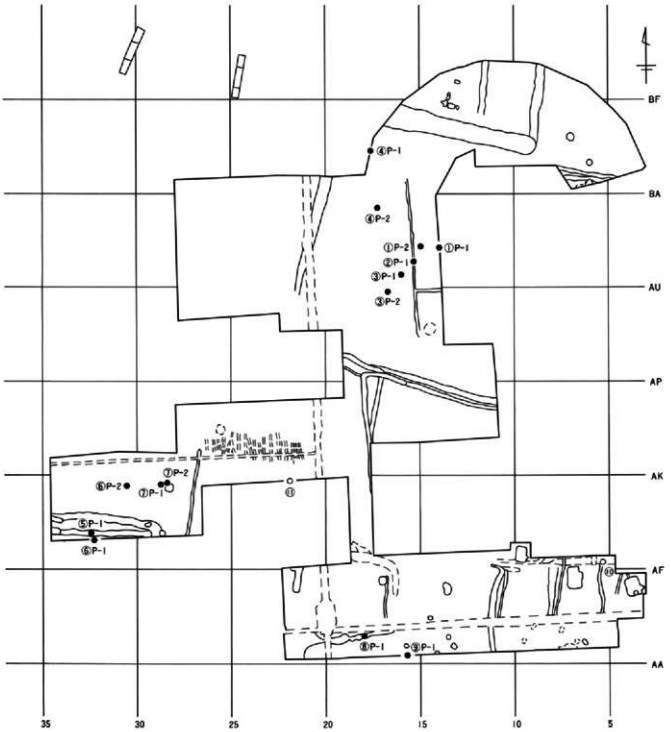


図1　自然科学分析試料採集位置図

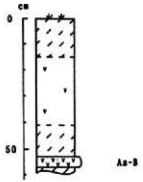


図2　第1地点の土層柱状図

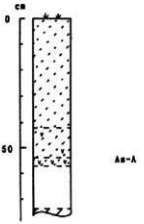


図3　第4地点の土層柱状図

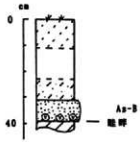


図4　第5地点の土層柱状図

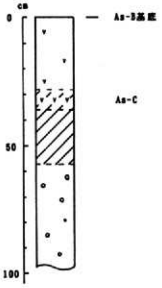


図5　第7地点(11号土坑)の土層柱状図

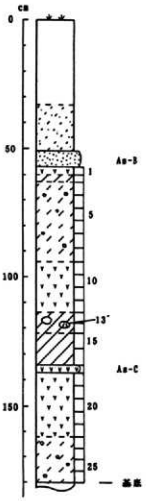


図7　第11地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

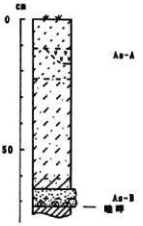


図6　第8地点の土層柱状図

II．柴崎熊野前遺跡における花粉分析

株式会社 古環境研究所

1．試料

試料は、第11地点のAs-B直下からAs-Cの下位層までの層準から採取された9点である。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

2．方法

花粉粒の分離抽出は、基本的には中村（1973）を参考にし、試料に以下の順で物理化学処理を施して行った。

1）5％水酸化カリウム溶液を加え15分間湯煎する。

2）水洗した後、0.5mmの篩で礫などの大きな粒子を取り除き、沈澱法を用いて砂粒の除去を行う。

3）25％フッ化水素酸溶液を加えて30分放置する。

4）水洗した後、氷酢酸によって脱水し、アセトリシス処理（無水酢酸9：1濃硫酸のエルドマン氏液を加え1分間湯煎）を施す。

5）再び氷酢酸を加えた後、水洗を行う。

6）沈渣に石炭酸フクシンを加えて染色を行い、グリセリンゼリーで封入しプレパラートを作製する。

以上の物理・化学の各処理間の水洗は、1500rpm、2分間の遠心分離を行った後、上澄みを捨てるという操作を3回繰り返して行った。

検鏡はプレパラート作製後直ちに、生物顕微鏡によって300～1000倍で行った。花粉の同定は、島倉(1973)および中村(1980)をアトラスとし、所有の現生標本との対比で行った。結果は同定レベルによって、科、亜科、属、亜属、節および種の階級で分類した。複数の分類群にまたがるものはハイフン(－)で結んで示した。なお、科・亜科や属の階級の分類群で一部が属や節に細分できる場合はそれらを別の分類群とした。

イネ属に関しては、中村（1974、1977）を参考にし、現生標本の表面模様・大きさ・孔・表層断面の特徴と対比して分類し、個体変化や類似種があることからイネ属型とした。

3．結果

（1）分類群

同定された分類群は、樹木花粉26、樹木花粉と草本花粉を含むもの2、草本花粉20、シダ植物胞子2形態の計50である。これらの学名と和名および粒数を表1に示し、主要な分類群を写真に示す。以下に出現した分類群を示す。

〔樹木花粉〕

マキ属、モミ属、トウヒ属、ツガ属、マツ属複維管束亜属、スギ、コウヤマキ、イチイ科－イヌガヤ科－ヒノキ科、クルミ属、サワグルミ、ハンノキ属、カバノキ属、クマシデ属－アサダ、クリーシイ属、ブナ属、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、ニレ属－ケヤキ、エノキ属－ムクノキ、サンショウ属、カエデ属、トチノキ、シナノキ属、モクセイ科、トネリコ属、ニワトコ属－ガマズミ属

〔樹木花粉と草本花粉を含むもの〕

クワ科－イラクサ科、マメ科

〔草本花粉〕

ガマ属－ミクリ属、サジオモダカ属、オモダカ属、イネ科、イネ属型、カヤツリグサ科、イボクサ、ミズアオイ属、タデ属サナエタデ節、ギシギシ属、アカザ科－ヒユ科、ナデシコ科、キンポウゲ属、アブラナ科、

ツリフネソウ属、セリ科、オミナエシ科、タンポポ亜科、キク亜科、ヨモギ属

〔シダ植物胞子〕

単条溝胞子、三条溝胞子

（2）花粉の出現状況

花粉・胞子群の出現傾向から次の4つの局地花粉帯が設定された（図1）。以下に、各花粉帯の特徴を示す。

1）SKP-Ⅰ帯（As-Cの下層、試料8～7）

樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が優占し、他は低率である。草本花粉ではヨモギ属、カヤツリグサ科、イネ科の出現率が高い。他にシダ植物単条溝胞子も多い。コナラ属コナラ亜属は上位に向かって増加し、ヨモギ属、イネ科、シダ植物単条溝胞子は減少傾向を示す。

2）SKP-Ⅱ帯（As-Cの上層、試料6、5）

樹木花粉ではコナラ属コナラ亜属が減少傾向を示し、コナラ属アカガシ亜属がやや増加する。草本花粉はイネ属型を含むイネ科の出現率が高くなり、カヤツリグサ科の出現率も高い。

3）SKP-Ⅲ帯（As-Bの下層、試料4、3）

樹木花粉ではクリ－シイ属が増加し、コナラ属アカガシ亜属もやや増加する。草本花粉ではイネ科の出現率が高く、ヨモギ属、カヤツリグサ科の出現率もやや高い。

4）SKP-Ⅳ帯（As-B直下層、試料2、1）

樹木花粉の占める割合は草本花粉よりかなり低くなり、コナラ属コナラ亜属、コナラ属アカガシ亜属、クリ－シイ属が主に出現する。草本花粉ではイネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属が優占し、タンポポ亜科、キク亜科が伴われる。

4．花粉分析から推定される植生と環境

浅間C軽石（As-C，4世紀中葉）の下層の堆積当時は、ヨモギ属、イネ科、シダ類などの草本が多く分布しており、周辺ではナラ林（コナラ属コナラ亜属）がしだいに増加したものと推定される。As-C直上層から椽名二ツ岳波川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）混層にかけては、イネ属型を含むイネ科の出現率が高くなるため、周辺で水田が拡大したと推定される。また、ナラ林（コナラ属コナラ亜属）が減少し、カシ林（コナラ属アカガシ亜属）がやや拡大したと考えられる。

その後、シイやカシの照葉樹林が拡大したと考えられるが、これは気候の温暖化を反映している可能性がある。また、イネ属型が減少するため、水田が減少したか土地利用が変化したことが考えられる。

浅間Bテフラ（As-B，1108年）直下層では、イネ科、カヤツリグサ科、ヨモギ属をはじめタンポポ亜科、キク亜科なども生育する草本の優勢な植生が分布していたものと推定される。

参考文献

中村純（1973）花粉分析．古今書院．p.82-110.

金原正明（1993）花粉分析法による古環境復原．新版古代の日本第10巻古代資料研究の方法．角川書店．p.248-262.

島倉巳三郎（1973）日本植物の花粉形態．大阪市立自然科学博物館収蔵目録第5集．60p.

中村純（1980）日本産花粉の標徴．大阪自然史博物館収蔵目録第13集．91p.

中村純（1974）イネ科花粉について、とくにイネ（Oryza sativa）を中心として．第四紀研究．13．p.187-193.

中村純（1977）稲作とイネ花粉．考古学と自然科学．第10号．p.21-30.

表1　柴崎熊野前遺跡における花粉分析結果

分類群		第11地点								
学名	和名	1	2	3	4	5	6	7	7'	8
Arboreal pollen	樹木花粉									
Podocarpus	マキ属					1			1	
Abies	モミ属				1	1	2	2	7	6	1
Picea	トウヒ属							1	1	1	1
Tsuga	ツガ属			1				1	2	2	3
Pinus subgen. Diploxylon	マツ属複維管束亜属						1	1	4	3	4
Cryptomeria japonica	スギ	3	7	9	3	7	5	16	9	2
Sciadopitys verticillata	コウヤマキ			1						
Taxaceae-Cephalotaxaceae-Cupressaceae	イチイ科-イヌガヤ科-ヒノキ科			6	1		4	6	5	1
Juglans	クルミ属			1		2	1	1		
Pterocarya rhoifolia	サワグルミ		1	1		1			1	2
Alnus	ハンノキ属	1	1	4	1	2	2	1	3	6
Betula	カバノキ属	7	2	6	6	3	3	1		3
Carpinus-Ostrya japonica	クマシデ属-アサダ			7	3	4	3	4	1	5
Castanea crenata-Castanopsis	クリ-シイ属	11	15	96	33	11	2	5	3	9
Fagus	ブナ属			2	2	9	1	1		1
Quercus subgen. Lepidobalanus	コナラ属コナラ亜属	28	32	37	36	41	136	180	144	73
Quercus subgen. Cyclobalanopsis	コナラ属アカガシ亜属	12	44	63	37	42	16	17	11	2
Ulmus-Zelkova serrata	ニレ属-ケヤキ		2	1		3	3	2	16	9
Celtis-Aphananthe aspera	エノキ属-ムクノキ			1	1	2	4	3	3	5
Zanthoxylum	サンショウ属						1			2
Acer	カエデ属			2	2	1				
Aesculus turbinata	トチノキ	2		2	1	1		1	1	7
Tilia	シナノキ属					1				
Elaeaceae	モクセイ科				1		1			
Fraxinus	トネリコ属				1					
Sambucus-Viburnum	ニワトコ属-ガマズミ属									2
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉									
Moraceae-Urticaceae	クワ科-イラクサ科		2	17	15	4	21	1		3
Leguminosae	マメ科						1	1	1	
Nonarboreal pollen	草本花粉									
Typha-Sparganium	ガマ属-ミクリ属					2	3	1		
Alisma	サジオモダカ属			1						
Sagittaria	オモダカ属			4	6	5				
Gramineae	イネ科	66	84	72	93	119	59	29	33	55
Oryza type	イネ属型			2	1	21	14			
Cyperaceae	カヤツリグサ科	50	77	28	27	131	121	87	101	62
Aneilema lenizak	イボクサ					1				
Monochoria	ミズアオイ属					1				
Polygonum sect. Persicaria	タデ属サナエタデ節	1				2	1	2		
Rumex	ギシギシ属					1				
Chenopodiaceae-Amaranthaceae	アカザ科-ヒユ科		1		1	2	2	1		
Caryophyllaceae	ナデシコ科				1	1	1			1
Ranunculus	キンポウゲ属					1				1
Cruciferae	アブラナ科	1	2	1	1		3		1	
Impatiens	ツリフネソウ属							1	1	1
Umbelliferae	セリ科		1		3	2		1	2	1
Valerianaceae	オミナエシ科							1		1
Lactucoideae	タンポポ亜科	12	23	15	8	1	2			4
Asteroideae	キク亜科	4	12	22	15	1	1	5	2	6
Artemisia	ヨモギ属	53	51	31	47	31	34	14	29	87
Fern spore	シダ植物胞子									
Monolete type spore	単条溝胞子	6	11	1	12	6	21	42	63	126
Trilete type spore	三条溝胞子	2	2		1	2	2	3	6	5
Arboreal pollen	樹木花粉	64	105	240	129	134	187	252	210	138
Arboreal・Nonarboreal pollen	樹木・草本花粉	0	2	17	15	4	22	2	1	3
Nonarboreal pollen	草本花粉	187	251	176	203	322	241	142	169	219
Total pollen	花粉総数	251	358	433	347	460	450	396	380	360
Unknown pollen	未同定花粉	3	2	2	3	3	1	2	1	0
Fern spore	シダ植物胞子	8	13	1	13	8	23	45	69	131

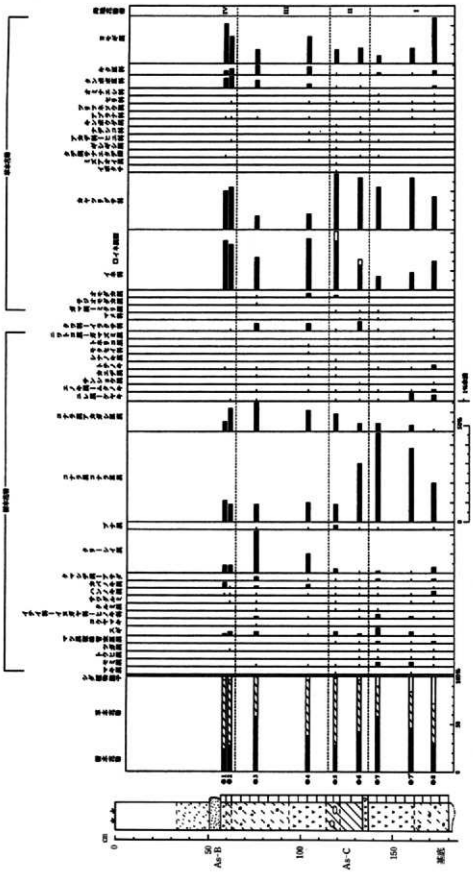
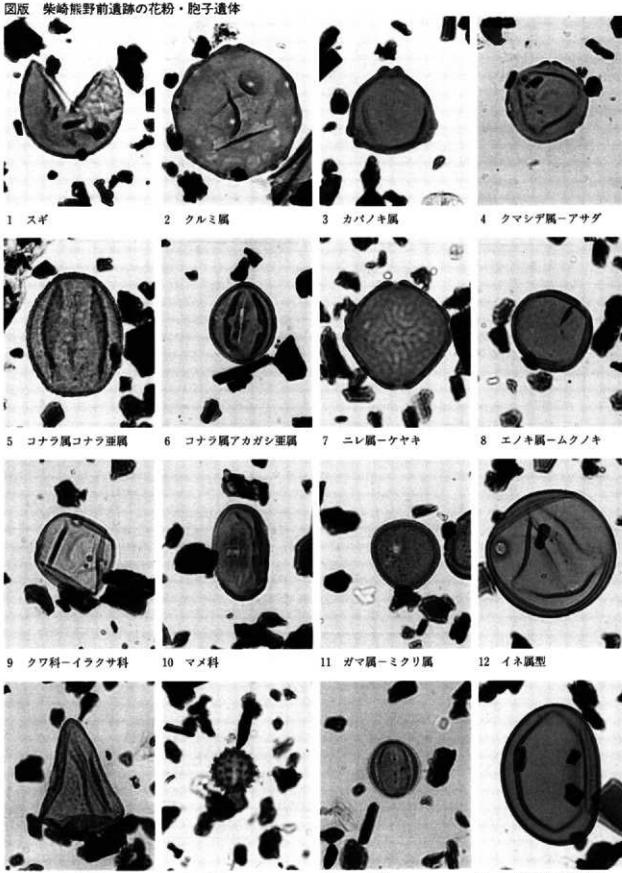


図１　柴崎熊野前遺跡第11地点における花粉組成図（花粉総数が基数）

図版　柴崎熊野前遺跡の花粉・胞子遺体



1　スギ　2　クルミ属　3　カバノキ属　4　クマシデ属－アサダ

5　コナラ属コナラ亜属　6　コナラ属アカガシ亜属　7　ニレ属－ケヤキ　8　エノキ属－ムクノキ

9　クワ科－イラクサ科　10　マメ科　11　ガマ属－ミクリ属　12　イネ属型

13　カヤツリグサ科　14　キク亜科　15　ヨモギ属　16　シダ植物単条溝胞子

45 μm

Ⅲ．柴崎熊野前遺跡における植物珪酸体（プラント・オパール）分析

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸（SiO_2）が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石（プラント・オパール）となって土壌中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている（杉山，1987）。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である（藤原・杉山，1984）。

柴崎熊野前遺跡の発掘調査では、As-B直下から水田遺構が検出された。ここでは、同遺構における稲作の検証を主目的として分析を行った。

2．試料

分析試料は、第1～第9および第11の10地点から計17点が採取された。試料採取箇所を分析結果の模式柱状図に示す。

3．分析法

プラント・オパールの抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法（藤原，1976）をもとに、次の手順で行った。

1）試料の絶乾（105℃・24時間）

2）試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加（直径約40μm・約0.02g）

※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量

3）電気炉灰化法による脱有機物処理

4）超音波による分散（300W・42KHz・10分間）

5）沈底法による微粒子（20μm以下）除去、乾燥

6）封入剤（オイキット）中に分散、プレパラート作成

7）検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来するプラント・オパールをおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数されたプラント・オパールとガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中のプラント・オパール個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数（機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位：10^{-5}g）をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。イネ（赤米）の換算係数は2.94、ヨシ属（ヨシ）は6.31、ススキ属（ススキ）は1.24、ネザサ節は0.48、クマザサ属（チシマザサ節・チマキザサ節）は0.75である。

4．分析結果

分析試料から検出された植物珪酸体の分類群は以下のとおりである。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1、表2および図1～図4に示した。主要な分類群について顕微鏡写真を示す。なお、第1～第9地点については水田跡（稲作跡）の検討が主目的であることから、同定および定量はイネ、ヒエ属型、ヨシ属、ススキ属型、タケ亜科（おもにネザサ節）の主要な5分類群に限定した。

〔イネ科〕

機動細胞由来：イネ、キビ族型、ジュズダマ属、ヨシ属、ススキ属型（ススキ属など）、ウシクサ族型

〔イネ科－タケ亜科〕

機動細胞由来：ネザサ節型（おもにメダケ属ネザサ節）、クマザサ属型（チシマザサ節やチマキザサ節など）、未分類等

〔イネ科－その他〕

表皮毛起源、棒状珪酸体（おもに結合組織細胞由来）、茎部起源、未分類等

5．考察

（1）稲作跡の検討

水田跡の検証や探査を行う場合、一般にイネのプラント・オパールが試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。ただし、群馬県内では密度が3,000個/gほどでも水田遺構が検出されていることから、ここでは判断の基準を3,000個/gとした。

1）第1、2、3、5、6、8、9地点（図1）

As-B直下層から採取された10試料について分析を行った。その結果、すべての試料からイネが検出された。密度は2,200～5,300個/g（平均約3,600個/g）と高い値である。したがって、これらの地点のAs-B直下層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

2）第4地点（図2）

As-Aの下層（試料1、2）について分析を行った。その結果、イネが3,000～3,100個/gと高い密度で検出された。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。

3）第7地点（図3）

As-C混層（試料1）とAs-C直下層（試料2）について分析を行った。その結果、As-C混層（試料1）からイネが検出された。ただし、密度が800個/gと低いことから、同層で稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も否定できない。

4）第11地点（図4）

Hr-FA混層（試料5）、As-C直上層（試料6）、As-C直下層（試料7）について分析を行った。その結果、Hr-FA混層（試料5）とAs-C直上層（試料6）からイネが検出された。このうち、Hr-FA混層（試料5）では密度が6,500個/gと高い値である。したがって、同層では稲作が行われていた可能性が高いと考えられる。As-C直上層（試料6）では密度が700個/gと低いことから、稲作が行われていた可能性は考えられるものの、上層もしくは他所からの混入の危険性も否定できない。

（2）堆積環境の推定

ヨシ属は比較的湿ったところに生育し、ススキ属やタケ亜科は比較的乾いたところに生育している。このことから、これらの植物の出現状況を検討することによって、堆積当時の環境（乾燥・湿潤）を推定することができる。おもな分類群の推定生産量（図の右側）によると、As-Cの上下層ではヨシ属が圧倒的に卓越しており、Hr-FA混層ではイネの増加に伴ってヨシ属が減少していることが分かる。

以上の結果から、As-C直下層の堆積当時は、ヨシ属などが繁茂する湿地の状況であったと考えられ、As-Cの堆積以降にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。なお、水田遺構が検出されたAs-B直下層でもヨシ属が比較的多く見られることから、水田雑草などとしてヨシ属が生育していたことも想定

される。

6．まとめ

水田遺構が検出された浅間Bテフラ（As-B，1108年）直下層からは、イネのプラント・オパールが多量に検出され、同遺構で稲作が行われていたことが分析的に検証された。また、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，6世紀初頭）混層や浅間A軽石（As-A，1783年）の下層などでも、稲作が行われていた可能性が認められた。浅間C軽石（As-C，4世紀中葉）直下層の堆積当時は、ヨシ属などが繁茂する湿地の状況であったと考えられ、As-Cの堆積以降にそこを利用して水田稲作が開始されたものと推定される。

参考文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点．植生史研究，第2号，p.27-37.

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究(1)－数種イネ科栽培植物の珪酸体標本と定量分析法－．考古学と自然科学，9，p.15-29.

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究(5)－プラント・オパール分析による水田址の探査－．考古学と自然科学，17，p.73-85.

表1　柴崎熊野前遺跡におけるプラント・オパール分析結果

検出密度（単位：×100個/g）

分類群 ＼ 試料	第11地点 5	6	7
イネ科			
イネ	65	7	
キビ族型	22	22	15
ジュズダマ属			22
ヨシ属	65	172	81
ススキ属型	14	30	
ウシクサ族型	29	75	37
タケ亜科			
ネザサ節型	22	22	
クマザサ属型		7	
未分類等	58	172	118
その他のイネ科			
表皮毛起源	29		15
棒状珪酸体	500	831	607
茎部起源		45	
未分類等	580	697	592
植物珪酸体総数	1385	2082	1488

おもな分類群の推定生産量（単位：kg/㎡·cm）

イネ	1.92	0.22	
ヨシ属	4.12	10.87	5.14
ススキ属型	0.18	0.37	
ネザサ節型	0.10	0.11	
クマザサ属型		0.06	

タケ亜科の比率（%）

ネザサ節型	100	66	
クマザサ属型		34	

表2　柴崎熊野前遺跡におけるプラント・オパール分析結果

※主要な分類群について計数

検出密度（単位：×100個/g）

	第1		第2	第3		第4		第5	第6		第7		第8	第9
	1	2	1	1	2	1	2	1	1	2	1	2	1	1
分類群 ＼ 試料	As-BF	As-BF	As-BF	As-BF	As-BF			As-BF	As-BF	As-BF	As-C混	As-CF	As-BF	As-BF
イネ	23	46	30	45	46	31	30	53	30	38	8		22	22
ヒエ属型	8	8	8								8			
ヨシ属		54	53	15	23		15	30	23	75	107	156	67	127
ススキ属型	68	31	30	15	23	23	15	15	15	23	30		7	7
タケ亜科	8	8	8	30	31	23	30	15	23	15	8		75	22

推定生産量（単位：kg/㎡·cm）

イネ	0.67	1.36	0.89	1.32	1.35	0.90	0.89	1.55	0.89	1.11	0.22		0.66	0.66
ヒエ属型	0.64	0.65	0.63								0.64			
ヨシ属		3.40	3.33	0.94	1.45		0.95	1.89	1.44	4.76	6.73	9.87	4.26	8.03
ススキ属型	0.85	0.38	0.37	0.18	0.28	0.28	0.19	0.19	0.19	0.28	0.38		0.09	0.09
タケ亜科	0.04	0.04	0.04	0.14	0.15	0.11	0.14	0.07	0.11	0.07	0.04		0.36	0.11

※試料の仮比重を1.0と仮定して算出。

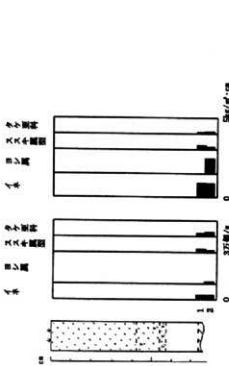


図1　発掘調査野阿遺跡As-B直下層におけるプラント・オパール分析結果

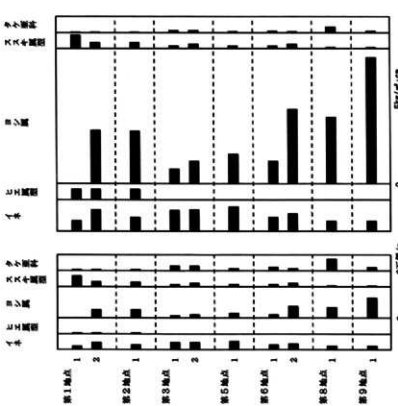


図3　発掘調査野阿遺跡第7地点(11号土坑)におけるプラント・オパール分析結果

図2　発掘調査野阿遺跡第4地点におけるプラント・オパール分析結果

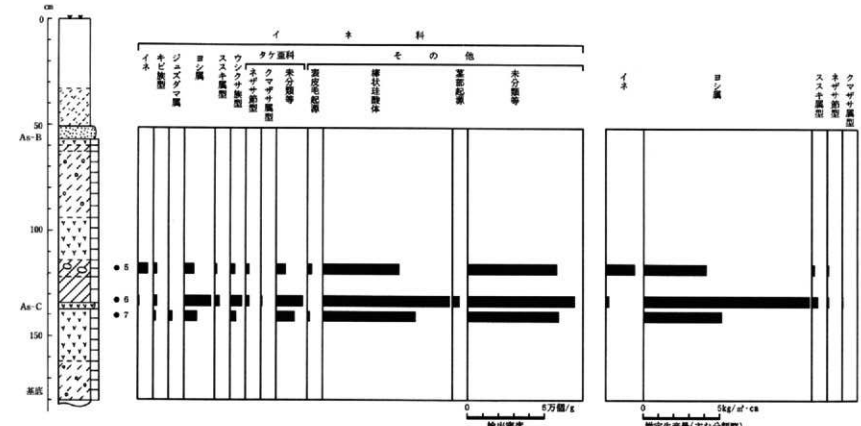
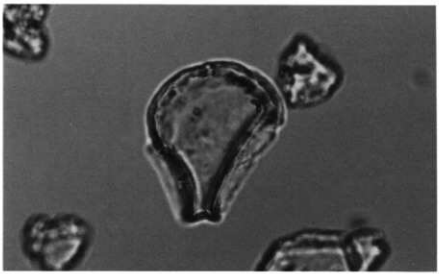


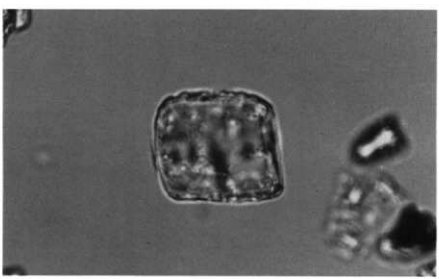
図4　柴崎熊野前遺跡第11地点におけるプラント・オパール分析結果

図版Ⅰ　植物珪酸体の顕微鏡写真（Ⅰ）

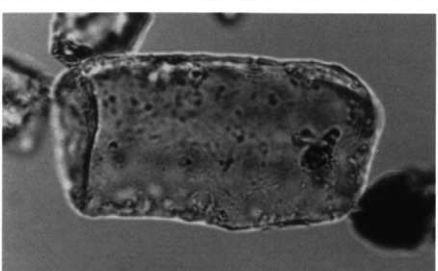
1
第4地点
イネ



2
第5地点
イネ（側面）



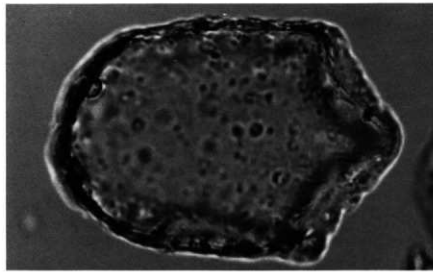
3
第1地点
ヒエ属型



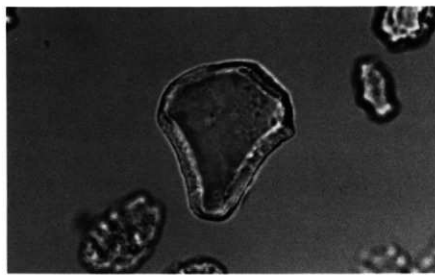
0　50　100 μm

図版２　植物珪酸体の顕微鏡写真（２）

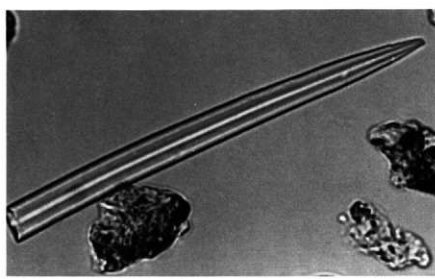
4
第６地点
ヨシ属



5
第９地点
ススキ属型



6
第４地点
海綿骨針



0　50　100 μm

Ⅳ．柴崎熊野前遺跡の７号火葬土壙から出土した炭化材

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

当遺跡は群馬県高崎市柴崎町に所在し、北部を流れる井野川と南部を流れる烏川に挟まれた標高約80mの低地に位置する。ここでは、７号火葬土壙から出土した炭化材の樹種を報告する。火葬土壙は中世の遺構であり、炭化材は火葬用の燃料材と考えられるものである。

樹種同定は、炭化材の３方向の破断面の組織を走査電子顕微鏡で観察し行った。横断面（木口）は炭化材を手で割りなるべく平滑な面を作り、接線断面（板目）と放射断面（柾目）は片刃の剃刀を方向に沿ってあて強くように割り面を出す。この３断面の試料を直径１cmの真鍮製試料台に両面テープで固定し、その周囲に導電性ペーストを塗る。試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製JSM　T-100型）で観察・写真撮影をした。

２．結果

試料の横断面は扇型で放射方向の径約3cmで幅が約6cmあり、長さは約10cmの炭化材であった。年輪は７年輪が数えられ、年輪幅は広く成長のよい枝または幹材の一部と思われる。

同定の結果、樹種はクリであった。

以下に同定の根拠となった走査電子顕微鏡での組織観察結果を記載する。

クリ　Castanea crenata Sieb. et Zucc.　ブナ科　図版　1a.-1c.(7号火葬土壙)

年輪の始めに中型～大型の管孔が密に配列し除々に径を減じてゆき、晩材では非常に小型の管孔が火炎状に配列する環孔材である。接線状の木部柔組織が顕著である。道管の壁孔は小型で交互状、穿孔は単一、内腔にはチロースがある。放射組織は単列同性である。以上の形質からクリと同定した。

クリは北海道西南部以南の暖帯から温帯下部の山野に普通の落葉高木である。果実は食用になり、材の加工はやや困難であるが狂いは少なく粘りがあり耐朽性にすぐれている。製鉄炉や窯燃料材、竪穴住居の電跡や集石遺構からもよく出土する樹種である。

３．まとめ

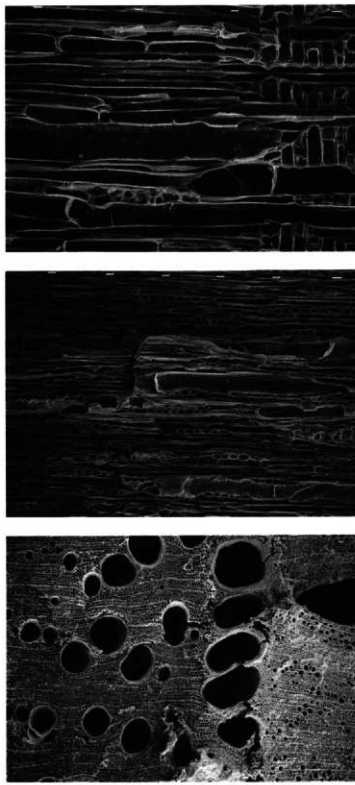
火葬土壙あるいは火葬墓は中世になると多くなり発掘事例も増える。しかし、火葬に使用された燃料材の樹種は残っていないことも多く、ほとんど調査されていないようである。統計的または地域ごとにまとめられた資料は知らないが、まとまった資料としては一の谷中世墳墓群遺跡が知られている。ここでは２９遺構から出土した８５点の炭化材の樹種同定が報告されている。ここでは、同じ遺構で複数の樹種が見いだされ、遺構毎に出土樹種に傾向があり、全体的には針葉樹ではヒノキ属と二葉松が多く、広葉樹ではカシ・シイ・コナラ属・クリ・ケヤキなど多種が報告されている。一の谷中世墳墓群遺跡ではクリは特に多用された傾向は見られないが、今までに当社で同定依頼を受けた中世の火葬墓の燃料材には必ずといっていいほどクリが含まれていた。当遺跡においても、１試料ではあるがやはりクリであった。

今後も、火葬遺構の形態で使用樹種が異なっていないか、地域により使用樹種が異なっていたかなど、明らかにする資料の蓄積が必要と思われる。

参考文献

松谷暁子、1993、一の谷中世墳墓群遺跡出土炭化材の樹種、505-514、「一の谷中世墳墓群遺跡」、磐田市教育委員会。

図版　柴崎熊野前遺跡の７号火葬土壙の炭化材



１ａ．クリ（横断面）
７号火葬土壙　bar:0.5mm

１ｂ．同（接線断面）　bar:0.1mm

１ｃ．同（放射断面）　bar:0.1mm

V．柴崎熊野前遺跡出土木製品の樹種同定

松葉礼子（パレオ・ラボ）

1．はじめに

群馬県高崎市柴崎町にある柴崎熊野前遺跡から出土した大足の樹種同定計13点を行った。これらの遺物はいずれも同じ大足の部材である。これらの樹種を明らかにすることで、遺物の性格を明らかにする一端となすことを目的として調査した。

2．方法と記載

同定には、木製品から直接片歯剃刀を用いて、木材組織切片を横断面（木口と同義・写真図版ａ）、接線断面（板目と同義・写真図版ｂ）、放射断面（柾目と同義・写真図版ｃ）の３方向作成した。これらの切片は、ガムクロラールにて封入し、永久標本とした。樹種の同定は、これらの標本を光学顕微鏡下で観察し、原生標本との比較により樹種を決定した。これらの内、各分類群を代表させる標本については写真図版を添付し、同定の証拠とするとともに同定根拠を後述する。結果は、表１ 柴崎熊野前遺跡の樹種同定結果に示す。なお、作成した木材組織プレパラートは、 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団で保管されている。

同定根拠

ケヤキ　Zelkova serrata（Thunb.）Makino　ULMACEAE　　写真図版1a～1c

年輪の始めに大型で丸い管孔が一列に並ぶ環孔材。晩材部で、薄壁の多角形の小道管が多数集合して接線方向～斜め接線方向に配列する。道管穿孔は単一、小道管内部には螺旋肥厚を持つ。木部柔組織は、周囲状～連合翼状を呈し、放射組織は１～８列程度の異性、その上下端は時に大きめの結晶細胞が見られる。

以上の形質により、ニレ科のケヤキの材と同定した。ケヤキは、本州～九州の暖帯～温帯の谷あい、斜面などの適潤な肥沃地に広く分布する落葉高木である。

アカメガシワ Mallotus japonicus（Thunb.）Muell. Arg.　EUPHORBIACEAE　　写真図版2a～2c

年輪の始めに厚壁で大型の丸い道管が、単独または放射方向に複合して並ぶ環孔材。晩材部では、そこから順次径を減じた厚壁の小管孔が、放射方向に一列に並んで散在する散孔材。道管の穿孔は単一。放射組織は単列異性で、構成細胞が大きい。

以上の形質により、トウダイグサ科のアカメガシワの材と同定した。アカメガシワは、宮城県・秋田県～琉球の暖地の平野や山野に普通に生える落葉高木である。

トネリコ属　Fraxinus sp.　OLEACEAE　　写真図版3a～3c

大型の道管が、年輪の始めに並ぶ環孔材で、晩材部では厚壁の小型の管孔が単独あるいは放射方向に複合して散在する。木部柔組織は周囲状あるいは連合翼状に分布し、道管の穿孔は単一。放射組織は同性で、１～３細胞幅。

以上の形質により、モクセイ科のトネリコ属の材と同定された。トネリコ属には、９種が含まれ、琉球に分布するシマトネリコを除けば落葉高木～小高木である。

3．考察

今回調べた大足の樹種は、アカメガシワ、ケヤキ、トネリコ属の3種類で構成されていた。アカメガシワは、枠の部分を構成しており、ケヤキ、トネリコ属はその他の部分を構成している（図1）。

いずれの樹種も高木になる樹種である。しかし、材質的には差違があり、アカメガシワの材質は、やや軽軟で木理が粗いのに対し、トネリコ属の材は堅硬で強靱、柔曲性に富み、ケヤキの材質も堅硬で強靱、弾力性が有り、耐腐保存性が良く、水湿に強い性質がある。材質で見ると、曲げ等の直接的に力のかかる部位に曲げに強い木材を用いている。

3種類に樹種が限定されたことは、本製品を製作に当たって何らかの樹種選択が加えられたことを意味しているが、逆に単一の樹種に限定する要因も無かった事も示している。大足の分析事例は、大阪府の友井東遺跡（弥生後期）スギ・ヒノキ？が、福岡市の拾六町ツイジ遺跡（奈良～鎌倉）で、モミ属、スギ、ヒノキ、シイ、ヤマグワ等の分析結果が報告されているが、これらの結果では針葉樹が多く利用され本遺跡の傾向とは異なる（島地・伊東1988）。時代、地理条件も異なり、これらと単純に比較することはできない。

表1　柴崎熊野前遺跡の樹種同定結果

製品番号	樹種	製品名	年代
実測1	アカメガシワ	大足	古墳時代
実測2	アカメガシワ	大足	古墳時代
実測3	ケヤキ	大足	古墳時代
実測4	トネリコ属	大足	古墳時代
実測5	トネリコ属	大足	古墳時代
実測6	トネリコ属	大足	古墳時代
実測7	ケヤキ	大足	古墳時代
実測8	トネリコ属	大足	古墳時代
実測9	トネリコ属	大足	古墳時代
実測10	不明(トネリコ属?)	大足	古墳時代
実測11	トネリコ属	大足	古墳時代
実測12	ケヤキ	大足	古墳時代
実測13	ケヤキ	大足	古墳時代

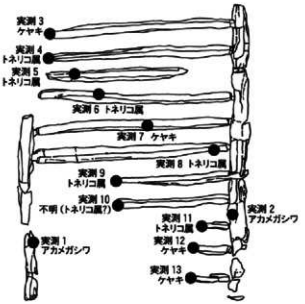
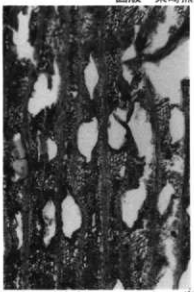


図1　大足の部位別樹種同定結果

引用文献

島地 謙・伊東 隆夫・林 昭三・鈴木 三男・光谷 拓実・布谷知夫・能城 修一，1988，日本の遺跡出土木製品総覧，296pp，雄山閣，東京．

図版　柴崎熊野前遺跡出土木材顕微鏡写真　Bar:



1 a　ケヤキ　bar: 1 mm　実測 7

1 b　同　bar:0.4mm

1 c　同　bar:0.1mm

2 a　アカメガシワ　bar: 1 mm　実測 1

2 b　同　bar:0.4mm

2 c　同　bar:0.1mm

3 a　トネリコ属　bar: 1 mm　実測 9

3 b　同　bar:0.4mm

3 c　同　bar:0.1mm

柴崎熊野前遺跡

写真図版

調査区より北を望む

調査区より西を望む

調査区より東を望む

遺跡全景

1号住居遺物出土状況（西より）

1号住居全景（西より）

1号住居掘り方（西より）

1号住居竈（西より）

1号住居貯蔵穴遺物出土状況（西より）

2号住居全景（西より）

2号住居遺物出土状況（西より）

2号住居遺物出土状況（南東より）

2号住居掘り方（西より）

2号住居土層断面（南より）

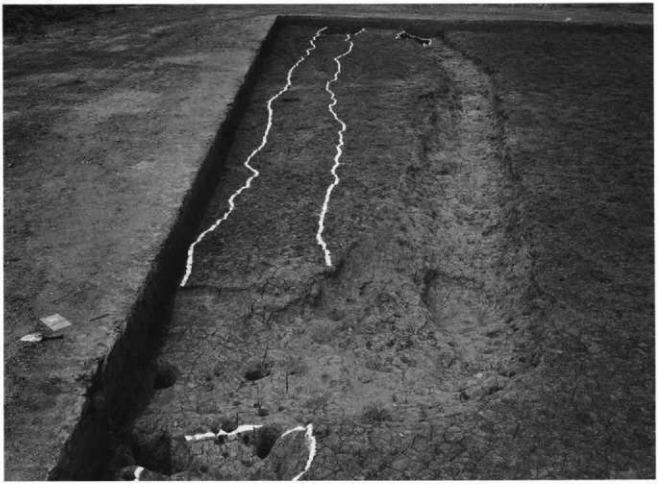
3号住居全景（西より）

3号住居遺物出土状況（南より）

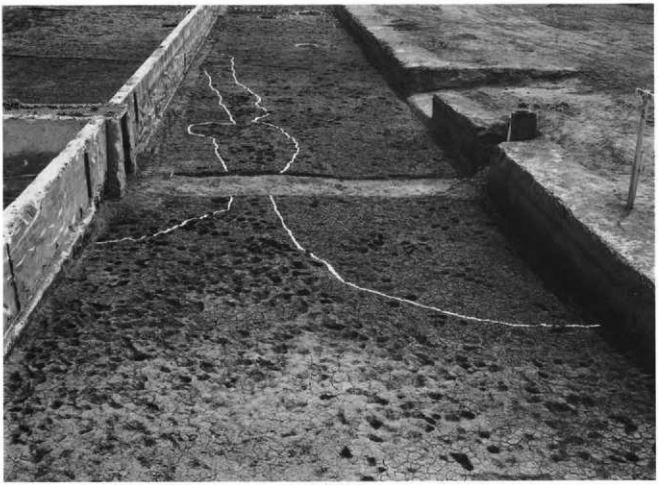
3号住居掘り方（西より）

3号住居竈（西より）

3号住居竈掘り方（西より）



2号畦（西より）



3号畦（西より）

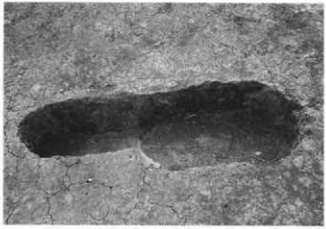
畠（北西より）

灰撒き穴（東より）

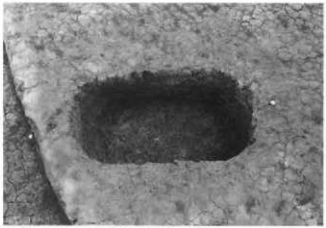
1号土坑（西より）

2号土坑（北より）

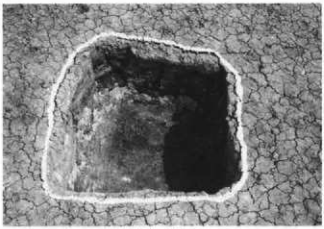
7号土坑配石状況（東より）



28・29号土坑（西より）

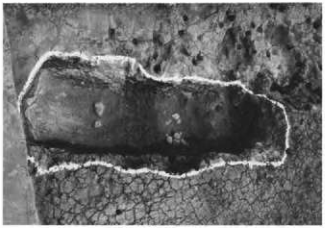


4号土坑（北東より）



11号土坑（南より）

12号土坑（西より）



15号土坑（西より）

14号土坑（南東より）

26号土坑（南より）

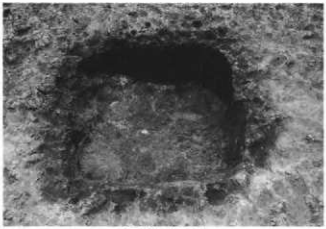
16号土坑（南より）

17号土坑（南より）

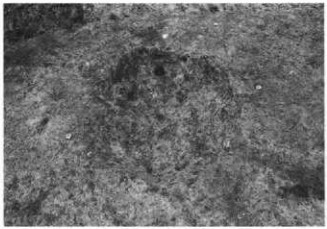
18号土坑（南より）

21号土坑（南より）

22号土坑（西より）



23号土坑（北より）



30号土坑（南より）

30号土坑遺物出土状況（南より）

1・2号溝（西より）

3号溝（北より）

3・4号溝（西より）

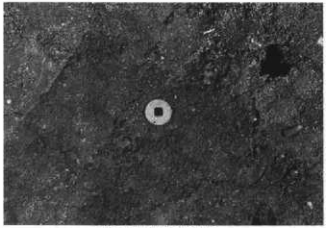
4号溝土層断面（南東より）

8・10号溝土層断面（西より）

12号溝（南より）

14・15・16号溝（南より）

17・18号溝（南より）



貨象出土状況（西より）

19・20号溝（南より）

24・25号溝（南より）

24・25号溝（南東より）

25号溝土層断面（南より）

23号溝全景（北東より）

22・23号溝（東より）

22号溝全景（南西より）

22号溝遺物出土状況（南東より）

22号溝遺物出土状況（北より）

22号溝器台出土状況（東より）

22号溝完掘状態（北より）

22号溝土層断面（北より）

23号溝西側遺物出土状況（北より）

23号溝南東側遺物出土状況（東より）

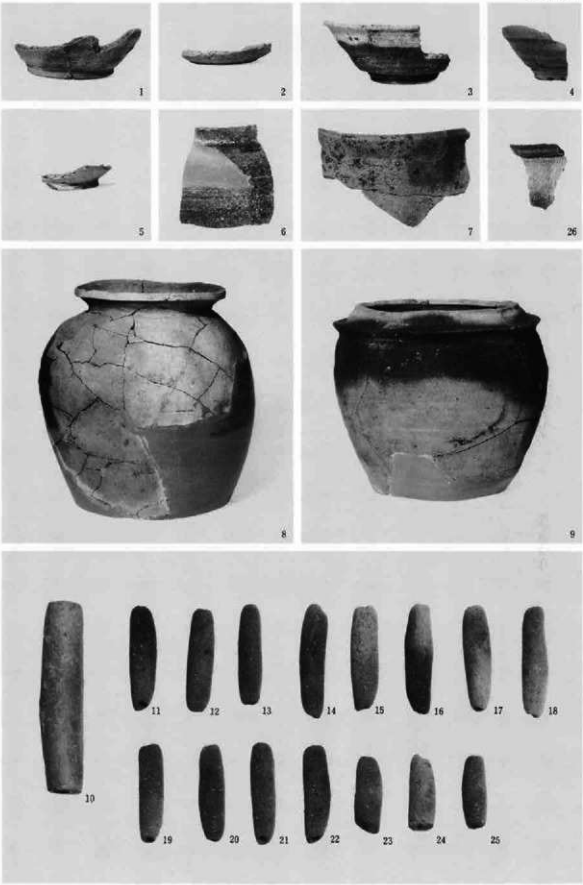
23号溝北西側木製品出土状況（東より）

23号溝北東側勾玉出土状況（南より）

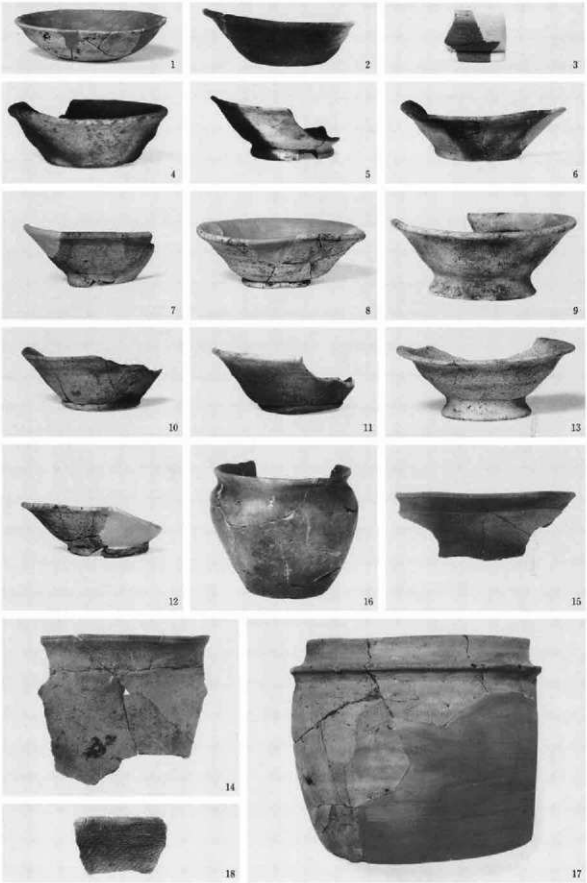
23号溝北東側管玉出土状況（南より）

23号溝東側土器出土状況（北より）

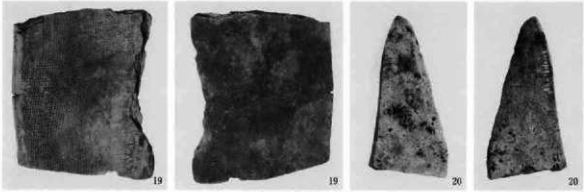
23号溝東側土器出土状況（西より）



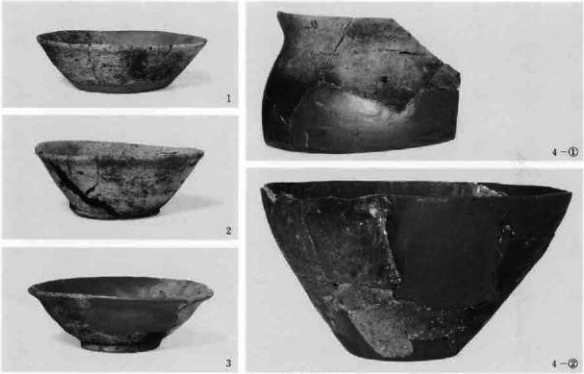
1号住居出土遺物



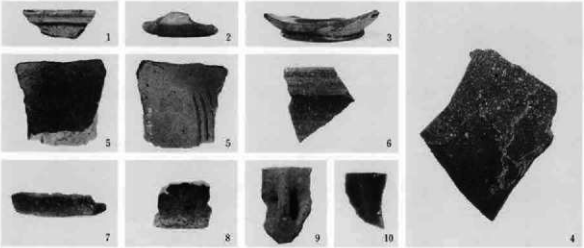
2号住居出土遺物（1）



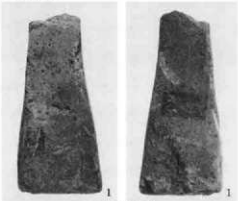
2号住居出土遺物（2）



3号住居出土遺物

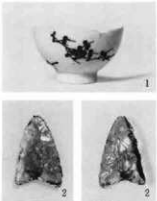


4号溝出土遺物

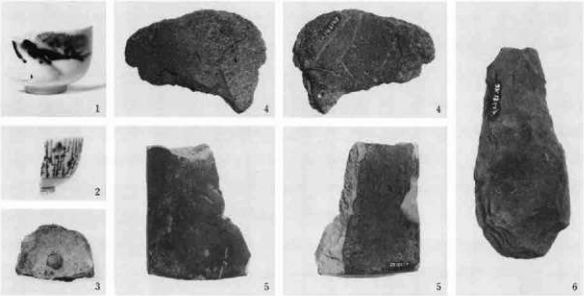


7号溝出土遺物

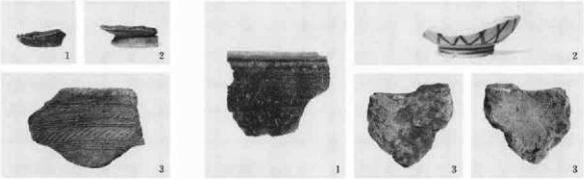
8号溝出土遺物



10号溝出土遺物



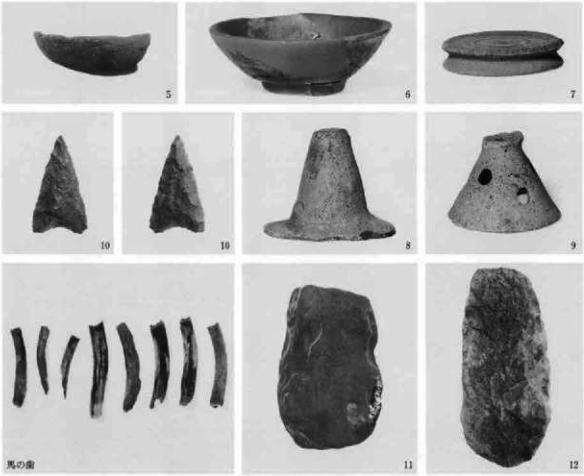
13号溝出土遺物



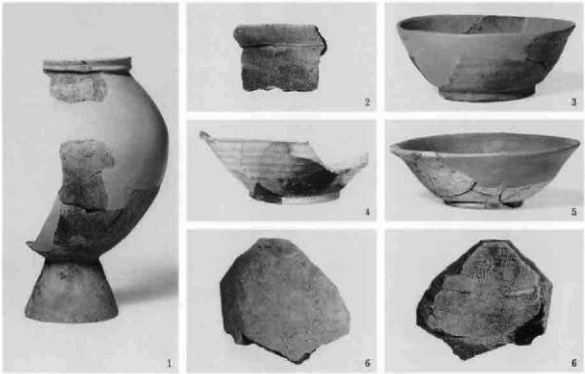
18号溝出土遺物

20号溝出土遺物

24号溝出土遺物（1）



24号溝出土遺物（2）



25号溝出土遺物

1

2

5

3

4

6

7

8

9

10

11

12

13

22号溝出土遺物（1）

14

15

16

17

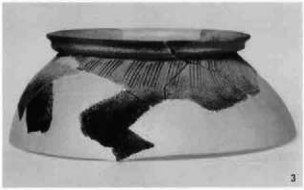
18

19

22号溝出土遺物（2）

1

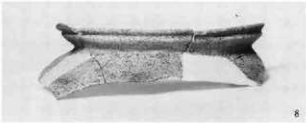
2－①


3

2－②

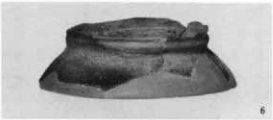
23号溝東側出土遺物（1）

4


8

5

9


6

7

10－①

11

10－②

12

13

23号溝東側出土遺物（2）

14

17

15

16

18

20

19

21

22

23

24

25

26

26

23号溝東側出土遺物（3）

27

28

29

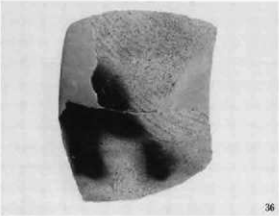
30

31

32

33

34


36

35

23号溝東側出土遺物（4）

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

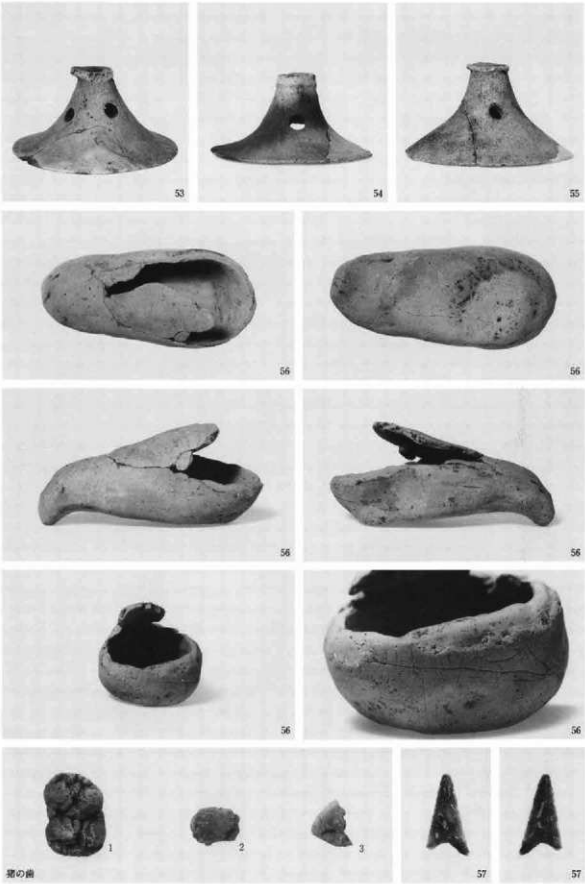
49

50

51

52

23号溝東側出土遺物（5）



23号溝東側出土遺物（6）

23号溝西側出土遺物（1）

11

12

13

14

15

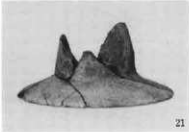
16

17

19

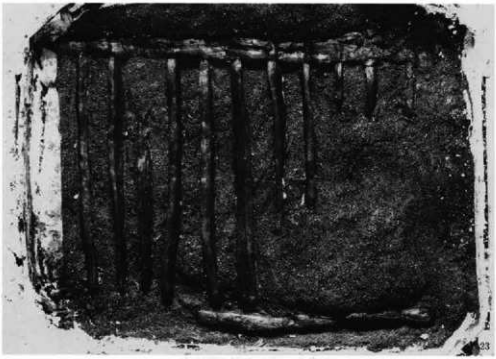
18

20

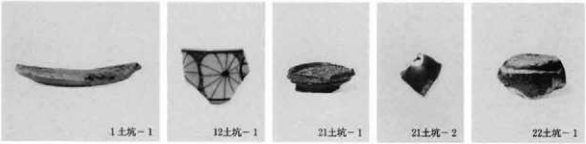

21

22

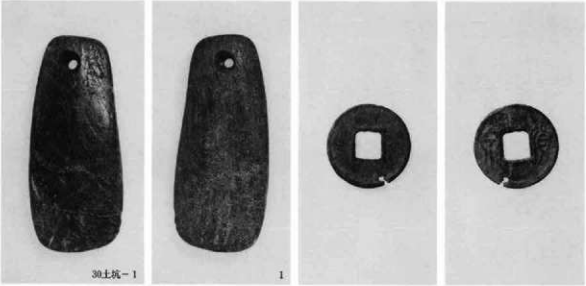
23号溝西側出土遺物（2）



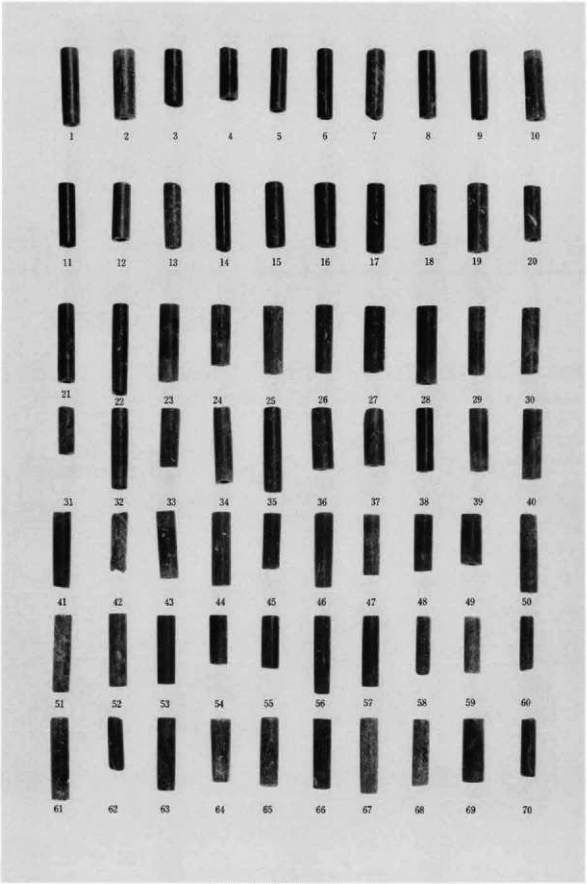
23号溝西側出土遺物　木製品



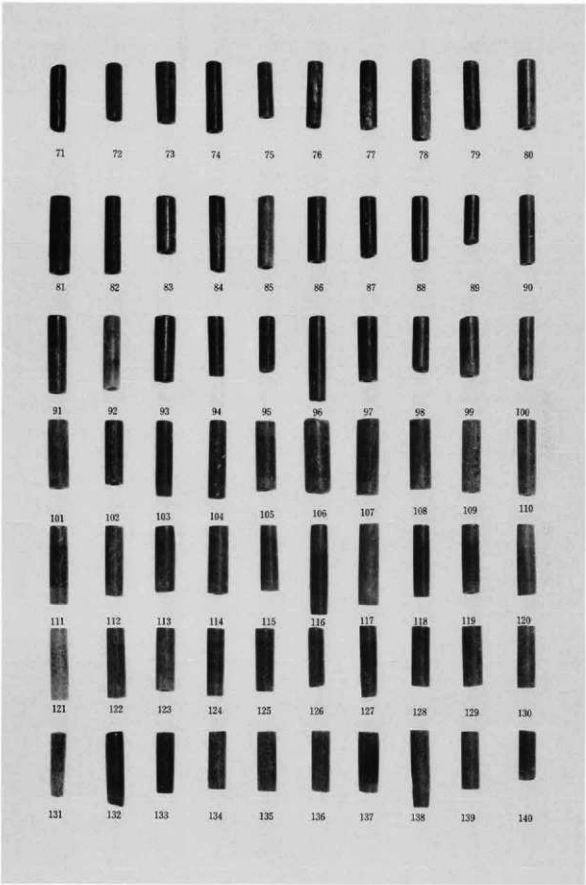
土坑出土遺物（1）



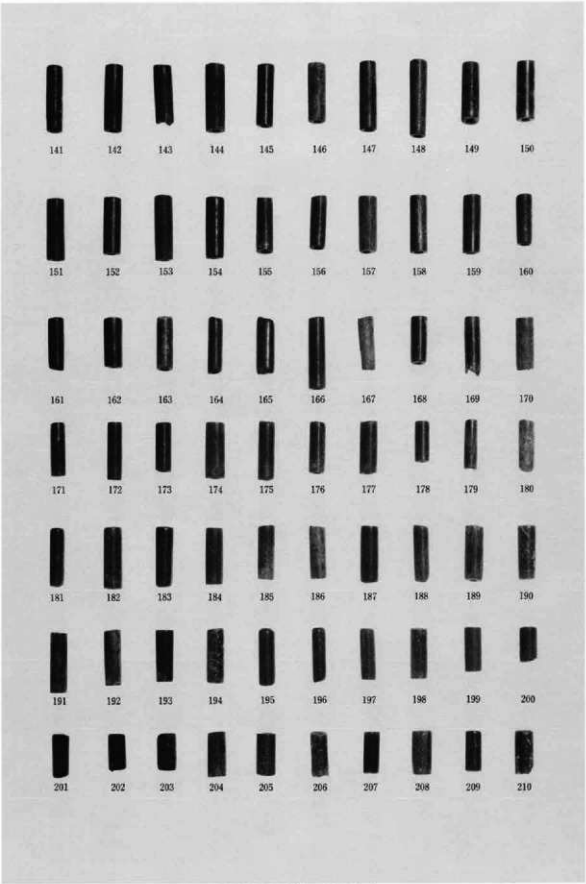
土坑出土遺物（2）　　遺構外出土遺物



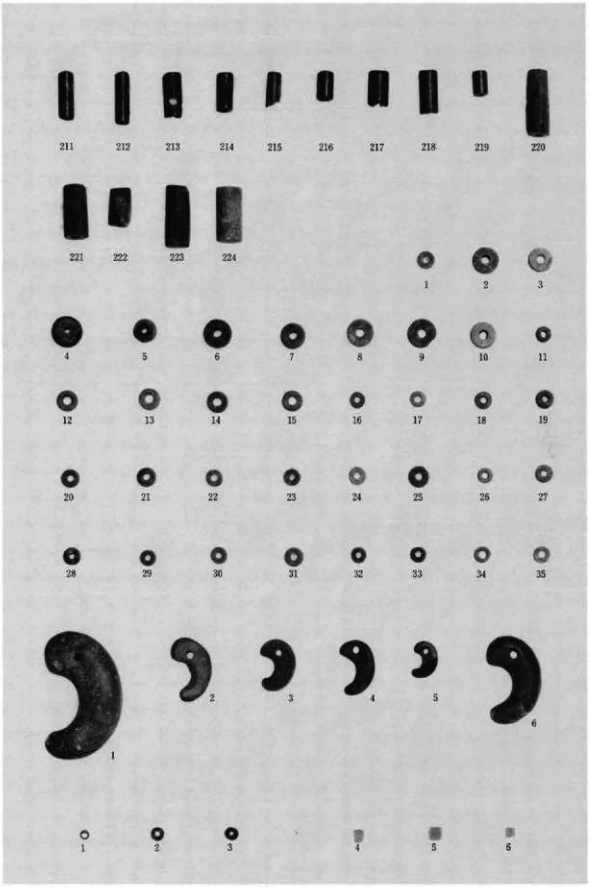
23号溝東側出土遺物　石製品（1）



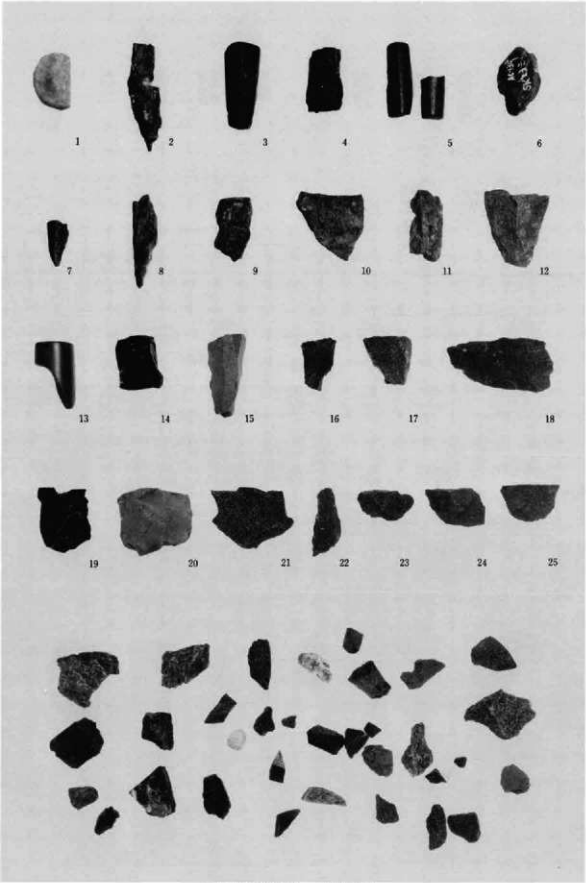
23号溝東側出土遺物　石製品（2）



23号溝東側出土遺物　石製品（3）



23号溝東側出土遺物　石製品（4）、ガラス製品



23号溝東側出土遺物　石製品（5）

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
発掘調査報告第233集

柴崎熊野前遺跡

県立高崎高等養護学校建設工事に
伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成10年3月20日　印刷
平成10年3月25日　発行

編集／財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
〒377-8555　勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

発行／群馬県考古資料普及会
〒377-8555　勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2
電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社

付図　柴崎熊野前遺跡遺構全体図